



＜スポーツによるグローバルコンテンツ創出事業：アーバンスポーツツーリズム＞

アーバンスポーツツーリズム推進による 新たな地域活性化モデル創出のための実証実験 事業報告書

一般社団法人さいたまスポーツコミッション



◆ 目次

1. 事業概要	2	8. 地域特有の資源を活かす工夫や地域との連携	
2. 実施体制	3	や地域住民へも活用できる工夫点	33
3. 現状分析	4	9. 将来的に「グローバルコンテンツ」になる得るため	
4. 目標設定	14	の工夫点	36
5. ターゲット設定	15	10. ポスト（With）コロナを意識した	
6. 実施内容	17	取り組み事項	37
7. 新型コロナウイルス感染防止対策について	32	11. 効果検証	38
		12. 次年度以降の自走化に向けた展開	50
		13. 終わりに	65
		【別紙】 参考資料	67



1. 事業概要

◆ 事業の概要

概 要	さいたま市において、子育て世代の親子を対象として、以下の2つのテーマについて、コロナ禍におけるアーバンスポーツを活用した事業を実施した。		
	A	「アーバンスポーツ振興」を目的としたサステナブルツーリズムの推進	
	B	「新たなツーリズムコンテンツ創出」を目的としたマイクロツーリズムの推進	
目 的	◆ <u>アーバンスポーツツーリズムにおける新たなグローバルコンテンツを創出</u> ◆ <u>東京2020大会後のレガシー創出</u> ◆ <u>将来的なインバウンド獲得に向けた取り組みにつなげる</u>		
内 容	2つのテーマごとにアーバンスポーツを活用した以下の事業を実施し、参加者へのアンケート調査を行うことで、本事業の効果及び継続性についての検証を行った。		
	A	【A-1】体験イベントの開催	【A-2】動画コンテンツの配信
	B	【B-1】モニターツアーの実施	【B-2】SNSによる情報発信

◆ 「サステナブルツーリズム」とは

“サステナブルツーリズム” = 旅行先の文化や環境を第一に考える旅行

◆ SDGs「3.すべての人に健康と福祉を」／「11.住み続けられるまちづくりを」
 アーバンスポーツは「ひとりで・自由に・手軽に」楽しむことができるスポーツであることから、あらゆる人たちが実施できるスポーツ種目である。そのため、アーバンスポーツの振興は、より多くの人たちの運動機会を確保するという意味で非常にサステナブルな取組であると言える。

一方で、アーバンスポーツは、近年、一部のプレイヤーのモラルの欠如により、プレイヤーのマナー問題が注目を集めてしまっている。そのため、アーバンスポーツツーリズムを推進するうえで、積極的に参加者のマナー啓発に努めるなど、地域の生活を守る意識を持つことが非常に重要である。

本事業では将来的なグローバルコンテンツが消費を重視する単なるツーリズムを勧奨するものとならないよう、まずはアーバンスポーツの振興によるサステナブルな取組を重視することで、市民生活とアーバンスポーツの共存を目指す。

◆ 「マイクロツーリズム」とは

“マイクロツーリズム” = 自宅から60分圏内を目的地とする旅行

◆ コロナ禍における「観光」と「感染症防止対策」の両立
 マイクロツーリズムにおいては、「自宅から60分圏域」が目的地となることから、長距離の移動はなく、目的地によっては県内での移動のみに留まることが可能。感染症防止の観点から長距離の移動を伴う観光には自粛ムードが漂い、スポーツツーリズムにおいても、数多くの全国大会や合宿等が中止となっている。また、Withコロナ期及びアフターコロナ期においては、長距離・長時間の観光よりも、短距離・短時間の観光から需要が回復すると予測されている。そのため、本事業では、コロナ禍のいま、アーバンスポーツを活用したマイクロツーリズムについて、ツーリズムコンテンツとしての集客力や地域経済への影響等を明らかにすることで、感染症防止対策を講じながら、地域経済の活性化を目指す新たなツーリズムの形を確立し、併せて、将来的なグローバルコンテンツとしての発展可能性を模索していく。

2. 実施体制

◆ プロジェクト全体の実施体制

プロジェクト実施体制

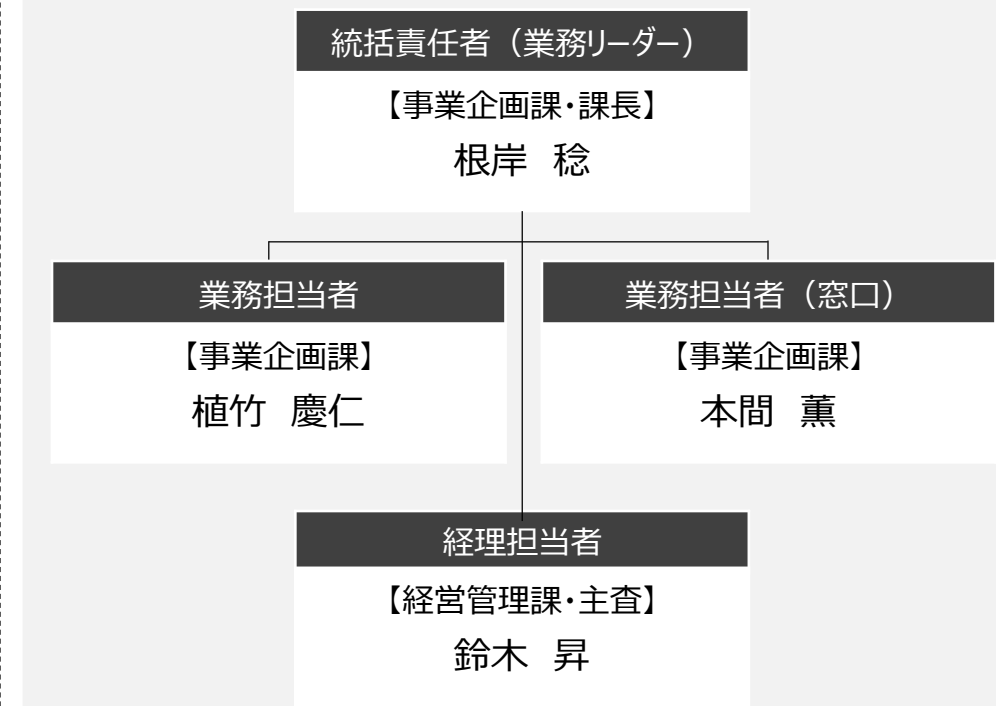


プロジェクト外部連携団体



◆ 当法人の実施体制

プロジェクトチーム



◆ 本実施体制のメリット

- ① 当法人を含めアーバンスポーツ分野及びスポーツ関連業務における豊富な実績に基づく円滑な事業推進が可能であること。
- ② CHIMERA Unionに代表されるアーバンスポーツツーリズムコンテンツ創出の具体的ノウハウを活用した事業推進が可能であること。
- ③ 当法人及びさいたま市が有する地域企業・団体・住民等と幅広いネットワークを活用した地域性を重視した事業推進が可能であること。
- ④ 地域の価値向上のためWithコロナ期、アフターコロナ期において「ニューノーマル」を意識した取り組みとなるように様々な知見を有する団体と連携していること。

3. 現状分析

◆ 本事業にて取り組みたい課題の整理

「アーバンスポーツツーリズム」を推進するうえでの「現状」と「本事業にて取り組みたい課題」を3つに分けて考察する。

① 「 <u>アーバンスポーツ振興</u> 」に係る課題	② 「 <u>さいたま市におけるツーリズム</u> 」に係る課題	③ 「 <u>新型コロナウイルス感染症の流行</u> 」に係る課題
＜現状の考察＞ スポーツ庁が主催する「アーバンスポーツツーリズム研究会」の「アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理」のなかで、『<u>アーバンスポーツツーリズムを推進する前提として、まず、アーバンスポーツの普及推進が重要と考えられる</u>』という意見が述べられているように、アーバンスポーツは東京2020大会での正式種目化を契機として注目を集める一方で、トラディショナルスポーツと比較すると、競技としては発展途上な時期にあり、競技人口の少なさや競技者のマナー問題など、競技としての課題が数多く提唱されている。	＜現状の考察＞ スポーツ庁が主催する「アーバンスポーツツーリズム研究会」の「アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理」のなかで、『<u>現状では、アーバンスポーツ自体の普及拡大に向けた取組は始動段階にあり、これをツーリズムに展開させるところにまでは至っていない</u>』という意見が述べられているように、アーバンスポーツをツーリズムとして昇華させるためには誘客ターゲットの明確化やアーバンスポーツに対する需要データの把握などが提唱されている。	＜現状の考察＞ 2020年当初より新型コロナウイルス感染症の国内感染者数が増加したことで、2020年4月には「7都道府県」を対象に「緊急事態宣言」が発令される事態となった。2022年を迎えてもなお、変異株等の出現により、世界の感染者数は留まるところを知らず、全世界でスポーツ関連イベントの開催自粛や旅行及び外出等の行動制限措置が取られている。国内においても、新型コロナの影響により、人々の運動機会は失われ、ツーリズム関連産業も、大きく後退せざるを得ない状況となってしまった。
＜課 題＞	＜課 題＞	＜課 題＞
【①-1】競技人口が少ない	【②-1】宿泊率が低い・観光入込客数の底上げ	【③-1】コロナ禍で中学生の運動機会が喪失
【①-2】子育て世代のスポーツ実施率が低い	【②-2】訪日外国人が埼玉県まで来ない	【③-2】コロナ禍で市内の観光入込客数が減少
【①-3】五輪レガシーの意識醸成が足りない	【②-3】観光地としての魅力不足	
【①-4】アーバンスポーツのマナー問題		

【①-1】競技人口が少ない

さいたま市内で「アーバンスポーツツーリズム」を推進するにあたり、当市におけるアーバンスポーツ競技の普及の現状を考察する。

アーバンスポーツの「競技としての課題」のなかでも「競技人口の少なさ」は最たるものであると考えられてきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行とともに、チームスポーツ全般が活動自粛を求められたことで、「ひとりで自由に手軽に」楽しむことができ競技特性を持つアーバンスポーツは、人々のニューノーマルなライフスタイルに適していたことから、大きく注目を集めることになる。全国各地のパーク利用者が増加するなど、東京2020大会開催を前に、新型コロナの感染拡大が、想定以上の競技人口の増加を生み出したと考えられている。

また、そのような現状のなか、東京2020大会での「BMXフリースタイルパーク」、「スケートボード」、「3X3」、「スポーツクライミング」での日本人選手の活躍により、競技人口は爆発的に増加していると言われている。

一方で、当市における競技人口の実態は、2020年8月にさいたま市が実施した「令和2年度スポーツに関する市民意識調査」のなかで、BMXやスケートボード、インラインスケート、ストリートダンスなどのアーバンスポーツ種目を過去1年間に実施したと回答した市民（成人以上）の数は、1,000サンプル中わずかに「40名」であった。当該調査の回答者は20歳以上であり、「10代」が含まれていないが、当市に限って言えば、上述のような競技人口増加の波は訪れていないことがわかる。

ただ、過去1年間に実施したスポーツ種目のトップ5は、いずれも競技性が低い又は競争を伴わない、「自発的に楽しむ運動種目」であった。

したがって、当市において、現状、アーバンスポーツの競技人口は少なく、市民の認知度も低いことが把握できたため、「アーバンスポーツツーリズム」を推進する前段として、アーバンスポーツツーリズムの普及・啓発に努める「アーバンスポーツ振興」を目的とした取組に注力することが必要であると言える。

また、アーバンスポーツは、市民が好む「自発的に楽しむ運動種目」と似たような競技特性を持つことから、当市においては、「競技性」を重視した競技振興よりも、市民が「楽しむ」ことを重視したアーバンスポーツの普及・啓発が適切であると考えられる。

データ・資料

◆ 令和2年度スポーツに関する市民意識調査実施概要

実施期間	令和2年8月8日～8月17日
実施方法	インターネット調査
回答者数	20歳から79歳までのさいたま市民1,000人

◆ 市民意識調査にて集計したアーバンスポーツ種目

項番	アーバンスポーツ種目	回答者数
1	BMX・キックバイク	4
2	スケートボード	10
3	インラインスケート・インラインアルペン	2
4	ローラースケート・一輪車	2
5	ストリートダンス	12
6	3X3	4
7	スポーツクライミング・ボルダリング	6
合計		40

＜出典＞ 令和2年度スポーツに関する市民意識調査（さいたま市）

◆ 過去1年間に実施したスポーツ種目（トップ5）

順位	スポーツ種目
1	ウォーキング
2	自転車・サイクリング
3	ランニング・マラソン・駅伝
4	トレーニング
5	体操

＜出典＞ 令和2年度スポーツに関する市民意識調査（さいたま市）

【①-2】子育て世代のスポーツ実施率が低い

さいたま市は「さいたま市総合振興計画実施計画」において、「アーバンスポーツの活性化」を「生涯スポーツの振興」（市民のスポーツ実施率向上を目的とした事業）を目的とした事業に位置付けている。

また、当市は、2030年度までに、成人のスポーツ実施率（週1日以上）を「70%」まで引き上げる目標を掲げている。

ちなみに、当市の2020年度の成人のスポーツ実施率（週1日以上）は「66.3%」であり、他の市町村と比較しても高水準を維持しているものの、年代別の実施率を比較すると、30代及び40代の「子育て世代」において平均を下回る傾向が見られた。

また、スポーツ庁の「第2期スポーツ基本計画」では、成人のスポーツ実施率（週1日以上）を「65%程度」となることを目標として掲げている。全国の2020年度の成人のスポーツ実施率は「59.9%」であり、コロナ禍であっても前年より6.3ポイント増加する結果となった。

現時点で詳細なローデータが公表されている2019年度のスポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の調査結果を活用して、子どもと同居している「20代」、「30代」、「40代」のスポーツ実施率を算出した。

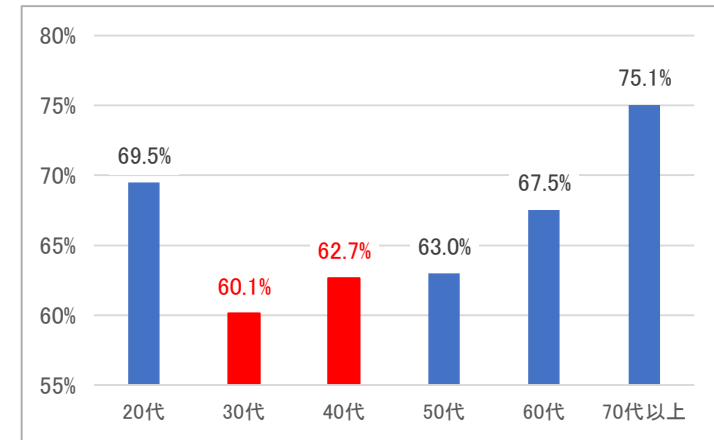
2019年度の成人のスポーツ実施率は全体で「53.6%」であったが、「子育て世代（20代・30代・40代）」に限定すると「45.6%」であり、全体平均よりも「8ポイント」低い結果となった。

また、子どもと同居する「子育て世代（20代・30代・40代）」に限定すると「42.9%」であり、さらに「3ポイント」低く、年代別では特に「30代」において顕著に低い結果が示されていることがわかった。

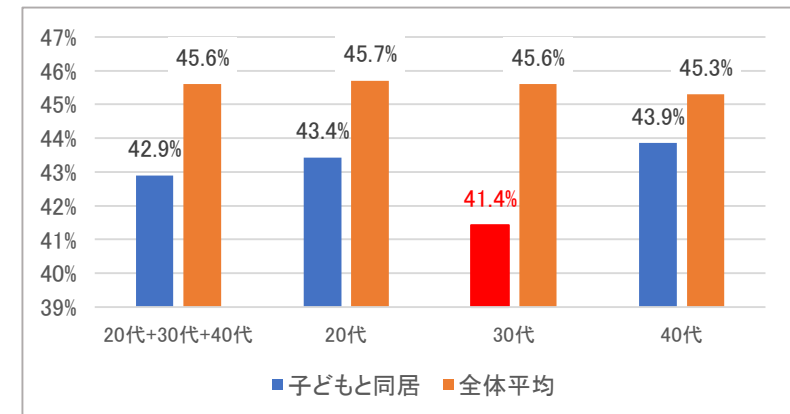
そのため、当市に限らず、スポーツ庁や各地方自治体が掲げる成人のスポーツ実施率の目標値を達成するためには、各年代の課題を適切に把握し、ターゲットを明確化した施策展開が求められている。

特に、当市においては「子育て世代」のスポーツ実施率を課題としているため、ターゲット層から人気を集める「アーバンスポーツの振興」は、当市の「生涯スポーツの振興」という点において大きな効果をもたらすと期待することができる。

データ・資料

◆ さいたま市の成人のスポーツ実施率（R2）

<出典> さいたま市の成人のスポーツ実施率（R2）

◆ 子どもと同居する子育て世代のスポーツ実施率（R1）

<出典> 令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）

【①-3】五輪レガシーの意識醸成が足りない

東京都オリンピック・パラリンピック準備局では、五輪レガシーを『オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催により開催都市や開催国が、長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵のことである』としている。

さいたま市内では、東京2020大会において、バスケットボール競技を「さいたまスーパーアリーナ」で、サッカー競技を「埼玉スタジアム2002」にて開催予定である。

どちらの競技種目も、現時点で多くの競技人口を抱えるメジャースポーツであり、全国的にも世界的にもトップクラスのスポーツ競技であると言える。

一方で、各会場についても、それぞれの競技の国際大会や全国大会が実施されるなど、すでに各競技の聖地として全国的な知名度を誇っているとともに、スポーツだけでなく、音楽コンサートや各種イベントの開催などによって文化発信拠点としても注目を集めている。

ただ、実施種目・会場ともに高い知名度を誇っているがゆえに、「競技の普及」や「会場の周知」という点においてのレガシー創出にはインパクトを生み出せず、市民の意識醸成に盛り上がりを欠ける部分がある。

そのため、本事業では、「長期にわたり継承・享受できる」五輪レガシーを創出する方法として、メジャースポーツの五輪会場の近くで、「アーバンスポーツ」という新しい五輪種目に取り組むことで、市民にとって日常とは違う「五輪会場としての意識醸成」に貢献したい。

また、市民に様々なスポーツの選択肢を与えることで、それぞれの環境に合わせた市民の「スポーツ実施機会の確保」という形でのレガシー創出につなげていく。

五輪開催地として、開催種目に限ったレガシーの創出を考えるのではなく、他の五輪種目と連携した事業を実施していくことは、複数の競技種目を一堂に集める五輪理念に合致し、より一層五輪レガシーとしての価値を高めることになると期待している。

データ・資料

◆ さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）



※東京2020大会：バスケットボール競技会場

◆ 埼玉スタジアム2002（さいたま市）



※東京2020大会：サッカー競技会場

①-4 アーバンスポーツのマナー問題

前述のとおり、アーバンスポーツは、「東京2020大会での正式種目化」及び「新型コロナウイルス感染症の流行に伴う人々のライフスタイルの変化」に起因して、全国各地で競技人口が増加している。

一方で、競技人口の増加に伴い、一部の競技者のマナーに関して、様々なトラブルが巻き起こるようになってしまった。

神奈川新聞社の取材によると、「神奈川県横浜市にある戸部警察署では、スケートボードの滑走目的の立ち入りが禁止されている横浜駅周辺やみなとみらい21地区の商業施設やビルの敷地内にスケートボードの滑走目的で立ち入ったとして、19歳から24歳の男性15人を書類送検する事案が発生している。また、同署によると、スケートボードに関する苦情は2019年に350件、2020年に323件の報告があった」とのことであった。

さいたま市においても、都市公園内でのスケートボード利用や屋外バスケットボールコートでの騒音等について、市民から様々な苦情が寄せられており、施設内の巡回の強化やスケートボード禁止の掲示板の設置、さらには「ルールを守らないようであれば撤去する」旨の警告掲示などにより対応している。

また、それ以外にも、市内の歩行者道路や駐車場等にて、スケートボード禁止の張り紙や路面のタイヤ痕が見られるなど、行政のみでの対応では追いつかず、地域住民が対応に苦慮している場所が散見されている。

いずれの事案も一部のプレイヤーによる「モラルの欠如」やストリートカルチャーから派生したスポーツならではの「ルールの不明瞭さ」が招いたものであると言える。

アーバンスポーツが新しいスポーツ（マイナースポーツ）であるがゆえに、競技のマナーを知る機会が少ないことから、誰でも気軽に参加できるイベントなどで、積極的に参加者のマナー啓発に努めるとともに、子どもたちにはできるだけ小さいころからアーバンスポーツに触れてもらい、ケガの予防のためにも安全な乗り方や身体の使い方を学びながら、自然とルールやマナーを醸成する仕組みを創出するなど、子どもたちを中心として地道な活動を続け、徐々に市民の理解を得ることに注力する必要があると考える。

データ・資料

◆ 一部のプレイヤーによるマナー問題の現状

歩行者用道路内にスケートボード禁止の張り紙
(さいたま市内)



コンクリート面に残るブレイクボードのタイヤ痕
(さいたま市内)



商業施設入口にスケートボード禁止の張り紙
(さいたま市内)



駅構内の地下通路にスケートボード禁止の張り紙
(さいたま市内)



【②-1】宿泊率が低い・観光入込客数の底上げ

国内のスポーツツーリズムの推進にあたり、内閣府の「日本再興戦略2016」ではスポーツ市場規模を2025年までに15兆円、スポーツ庁の「第2期スポーツ基本計画」ではスポーツ目的の訪日外国人250万人、スポーツツーリズム関連消費額3,800億円など、「数や消費を重視する目標」が掲げられてきた。これはスポーツツーリズムに限った話ではなく、東京2020大会の開催に向けて観光部門を中心としてインバウンドに向けた様々な施策が幅広い分野で実践されてきた。

ただ、インバウンドの拡大に伴い、観光客が地域住民の生活や自然環境へ影響を与える事例が顕在化し、数や消費を重視するツーリズムを推進する一方で、地域住民の生活や自然環境を守る持続可能なツーリズムの推進が謳われるようになった。新型コロナウイルス感染症の流行とともに観光市場が縮小したことで、観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、旅行先の文化や環境を第一に考える「サステナブルツーリズム」や自宅から60分圏内を目的地とする「マイクロツーリズム」などに、より一層注目が集まっている。

そのような潮流のなか、さいたま市及び埼玉県における国内ツーリズムの現状は、観光庁の「共通基準による観光入込客統計」によると、2019年、本県の「観光目的・日本人」に占める「宿泊旅行者」と「日帰り旅行者」の比率は、宿泊が「1.5%」、日帰りが「98.5%」であり、現時点で年間値の集計を完了している31都道府県中「最下位」という水準であった。しかし、「観光目的・日本人」に占める「日帰り」の観光入込客数は、31都道府県中、愛知県に次ぐ「全国2位」であることから、根本的に観光地としてのポテンシャルを持ち合わせていないわけではなく、むしろ、「日帰り観光」におけるポテンシャルは全国屈指のものを備えていると言える。

また、当市において、2019年度の「共通基準による観光入込客数」の合計（日本人・外国人）は「約2,500万人」であるのに対して、「延宿泊者数」の合計は「約73万人」であることから、当市を訪れる観光客のうち、「宿泊を伴う観光」が占める割合は「約3%」であり、残りの約97%は「日帰りの観光」であることがわかる。なお、観光入込客数の合計は、県内の63市町村中、越谷市（約5,800万人）に次ぐ「第2位」であり、県内最大の人口規模を持つ当市としては、現時点で、越谷市に約2倍の差をつけられていることから、「県内1位」の観光客数獲得を目指すこともひとつの目標としている。

したがって、当市におけるツーリズムに係る課題は、「宿泊旅行者」と「日帰り旅行者」の比率が極端に「日帰り旅行者」に偏っていることから、観光客を宿泊につなげる「新たなツーリズムコンテンツの創出」と、宿泊・日帰りを問わず、「年間観光客数全体の底上げ」を達成することであり、本事業においては、アーバンスポーツコンテンツを活用して、域外からの観光客実数の確保と、「宿泊」を伴う観光客の獲得を目指していく必要がある。

データ・資料

◆ 宿泊旅行者と日帰り旅行者の比率ワースト5（2019）

順位	都道府県	宿泊		日帰り		合計 (千人)
		人数(千人)	割合(%)	人数(千人)	割合(%)	
1位	埼玉県	1,470	1.5%	98,017	98.5%	99,487
2位	愛知県	4,969	4.7%	100,555	95.3%	105,524
3位	茨城県	2,072	5.9%	33,312	94.1%	35,384
4位	佐賀県	1,035	6.5%	14,868	93.5%	15,903
5位	奈良県	1,724	7.2%	22,101	92.8%	23,825

<出典> 2019年年間集計共通基準による観光入込客数（観光庁）

◆ 埼玉県内の観光入込客数トップ5（R1）

順位	市町村	観光入込客数(人)
1位	越谷市	58,364,626
2位	さいたま市	25,608,493
3位	川越市	7,757,000
4位	入間市	7,276,027
5位	所沢市	5,973,184

<出典> 令和元年度県内市町村観光入込客数（埼玉県）

【②-2】訪日外国人が埼玉県まで来ない

国内全体の訪日外国人旅行者数は、JNTO（日本政府観光局）の「年別訪日外客数の推移」によると、2015年に「約1,900万人」、前年比「47.1%増」を記録して以降、伸率の鈍化は見受けられるものの増加の一途をたどり、2019年には「約3,100万人」に達し、順調な成長を続けてきたが、同局の2020年の訪日外国人旅行者数の速報値は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「約410万人」にまで激減し、前年比「△87.1%」という衝撃的な結果であり、約20年前の訪日外国人旅行者数と同程度の記録まで後退することになってしまった。

そのような潮流のなか、埼玉県は「日本人」に限った「観光入込客数」という点において、これまで国内でも上位の実績を残してきたが、「外国人」に限った「インバウンド」に関して言えば、主要都道府県と比較してかなりの遅れを取っている。

2019年、観光庁の「訪日外国人消費動向調査」の「都道府県別訪問率」によれば、当県の訪日外国人訪問率はわずか「1.0%」であった。つまり、訪日外国人「100人」のうち、当県を観光目的で訪れる者はたった「1人」であり、「日本の観光地」として興味を惹くようなブランド力が確立されていない現状が露呈している。また、都道府県別訪問率から、訪日外国人は「東京都」、「大阪府」、「千葉県」、「京都府」の4都府県を中心に訪れていることがわかり、インバウンドの獲得に向けては、これらの4都府県に訪れる外国人を、いかに「さいたま」まで呼び込むかが課題となる。

埼玉県中小企業診断協会の国際化支援研究会が発行した資料によると、本県にインバウンドの訪問を呼び込めない理由として、「富士山や京都のような国際ブランド級の観光地を持っていないこと」や「訪日外国人の入国窓口（空港・港）を持っていないこと」などが挙げられている。

ただ、一方で、2019年、京都市が発表した『「市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市」の実現に向けた基本指針と具体的方策について』の「市民の安心・安全、地域文化の継承を重要視しない宿泊施設の参入の『お断り』宣言」に代表されるように、これらの4都府県の主要観光地では、訪日外国人の急増により交通渋滞や混雑、旅行者のマナー違反などが深刻化する「オーバーツーリズム」の問題が発生している。

したがって、本事業の推進によって、将来的なインバウンドの獲得につなげるグローバルコンテンツの創出と、訪日外国人に向けた観光地としてのブランド力向上に資する取組を実現し、当市及び当県の訪日外国人の訪問率が改善されることを目指す。また、主要観光地以外の訪問率が改善すれば、現在の4都府県が抱えるオーバーツーリズムの課題解決にも貢献できると考えられる。

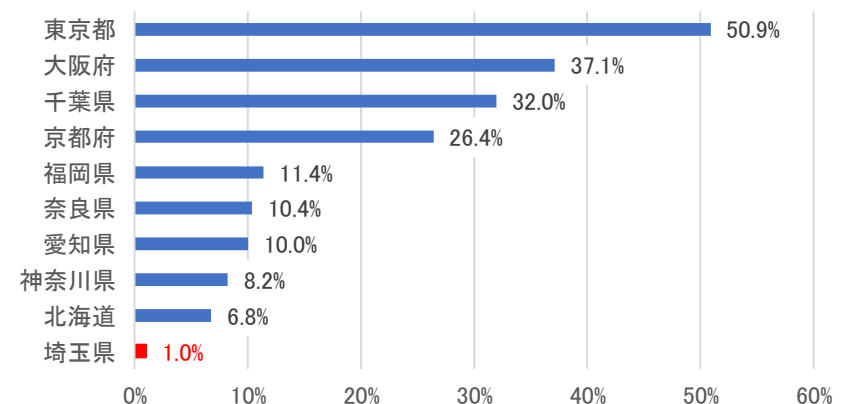
データ・資料

◆ 年別訪日外国人旅行者数の推移（2019）

年		訪日外国人旅行者数（人）	伸率（%）
2015	平成27年	19,737,409	47.1
2016	平成28年	24,039,700	21.8
2017	平成29年	28,691,073	19.3
2018	平成30年	31,191,856	8.7
2019	平成31年	31,882,049	2.2
2020	令和2年	4,115,828	△87.1
1998	平成10年	4,106,057	－

<出典> 月別・年別統計データ：訪日外国人（JNTO）

◆ 訪日外国人の都道府県別訪問率（2019）



<出典> 2019年訪日外国人消費動向調査（観光庁）

【②-3】観光地としての魅力不足

2019年、DBJ（日本政策投資銀行）の「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2019年度版）」では、世界の12の地域に居住する住民「6,276人」を対象としてインターネット調査を実施しており、そのなかで、訪日旅行を希望する外国人のうち、「日本の伝統的な工芸や工房をめぐる体験ツアーの参加」について、「したい又はどちらかといえばしたい」と回答した割合は、アジア全体で「83%」、欧米豪全体で「80%」と参加意向が非常に高く、「払ってよい金額」においては「半日」のツアーであっても「100米ドル以上」支払うという回答が最も多いという結果であった。

また、「日本滞在中に利用してみたい現地発着型の体験ツアー」という項目においては、「日本文化体験・見学」が「第1位」という結果になった。

さいたま市はこれまで都市機能を充実させる施策が功を奏し、市民が生活しやすい・住み続けたいと思うような盤石な生活基盤の確保を目指して、スポーツ・観光分野に限らず、様々な分野で幅広い取組が数多く実施されてきた歴史がある。

事実、当市の鉄道は「9路線31駅」という巨大交通網を確保することで、人々の生活だけでなく、来訪者の回遊性を十分に高めるポテンシャルを備えている。

また、スポーツ分野においては、浦和レッズや大宮アルディージャに代表されるように「サッカーのまち」として発展を続けているほか、サッカー以外にも自転車・バスケットボール・卓球といった様々なプロスポーツチームが本市をホームタウンとしており、毎年数多くのスポーツイベントが市内で開催されている。

さらには、鉄道博物館・大宮盆栽美術館・岩槻人形博物館といった文化施設や見沼田んぼといった自然環境も充実しているなど、関東圏域でも珍しい「自然・歴史・文化・スポーツ」といった文化資源が融合する魅力にあふれたまちである。

そのため、当市はそうした交通利便性・スポーツイベント・幅広い資源を売りに、「日帰り」や「半日」など短時間で市内を回遊させる観光施策を中心に、特色ある観光ルートを充実させることで一定の成果を示してきた。

また、埼玉県では、東京・大阪間の東海道新幹線沿線を中心とした「ゴールデンルート」（東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪）に対抗して、「SAITAMAプラチナルート」（川越、秩父、長瀬）を設定するなど、県内の回遊性を高める施策を中心に観光分野の発展を図っている。

しかし、埼玉県中小企業診断協会は、「埼玉県には数多くの観光名所など観光資源が存在するが、広範囲に拡散しており、埼玉県に広域周遊ルートとして認定されている『SAITAMAプラチナルート』にしても、観光ルートとして認識され、実際に外国人が訪れるまでには至っておらず、県内の主要な地域（さいたま市、川越市、熊谷市、秩父エリア）間を周遊する例はほとんどなく、地域資源の活用・結合や付加価値の創造などが望まれる」と指摘している。

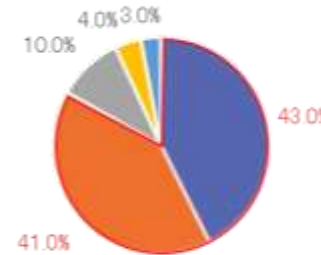
したがって、本事業においては、アーバンスポーツと、「自然・歴史・文化・スポーツ」といった文化資源の「体験・見学」を融合させたツーリズムコンテンツ創出を目指す。

また、将来的には、県内回遊を推進する埼玉県の既存観光ルートを活用した、新たなアーバンスポーツツーリズムコンテンツの創出し、「日本の観光地」としての価値創造を目指していく。

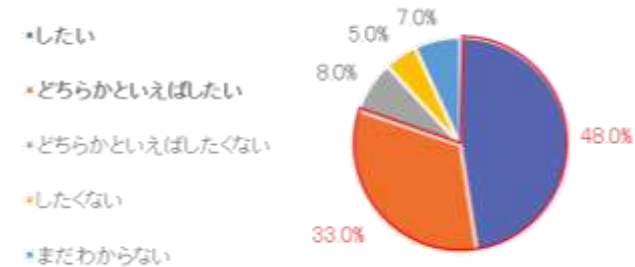
データ・資料

◆ 日本の伝統的な工芸や工房をめぐる体験ツアーの参加意向／払ってよい金額（2019）

<アジア全体>



<欧米全体>



アジア全体（ツアー体験希望者/n=1980）

50米ドル未満	50-59米ドル	60-69米ドル	70-79米ドル	80-89米ドル	90-99米ドル	100米ドル以上
22.3%	20.0%	12.0%	10.0%	6.0%	8.0%	22.5%

欧米豪全体（ツアー体験希望者/n=670）

50米ドル未満	50-59米ドル	60-69米ドル	70-79米ドル	80-89米ドル	90-99米ドル	100米ドル以上
9.1%	13.0%	10.0%	11.0%	8.8%	8.7%	39.0%

<出典> アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査：2019年度版（DBJ）

◆ 日本滞在中に利用してみたい現地発着型の体験ツアー

アジア全体（訪日旅行希望者/n=2,265）			欧米豪全体（訪日旅行希望者/n=833）		
順位	利用したいツアー内容	回答率	順位	利用したいツアー内容	回答率
1	日本文化体験・見学 (例: 茶道・芸妓・相撲・折り紙・和装・和太鼓)	17%	1	日本文化体験・見学 (例: 茶道・芸妓・相撲・折り紙・和装・和太鼓)	26%
2	自然ガイドツアー (自然の中を専門ガイドが案内するツアー)	16%	2	町並みガイドツアー (まちなかを専門ガイドが案内するツアー・社寺仏閣等のガイドも含まれる)	16%
3	調理体験 (例: 寿司・そば・うどん・たこ焼き・弁当・菓子等の調理)	13%	3	調理体験 (例: 寿司・そば・うどん・たこ焼き・弁当・菓子等の調理)	12%

<出典> アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査：2019年度版（DBJ）

【③-1】コロナ禍での中学生の運動機会が喪失

課題【①-1】のとおり、新型コロナウイルス感染症の流行とともにチームスポーツの活動自粛が求められ、「ひとりで自由に手軽に」取組むことができるアーバンスポーツが想定外の注目を集めてきた。

ただ、裏を返せば、アーバンスポーツのような競技特性を持たないチームスポーツにとっては逃れようのない逆風が吹き続けているとも言える。

チームスポーツでの活動が特に多い「学校部活動」においては、対外試合等の中止のみならず、日常の活動についても厳しい制限が求められ、多くの中学生年代の子どもたちの運動機会が失われることになった。

さいたま市においても、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、市教育委員会は、「新型コロナウイルス感染症に対応したさいたま市学校教育活動実施マニュアル～学校の新しい生活様式～」というガイドラインに基づいた教育活動の実施を推進してきた。

このガイドラインによると、部活動の実施においては、生徒の体調管理やソーシャルディスタンスの確保、共用物の使用制限など様々な留意事項が示されている。

市教育委員会では、2018年度に「さいたま市部活動の在り方に関する方針」というガイドラインを定めており、新型コロナウイルス感染症の流行以前から、指導法の在り方や部活動の適切な休養日の設定など生徒及び教職員の混乱を招かないよう段階的に部活動改革を実施してきたものの、結果として、今回の新型コロナウイルス感染症の流行により、学校部活動は突発的な活動自粛を求められ、教職員たちは部活動による生徒たちの運動機会の確保に努めながらも、その活動時間は制限しなければならないというジレンマに陥ってしまった。

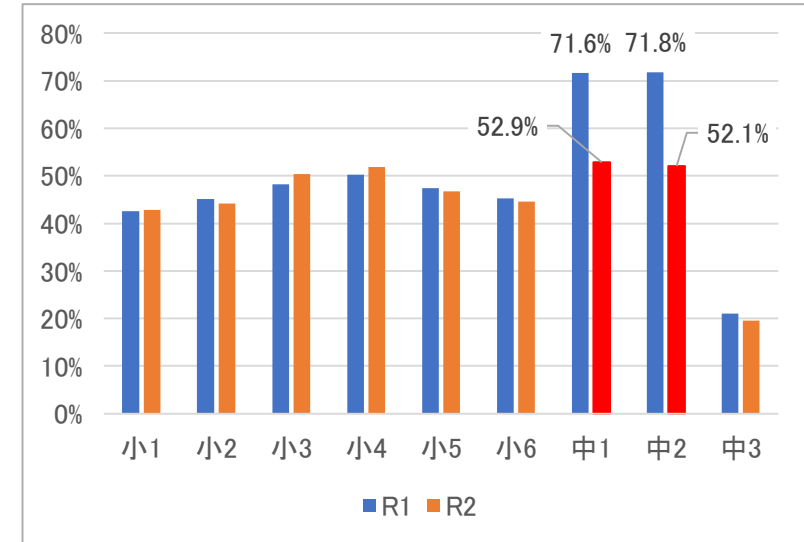
2020年度、市教育委員会が毎年市内の全小・中学校を対象に実施している「さいたま市学習状況調査」の「生活習慣に関する調査」の結果によると、市内小中学生のスポーツ実施率（体育以外で週1日以上運動）の平均は、2019年度と比較してほぼ横ばいの結果であったが、「中学校1・2年生」のうち「ほとんど毎日（体育以外で週3日以上運動をした）」と回答した生徒の割合が、昨年度から「20%」近く低下する結果となった。

スポーツ庁及び当市の調査では、コロナ禍においても「成人以上のスポーツ実施率」は昨年度よりも向上していたにもかかわらず、中学生年代において、このような結果となった要因は「新型コロナウイルス感染症の流行に伴う部活動の活動機会の喪失」によるものであると考えられるとともに、他の自治体においても同様の傾向が見受けられると推察する。

したがって、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う「子どもたちの運動機会の喪失」という課題は、コロナ禍においても実施しやすい「アーバンスポーツの競技特性」を存分に活用して解決すべきものであり、「アーバンスポーツ振興」を目的とした取組のなかで「子どもたち」をターゲットとした事業の推進は、これまで以上に高いニーズがあると考えられる。

データ・資料

◆ 「ほとんど毎日」と回答した児童生徒の比較（R1-R2）



<出典> さいたま市学習状況調査（さいたま市）

◆ 市教育委員会のガイドライン



<出典> さいたま市教育委員会作成

【③-2】コロナ禍で市内の観光入込客数が減少

さいたま市は「さいたま市総合振興計画実施計画」において、2030年度までに観光入込客数を「3,000万人」まで引き上げることを目標を掲げており、スポーツ部門においても、2011年度に「さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」を策定して以降、「スポーツ・レクリエーション」における観光入込客数の増加に注力してきた。

事実、2011年度時点での「スポーツ・レクリエーション」の観光入込客数「約415万人」から、2019年度には「約815万人」まで大幅に増加したことで、2019年度時点での全体の観光入込客数が「約2,500万人」に到達したことから、目標達成までには、今後の10年で500万人、つまり、年間50万人ずつ観光入込客数を増加させることが必要となった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、旅行・外出等の行動制限や海外からの入国制限措置が講じられ、各地の観光入込客数は激減し、インバウンドの誘客も見込めなくなってしまった。

当市の観光入込客数についても、2019年度と2020年度における「市調査部分」の結果を比較すると、観光施設の休館やイベント等の中止が相次いだことで、年間「約600万人」も減少してしまったことがわかる。

そのため、目標達成のためには、数年後に訪れるであろうアフターコロナ期において、「年間100万人以上」の観光入込客数の回復をもたらす、新しいツーリズムコンテンツの創出が期待されている。

2020年、DBJ（日本政策投資銀行）の「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナ影響度特別調査）」では、2019年度版と同様に、世界の12の地域に居住する住民「6,266人」を対象としてインターネット調査を実施しており、「新型コロナウイルス感染症の終息後に観光したい国・地域」について、アジア居住者のうち「56%」（第1位）、欧米豪居住者のうち「24%」（第2位）が「日本」と回答しており、今後、アフターコロナ期において、日本向けのインバウンドの回復が期待できるという結果が得られている。

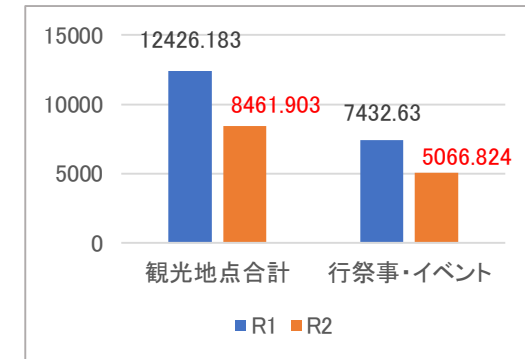
したがって、コロナ禍のいま、アーバンスポーツを活用した「新たなグローバルコンテンツ」を創造することは、アフターコロナ期を迎えるまでの数年間の観光入込客数の回復に貢献することができる。

また、将来のアフターコロナ期においては、これまでのノウハウを活用しながら、インバウンド獲得を目指していく長期的な計画性が求められる。

データ・資料

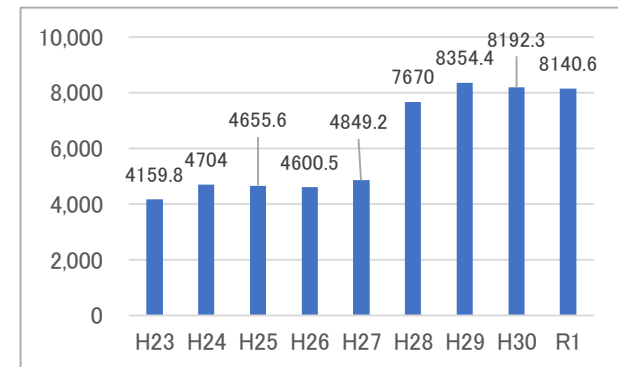
◆ 年間観光入込客数の比較

<出典> さいたま市観光に関するデータ（さいたま市）



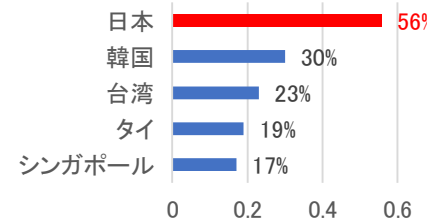
◆ 「スポーツ・レクリエーション」の観光入込客数の推移

<出典> 同上

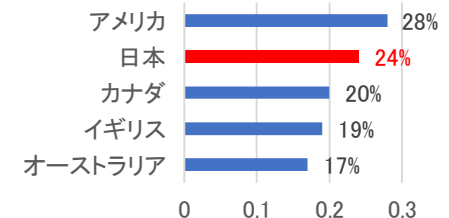


◆ 新型コロナ終息後に観光旅行したい国・地域トップ5（2020）

<アジア居住者（n=3,822）>



<欧米豪居住者（n=1,840）>



4. 目標設定

各課題に対する将来像の整理

<課 題>	<評価指標>	<目標到達点>
【①-1】 競技人口が少ない	【指標①】 『身体を動かすきっかけづくり』 「運動機会」に係る指標 ----- アーバンスポーツの体験会への参加等を通じて、子育て世代の親子が、「運動する機会や時間が増えた」や「参加後、子どもと一緒に身体を動かすスポーツ習慣が定着した」など、アーバンスポーツが参加者の運動機会の確保にどの程度つながるかを測ることを目的とした指標	事業実施後のアンケート調査にて、「今後、運動する機会・時間が増えると思う」と回答した者の割合 【80%達成】 を目指す
【①-2】 子育て世代のスポーツ実施率が低い		
【①-3】 五輪レガシーの意識醸成が足りない		
【①-4】 アーバンスポーツのマナー問題	【指標②】 『地域資源に対する評価向上』 「ツーリズム」に係る指標 ----- アーバンスポーツのモニターツアーへの参加等を通じて、子育て世代の親子が、アーバンスポーツイベントと併せて、さいたま市の「地域資源」に触れてもらうことで、どの程度再参加を希望し、ツアー全体の満足度向上につながるかを測ることを目的とした指標	事業実施後のアンケート調査にて、「ぜひまた参加したい」と回答した者の割合 【50%達成】 を目指す
【②-1】 宿泊率が低い・観光入込客数の底上げ		
【②-2】 訪日外国人が埼玉県まで来ない		
【②-3】 観光地としての魅力不足	【指標③】 『アーバンスポーツの継続意欲醸成』 「競技振興」に係る指標 ----- アーバンスポーツの体験会への参加等を通じて、子育て世代の親子が、「参加後もアーバンスポーツを続けたい」や「子どもにアーバンスポーツを続けさせたい」など、事業実施後もアーバンスポーツをどの程度続けていきたいと感じたかを測ることを目的とした指標	事業実施後のアンケート調査にて、「今後もアーバンスポーツを続けたい」と回答した者の割合 【60%達成】 を目指す
【③-1】 コロナ禍で中学生の運動機会が喪失		
【③-2】 コロナ禍で市内の観光入込客数が減少		

5. ターゲット設定

◆ 本事業のターゲット

アーバンスポーツに興味・関心が高い

子育て世代の親子

- 20代後半から40代前半の子育て世代の「親」と未就学児から中学生までの「子ども」をターゲットとして設定した。
- 本事業は「アーバンスポーツの競技振興」という側面をもっていることから、高額の商品及びサービスの提供を趣旨とした事業は実施しないため、「年収区分」によるターゲット設定は行わない。
- ターゲットの居住エリアは実施事業ごとに設定しているが、各地域の感染状況に応じて柔軟に対応する。

ターゲットの条件

「親」の年齢	25歳から44歳まで
「子」の年齢	未就学児から中学生まで
性別	指定なし
旅行形態	家族（ファミリー）
世帯年収	指定なし
競技の経験度	主に未経験者又は初心者を想定

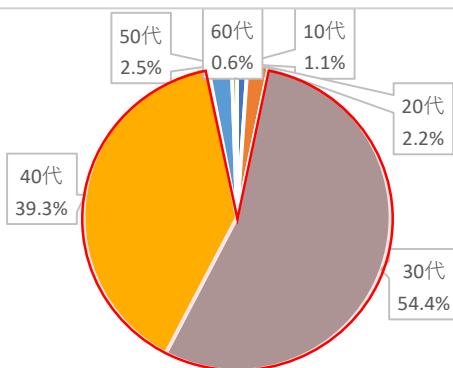
ターゲットの居住エリア

A	「さいたま市」及び「さいたま市に隣接する市町村」を中心とする近隣都県に居住する人
B	「大宮駅から60分（電車／車）」圏内に居住する人

◆ ターゲットの選定理由（1）

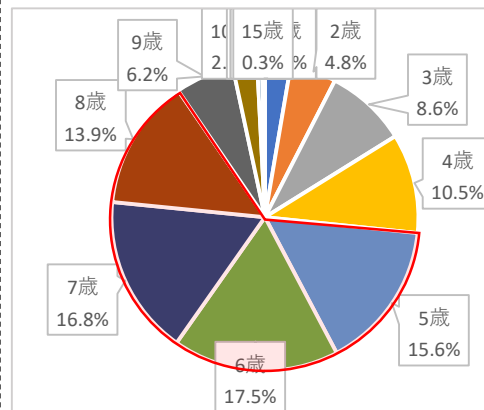
① 令和2年度「Sport in Life推進プロジェクト」における参加者の年代割合の実績：アーバンスポーツを活用したスポーツ実施率向上のための実証実験

大人



- 当法人が実施した「Sport in Life推進プロジェクト」の事業においても、アーバンスポーツの体験会場における参加者の年代割合は、「30代及び40代」が大半を占めている。
- これらの年代においては、子どもだけでなく、親自身も一緒に楽しむことができる世代であり、アーバンスポーツの競技振興においては重要な役割を担う世代であると考えている。

子ども



- 当法人が実施した「Sport in Life推進プロジェクト」においては、子どもの対象を「未就学児から小学校低学年」としていたことから、「5歳から8歳まで」の参加者が中心となっている。
- これらの年代は、初めてアーバンスポーツに触れる世代であり、本事業においては、中学生年代まで対象を広げることで、アーバンスポーツの競技人口拡大により一層貢献することができると考えている。

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
8	16	393	284	18	4	723
1.1%	2.2%	54.4%	39.3%	2.5%	0.6%	100%

1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	合計
20	36	64	78	116	130	125	103	46	19	4	0	0	0	2	743
2.7%	4.8%	8.6%	10.5%	15.6%	17.5%	16.8%	13.9%	6.2%	2.6%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	100%

5. ターゲット設定

◆ ターゲットの選定理由 (2)

② 国内アーバンスポーツイベントの実績に基づく「ファミリー層」との親和性

【ツーリズムに係る有益性】

2019年度に国内で開催された代表的なアーバンスポーツイベントである「CHIMERA A-SIDE THE FINAL」(愛知県)と「FISE Hiroshima 2019」(広島県)の来場者の年代割合を見ると、どちらのイベントにも「10代の子どもたち」と「30代・40代の年齢層」の観客が多く訪れていることから、アーバンスポーツを「する」、「みる」ことに興味・関心が高い層は、いわゆる「子育て世代」であり、「ファミリー層」と「アーバンスポーツイベント」の親和性は非常に高いと言える。

また、「CHIMERA A-SIDE THE FINAL」にて実施された来場者アンケートによると、「どなたと来場されましたか」という質問に対して、「65%」が「家族」と回答しており、ほとんどの観客が「家族」を単位として来場していることがわかる。

したがって、アーバンスポーツツーリズムにおいて、顧客属性(メインターゲット)を「子育て世代の親子」に設定することは、過去のイベントの来場者の年代割合から「集客力」の点において有益であると判断できる。また、旅行形態を「家族(ファミリー)」に設定することについても、過去のイベントの来場形態から「旅行しやすさ」の点において有益であることから、将来的なインバウンド獲得に向けても、40代以下を中心とした「家族(親子)単位」でのターゲット設定を打ち出していくことが有効であると考えられる。

◆ 「CHIMERA A-SIDE THE FINAL」の来場者層

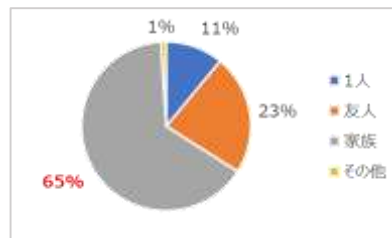


<出典> 来場者アンケート結果 (CHIMERA Union)

<出典> アーバンスポーツツーリズム研究会配布資料 (JUSC)

◆ 「CHIMERA A-SIDE THE FINAL」の来場形態

<出典> 来場者アンケート結果 (CHIMERA Union)



③ 子どもたちのスポーツ実施率の高さに基づく「まち」との親和性

【競技振興に係る有益性】

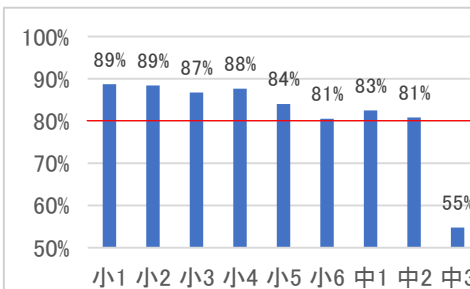
課題【①-1】のなかで、さいたま市においてアーバンスポーツツーリズムを推進するうえで、「アーバンスポーツ振興」を目的とした取組の重要性について述べたが、アーバンスポーツの競技人口を拡大していくためには、アーバンスポーツを新たに「する」人たちとなり得るターゲット層の特性を見極めることが重要となる。

現在、アーバンスポーツのトッププレイヤーには10代から20代前半までのいわゆる「ミレニアル世代」や「Z世代」と呼ばれる子どもたちが台頭しており、彼らに憧れを抱く世代はさらに下の年代の子どもたちが中心となる。そのため、将来のアーバンスポーツプレイヤー(競技人口)になる得るターゲット層とは、「中学生(15歳)以下の子どもたち」であり、本事業においても、中学生以下の子どもたちに参加を促すことは必要不可欠なポイントである。

2020年度、市教育委員会が実施した「さいたま市学習状況調査」の「生活習慣に関する調査」の結果によると、当市の小・中学生の「スポーツ実施率(体育の授業以外で週1日以上運動)」は、高校受験期にあたる「中学3年生」を除く学年において「80%」を上回っている。また、「スポーツを好き又はやや好きと答えた児童・生徒の割合」は、すべての学年において「80%」近い結果であったことから、当市の子どもたちは「スポーツへの興味・関心」が非常に高いことがわかる。そのため、小中学生の世代はそもそもアーバンスポーツへの興味・関心を抱きやすく、競技との親和性が高い年齢層であることに加え、当市の子どもたち(小中学生)は「スポーツ自体」に対する興味・関心も非常に高いため、他の地域以上に、子どもたちが「アーバンスポーツを『したい』」とってくれる可能性が高いと推察されるとともに、今後、子どもたちが親世代を巻き込んで、「まち」全体のなかで、新たな競技人口の増加をもたらすことも十分に期待できる。

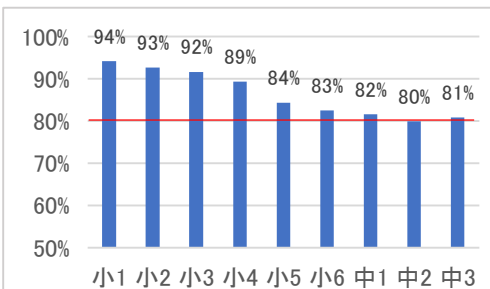
したがって、本事業では、子どものターゲット層を「未就学児から中学生まで」幅広い世代に設定し、アーバンスポーツ競技全体の裾野を広げる「アーバンスポーツ振興」を目的とした取組を実施することで「将来の競技人口拡大」を目指していく。

◆ 子どもたちのスポーツ実施率(R2)



<出典> 令和2年度さいたま市学習状況調査(さいたま市)

◆ スポーツを好き又はやや好きと答えた者の割合(R2)



<出典> 令和2年度さいたま市学習状況調査(さいたま市)

6. 実施内容

◆ 実施事業一覧

A : 「アーバンスポーツ振興」を目的としたサステナブルツーリズムの推進

B : 「新たなツーリズムコンテンツ創出」を目的としたマイクロツーリズムの推進

【A-1】体験イベントの開催

アーバンスポーツの競技人口拡大に向けた体験イベントを開催。
さいたま新都心バスターミナルにて、
10月から12月までに「全7回」開催。

【A-2】動画コンテンツの配信

コロナ禍において、デジタルコンテンツを活用して、アーバンスポーツの実施機会を増やすため、アーバンスポーツの動画コンテンツを配信。

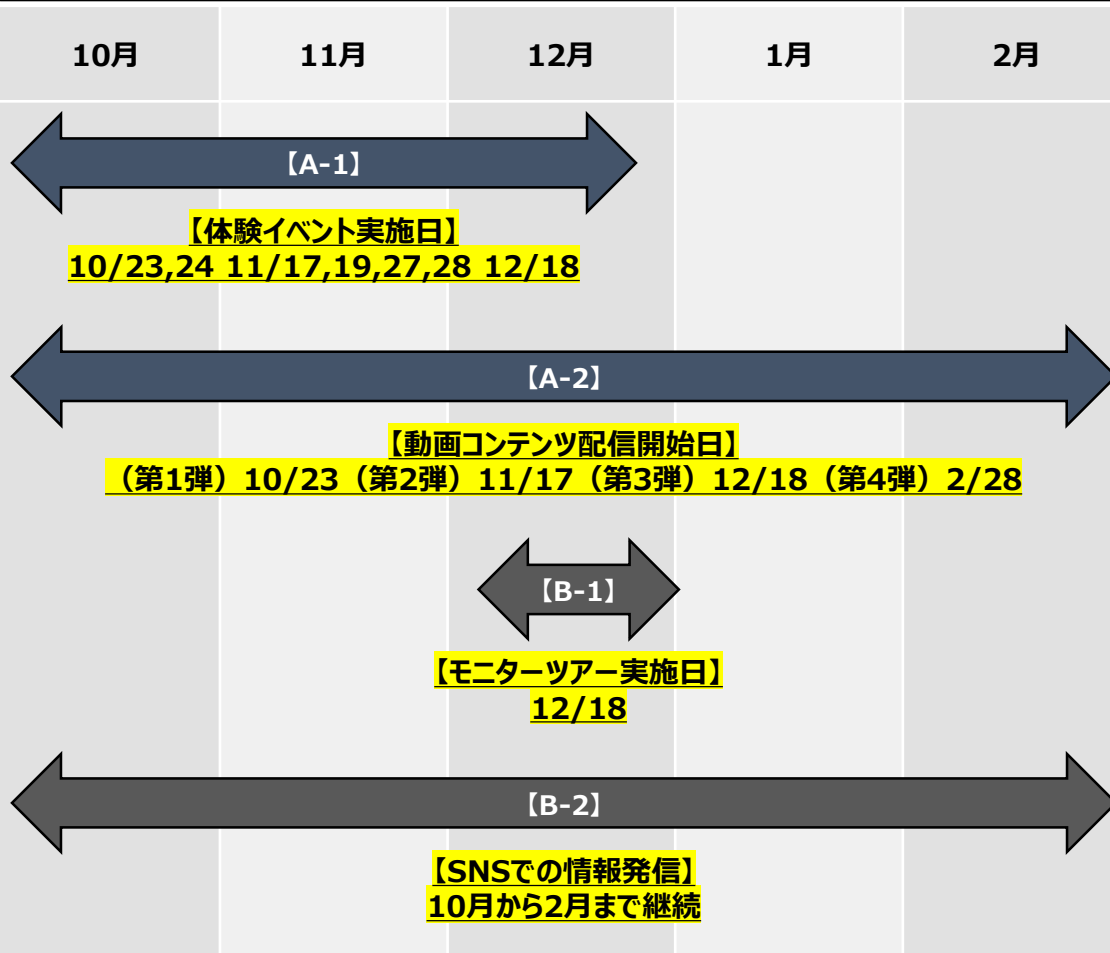
【B-1】モニターツアーの実施

グローバルコンテンツ創出のため、アーバンスポーツ体験&観戦とさいたま市内の魅力を伝えるモニターツアーを実施。
12月に「全1回」開催。

【B-2】SNSによる情報発信

アーバンスポーツと親和性の高い、SNS（Instagram等）を活用して、本事業の取組を幅広く発信。
10月から2月まで継続して実施。

◆ 実施スケジュール



◆ スポーツ庁報告関連

◆ 小会議への参加

【参加日①】10月22日（金）14:30 ～ 16:30

「第4回小会議」へ参加。アーバンスポーツツーリズム、スポーツワーケーション、その他自由テーマにて採択された事業者とディスカッションを実施。

【参加日②】12月17日（金）10:00 ～ 13:00

「第5回小会議」へ参加。全モデル事業者（12社）との情報共有及び意見交換を実施。

◆ 定期報告書の作成

【提出月】8月、10月、1月（年3回）

合計3回の定期報告書について遅滞なく提出した。

◆ 最終報告会への参加

【実施日】2月4日（金）13:00 ～ 17:00

本事業の成果発表を実施。

◆ その他実施事項

◆ イベント専用ホームページの開設

【公開期間】令和3年10月～

【URL】https://select-type.com/s/ssc_urban_01

◆ PRチラシの作成／配布

【作成部数】約10万枚

【配布先】市内小・中学校

◆ マナー啓発チラシの作成

【作成部数】500枚

事業終了後、参加者へ配布

【PRチラシビジュアル】▶



▲【専用ホームページ開設】

6. 実施内容

□ 当初の計画から変更となった点①（令和3年12月24日付事業計画変更承認申請書）

<変更前>

【B-1】モニターツアーの実施：

- ・ <第2回> アーバンスポーツ体験&CHIMERA A-SIDE THE FINAL観戦バスツアー

【B-2】SNSマーケティング：

- ・ CHIMERA A-SIDE THE FINAL出場海外TOP選手による市内観光施設の情報発信

<変更後>

【B-1】モニターツアーの実施：

- ・ <第2回> 在日外国人向けアーバンスポーツ体験&さいたま市内観光日帰りバスツアー

【B-2】SNSマーケティング：

- ・ 関係団体でのSNSによる情報発信

◆「CHIMERA A-SIDE BMX／SKATEBOARD THE FINAL」について

イベント名	CHIMERA A-SIDE BMX／SKATEBOARD THE FINAL
開催日	11月27日（土）、11月28日（日）：2日間
会場	さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ
概要	 CHIMERA Unionが主催する国内最大のアーバンスポーツ競技大会「CHIMERA A-SIDE」は、日本発祥の世界大会であり、世界中のトップ選手から評価されている競技大会である。 開催初年である昨年大会の最終戦（愛知県）では、2日間の開催で総来場者数が約23,000人、賞金総額は6,000万円超の大規模大会であった。

◆新型コロナウイルス感染拡大に伴う開催延期及び中止決定

I. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う開催「延期」

令和3年10月、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い、選手、来場者、スタッフ等の安心安全を最優先に考え、令和4年2月11日（金）、2月12日（土）に「延期」することとなった。

II. 新型コロナウイルス変異株（オミクロン株）感染拡大に伴う開催「中止」

令和3年12月、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が世界各地で感染拡大しており、外国人選手の新規入国が停止され、国際的な交流を目的とする大会の開催が難しいと判断されるため、令和4年2月の大会についても開催「中止」することが決定された。

□ 当初の計画から変更となった点②（令和4年1月31日付事業計画変更承認申請書）

<変更前>

【A-1】体験イベントの開催：

- ・ 令和4年2月までに「全8回」の体験イベントを開催：変更時点までに「7回」終了

【B-1】モニターツアーの実施：

- ・ <第2回> 在日外国人向けアーバンスポーツ体験&さいたま市内観光日帰りバスツアー

<変更後>

【A-1】体験イベントの開催：

- ・ 動画コンテンツの配信（追加）：第8回体験イベントの代替事業として実施

【B-1】モニターツアーの中止：

- ・ 第2回モニターツアーを中止し、募集状況等について集計し、結果を報告する

◆ 新型コロナウイルス感染拡大（オミクロン株）について

令和4年1月当初より、新型コロナウイルスのオミクロン株が感染拡大しており、令和4年1月21日より埼玉県も「蔓延防止等重点措置」が適用された。
埼玉県内では1月下旬以降、右肩上がりに新規感染者数が増加しており、特に子どもたちを中心とした若年層の感染拡大が顕著であった。
令和4年1月31日付で、さいたま市より、2月11日に開催予定であった体験イベント及びモニターツアーについて開催を中止するよう要請が出された。

◆ 開催自治体からの中止要請に基づく実施内容の検討

令和4年1月31日、さいたま市からの中止要請に基づき、当法人にて、改めて実施内容について検討を行い、上述の通り、事業計画を変更した。
追加の動画コンテンツは「BMX」、「インラインスケート」、「ダンス」の3種類であり、それぞれ体験イベントに派遣予定であった講師が担当した。
また、モニターツアーについては、15組30名の募集定員のところ、38組66名の申込があり、募集状況等について報告書にまとめることとした。

6. 実施内容

【A-1】体験イベントの開催

A) イベントの概要

B) 実施コンテンツ及び講師について

イベント名	親子向けアーバンスポーツ体験イベント「アバスポさいたま」		
開催回数	全7回	参加費	1人500円
会 場	さいたま新都心バスターミナル（さいたま市大宮区）		
実施内容	① 体験教室：講師付きのアーバンスポーツ体験教室 ② レンタルエリア：コンテンツの貸出のみで親子で楽しむエリア		
ターゲットへの 有益性	◆ イベント内容について 「親子単位」での参加を前提としているため、アーバンスポーツの楽しさや手軽さを「親子で一緒に」体験するイベントであることを打ち出し、「参加者の集客」と「競技特性の理解」につながった。 - 複数のアーバンスポーツコンテンツを各開催回で用意することで、初めて競技に触れる層にとっては、イベントに参加するだけで自然と多くの種目を目にする事になり、事業実施後のアーバンスポーツを「する（したい）」・「みる（みたい）」につながった。 「ダンス」、「けん玉」、「ダブルダッチ」等のコンテンツの導入により、運動に対してネガティブなイメージを持つ親子に対しても、気軽にアーバンスポーツを体験する機会を提供することができ、アーバンスポーツの起源でもある「遊び」・「カルチャー」としての楽しさを理解してもらうことができた。		
	◆ 講師について CHIMERA Union、日本インラインスケート協会、さいたまブロンコスが擁するトッププレイヤーを講師とすることで、参加者にアーバンスポーツの安全な楽しみ方を教えるとともに、トッププレイヤーとのふれあいや専門家ならではのルールやマナーの啓発についての機会を提供した。		
	◆ 開催日時について 共働きの子育て世代の親子が気軽に参加できるよう土日だけでなく、平日の開催日を設定した。		
	◆ 会場について さいたま新都心バスターミナルは「JRさいたま新都心駅」から徒歩約7分の立地であることから、参加者のアクセスも良く、「参加者の集客」につながった。		

開催日	開催時間	実施コンテンツ				
10/23 (土)	10:00 -16:00	ダンス	BMX	スケート ボード	インライン スケート	3X3
10/24 (日)	10:00 -16:00	ダンス	ヨガ	インライン スケート	BMX& キックバイク	—
11/17 (水)	16:00 -19:00	BMX	キック バイク	ダブル ダッチ	インライン スケート	—
11/19 (金)	16:00 -19:00	ダンス	キック バイク	3X3	インライン スケート	—
11/27 (土)	10:00 -16:00	BMX	キック バイク	ポゴ スティック	けん玉	インライン スケート
11/28 (日)	10:00 -16:00	ダンス	BMX& キックバイク	スケート ボード	インライン スケート	—
12/18 (土)	10:00 -16:00	ダンス	BMX	スケート ボード	インライン スケート	3X3
講 師						
		CHIMERA Union		さいたまブロンコス		
		日本インラインスケート協会		講師なし（レンタルのみ）		



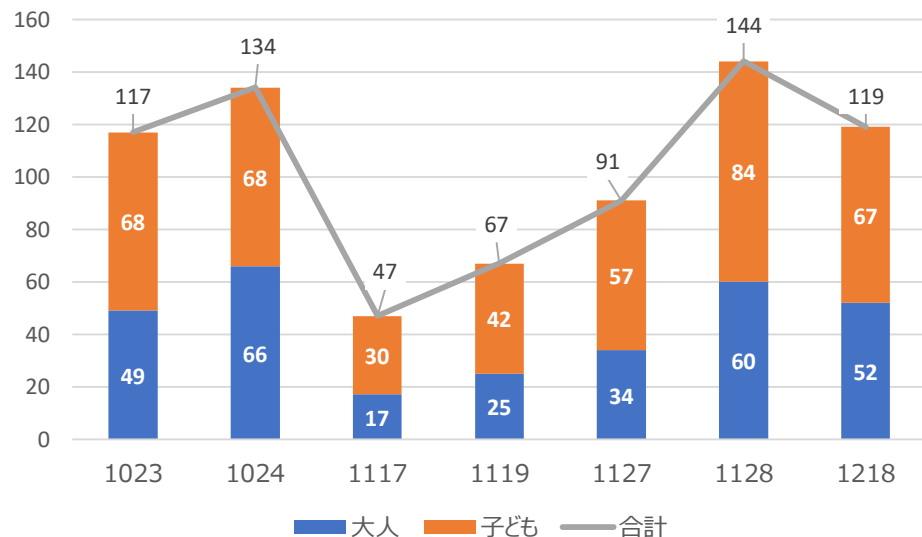
6. 実施内容

【A-1】体験イベントの開催

C) 参加者について

◆ 参加者数について

参加日	大人	子ども	合計
10/23	49	68	117
10/24	66	68	134
11/17	17	30	47
11/19	25	42	67
11/27	34	57	91
11/28	60	84	144
12/18	52	67	119
合計	303	416	719



◆ 種目ごとの参加者数について

① 体験教室：講師あり

種 目	大人	子ども
BMX	41	55
スケートボード	36	47
インラインスケート	49	56
3X3	13	15
ダンス	94	115
ヨガ	16	13
ダブルダッチ	3	7
ポゴスティック&けん玉	12	20
合計	264	328

② レンタルエリア：講師なし／レンタルのみ

種 目	大人	子ども
BMX&キックバイク	24	36
インラインスケート	11	16
キックバイク	2	20
合計	37	72

※【アンケート未回答者】大人：2名 / 子ども：16名

6. 実施内容

【A-1】体験イベントの開催

C) 参加者について

◆ 参加者の居住地について：事前アンケートに回答した代表者のデータのみ

□ さいたま市内外の内訳【(a) n=1,001／(b) n=283】

居住地	事前申込者数 (a)		実参加者数 (b)	
さいたま市	947	94.6%	264	93.3%
市外	42	4.2%	17	6.0%
未回答	12	1.2%	2	0.7%
合計	1,001	100%	283	100%

□ さいたま市内の居住区【(a) n=947／(b) n=264】

市内居住区	事前申込者数 (a)		実参加者数 (b)	
西区	22	2.3%	6	2.3%
北区	80	8.4%	14	5.3%
大宮区	182	19.2%	61	23.1%
見沼区	79	8.3%	20	7.6%
中央区	67	7.1%	20	7.6%
桜区	16	1.7%	4	1.5%
浦和区	269	28.4%	80	30.3%
南区	137	14.5%	27	10.2%
緑区	77	8.1%	29	11.0%
岩槻区	18	1.9%	3	1.1%
合計	947	100%	264	100%

□ 市外居住者の居住地（県内）【(a) n=37／(b) n=13】

市外（県内）	事前申込者数 (a)		実参加者数 (b)	
上尾市	5	13.5%	2	15.4%
朝霞市	3	8.1%	0	0.0%
伊奈町	1	2.7%	1	7.7%
桶川市	6	16.2%	3	23.1%
川口市	5	13.5%	2	15.4%
越谷市	14	37.8%	4	30.8%
志木市	1	2.7%	1	7.7%
戸田市	1	2.7%	0	0.0%
松伏町	1	2.7%	0	0.0%
合計	37	100%	13	100%

□ 市外居住者の居住地（県外）【(a) n=4／(b) n=4】

市外（県外）	事前申込者数 (a)		実参加者数 (b)	
市川市【千葉県】	2	50.0%	2	50.0%
板橋区【東京都】	1	25.0%	1	25.0%
寒川町【神奈川県】	1	25.0%	1	25.0%
合計	4	100%	4	100%

※ 事前申込者数 (a)：事前アンケートの回答結果

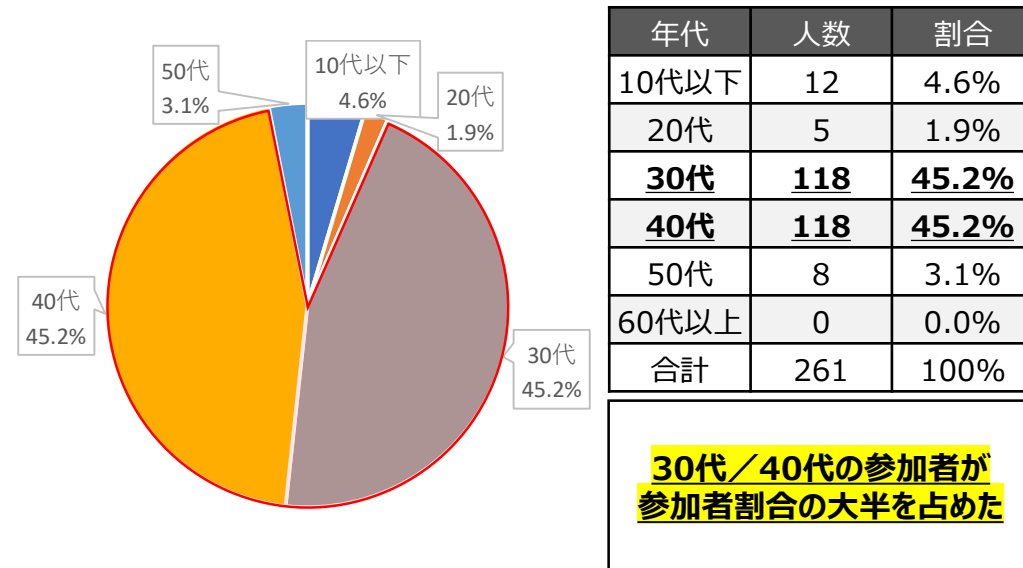
※ 実参加者数 (b)：(a)のうち実際に体験イベントに参加した方の数

6. 実施内容

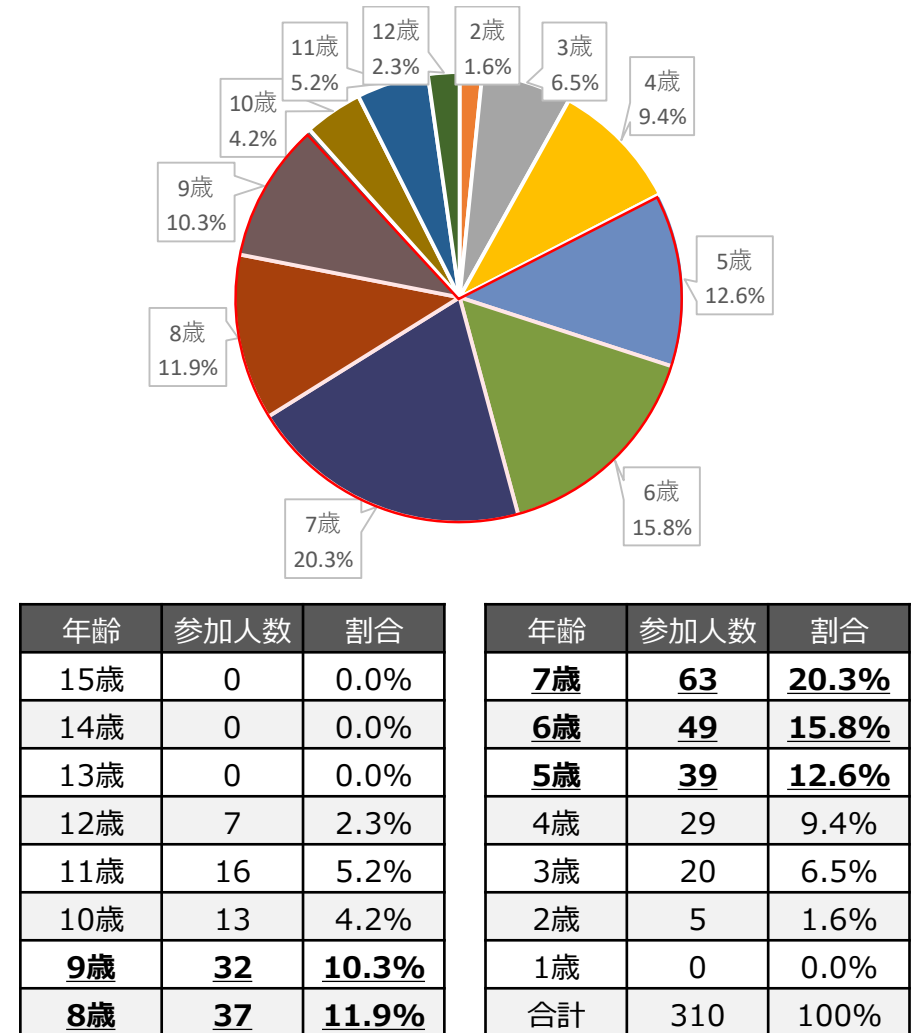
【A-1】体験イベントの開催

C) 参加者について

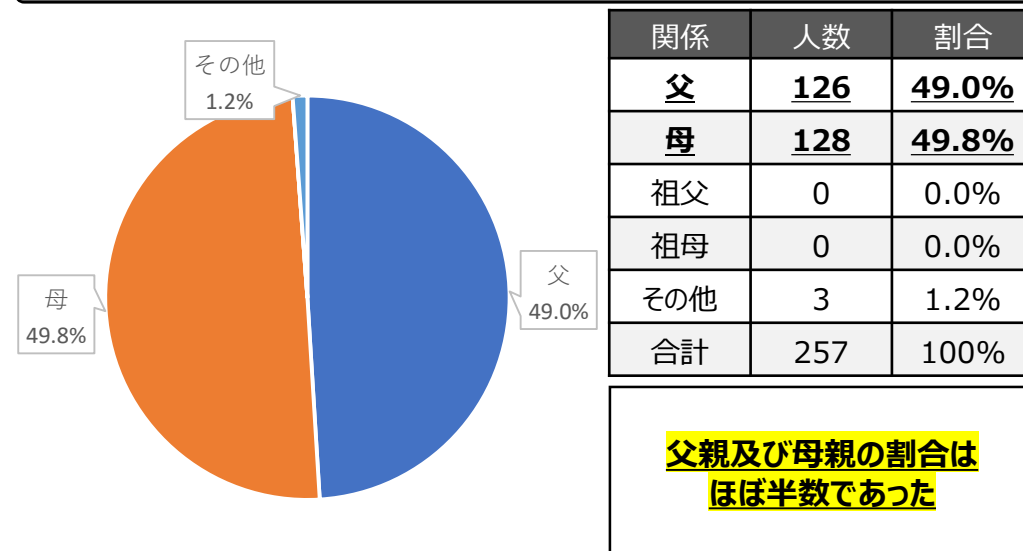
◆【大人】参加者の年代割合について（n=261：未回答除く）



◆【子ども】参加者の年齢について（n=310：未回答除く）



◆【大人】子どもとの関係について（n=257：未回答除く）



「5歳から9歳まで」の参加者割合が高く、同様の体験イベントでは「未就学児から小学校3年生まで」にターゲットを絞れるのではないかと

6. 実施内容

【A-1】体験イベントの開催：当日の様子

BMX



スケートボード



インラインスケート



3X3



ダンス



ヨガ



ダブルダッチ



ポゴスティック



けん玉



◆ 令和3年10月から12月まで開催した「**全7回**」の体験教室において「**92**」のアーバンスポーツコンテンツを実施

6. 実施内容

【A-2】動画コンテンツの配信

A) 動画コンテンツの概要

配信数	全9本	視聴料	無料
実施内容	① YouTubeによる動画配信 ② 地元TV局による特集番組放映		
ターゲットへの 有益性	◆ 動画内容について - リアルイベントに参加できない子どもたちも、気軽にアーバンスポーツを楽しむことで、コロナ禍で減少した運動機会の確保につなげるような動画内容とした。 - ターゲットへの訴求効果を高めるために、配信を予定しているアーバンスポーツコンテンツは、代表的なアーバンスポーツ種目である「BMX」と「インラインスケート」以外にも、学校だけでなく自宅で、親子で一緒に実施可能なアーバンスポーツ種目である「ヨガ」と、中学生年代にとって必修科目となった「ダンス」の動画を作成した。 - さいたま市内の全小中学校にチラシを配布することで、子どもたちだけでなく、親たちへのアーバンスポーツの周知を図った。 ◆ 配信時期について 【A-1】事業の実施前に動画コンテンツを配信することで、動画コンテンツの視聴者が楽しさを実感し、後日体験会（リアルイベント）へ参加する流れを作ることができた。 ◆ 配信方法について 「YouTube」を使用することで地域外の子どもたちも視聴可能。		

B) 「YouTube」での発信

項番	タイトル	再生時間	配信時期
1	ダンス体験「おうちで一緒にレッツダンス！」	2:48	R3.10
2	ヨガ体験「親子ヨガ～動物になろう～」	6:30	R3.10
3	ダンス体験「ジャンケン使って踊ってみた」	8:04	R3.11
4	ヨガ体験「呼吸でパワーアップ」	6:43	R3.11
5	ダンス体験「わかめゲーム」	4:02	R3.12
6	ダンス体験「マネして踊っちゃお！」	6:55	R4.2
7	BMX体験「プロライダーに正しい乗り方を学ぼう」	4:41	R4.2
8	インラインスケート体験「基本の動き&技にチャレンジ！」	4:13	R4.2
講 師			
ダンス	ミホゾネスさん、まいぷう。さん、なぎすぺさん、むーにーさん ほか (CHIMERA OPEN SESAMI)		
ヨガ	オタエさん (CHIMERA OPEN SESAMI)		
BMX	PiROさん (CHIMERA Union)		
インライン スケート	山崎 紀子さん (日本インラインスケート協会)		

C) 「テレビ埼玉」及び「J:COM」での発信

項番	タイトル	番組時間
1	のびのびシティ さいたま市 「アーバンスポーツを楽しもう！」	14:01
番組内容		
お笑い芸人の「ザ・たち」とシンガーソングライターの「yuka」さんが、 アーバンスポーツ（インラインスケート／ダンス）に挑戦！		

放送時期					
テレ玉	R3.11.21	J:COM	R3.11.28	YouTube	R3.11.29
講 師					
ダンス	ミホゾネスさん、まいぷう。さん (CHIMERA OPEN SESAMI)				
インライン スケート	山崎 紀子さん (日本インラインスケート協会)				

6. 実施内容

【A-2】動画コンテンツの配信

◆アバスポさいたま ダンス体験「おうちで一緒にレッツダンス！」



◆アバスポさいたま ヨガ体験「親子ヨガ～動物になろう～」



◆アバスポさいたま ダンス体験「ジャンケン使って踊ってみた」



◆ 各動画コンテンツでは、視聴者にアバスポの「楽しさ」を伝えることを特に意識して動画を作成

6. 実施内容

【A-2】動画コンテンツの配信

◆アバスポさいたま ヨガ体験「呼吸でパワーアップ」



◆アバスポさいたま ダンス体験「わかめゲーム」



◆アバスポさいたま ダンス体験「マネして踊っちゃお!」



◆「ダンス」、「ヨガ」の動画コンテンツでは、親子で一緒に「自宅で」楽しめるような内容の動画を作成

6. 実施内容

【A-2】動画コンテンツの配信

◆ アバスポさいたま BMX体験「プロライダーに正しい乗り方を学ぼう」



◆ アバスポさいたま インラインスケート体験「基本の動き&技にチャレンジ！」



◆ のびのびシティさいたま市「アーバンスポーツを楽しもう」



◆ 「BMX」、「インラインスケート」の動画コンテンツは初めて各競技へ挑戦する方向けの動画を作成

6. 実施内容

【B-1】モニターツアーの実施

A) モニターツアーの概要

実施回数	全2回	参加料	1回目：有料
実施内容	① 3X3体験 & さいたまブロンコス試合観戦日帰りツアー ② アーバンスポーツ体験 & 市内観光ツアー：在日外国人向け		
ターゲットへの 有益性	◆ <u>メインイベントについて</u> ・「さいたまブロンコス」の公式戦の観戦を通じて、トッププレイヤーのパフォーマンスや実際の会場の迫力等を体感することで、親子と一緒に「初めての経験」を共有し、事業実施後のアーバンスポーツの継続意欲醸成やリピート意欲醸成につながった。 ◆ <u>ツアー企画について</u> ・参加料については旅行者の負担とならないような金額を設定した。		

B) 「さいたまブロンコス」について

チーム名	さいたまブロンコス (THE SAITAMA BRONCOS)
所属リーグ	B3リーグ (日本バスケットボールリーグ)
ホームタウン	埼玉県さいたま市、所沢市
概 要	 さいたま市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム「さいたまブロンコス」。2021-22シーズンにおいて、さいたま市開催は「全9節（18試合）」であり、会場はすべてさいたま市浦和区にある「浦和駒場体育館」にて実施予定である。

◆【第1弾】3X3体験 & さいたまブロンコス試合観戦日帰りツアー

① ツアー内容の概要

実施日	令和3年12月18日（土）日帰り
定員	30名（親子15組）：大人1名・子ども1名での参加を想定
参加料金	大人：4,000円 中学生：3,000円 小学生：2,000円
食事条件	朝0回 昼1回 夜0回
旅行代金に 含まれるもの	① 貸切バス代金 ② 昼食代（さいたま新都心：素敵屋さん【ステーキ丼】） ③ 3X3体験教室参加費用 ④ さいたまブロンコスホームゲーム 1階指定座席代金 ⑤ 添乗員同行費用 ⑥ 諸経費・消費税
旅行代金に 含まれない ものの一例	① 個人的性格の費用、飲み物代、クリーニング代、電話代等 ② 傷害、疾病に関する医療費 ③ 任意の旅行傷害保険料 など

② 旅行行程について

9:45	さいたま新都心バスターミナル（集合）
10:00	3X3体験 さいたまブロンコス・波多智也選手による体験会
11:15	【バス移動】さいたま新都心バスターミナル ⇒ 素敵屋さん
11:30	昼食 洋食レストラン「素敵屋さん」にて「ステーキ丼」を堪能
12:30	【バス移動】素敵屋さん ⇒ 浦和駒場体育館
14:00	B3リーグ公式戦観戦 さいたまブロンコス vs アイシンアレイオンズ
16:15	【バス移動】浦和駒場体育館 ⇒ JR浦和駅（解散）

6. 実施内容

【B-1】モニターツアーの実施

③ 参加者数等について：子どもは「小学生」のみ

参加日	大人	子ども	合計
12/18	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>16</u>
【総売上】 48,000円 （（4,000円×8名）+（2,000円×8名））			

居住地	大人	子ども	合計	性別	大人	子ども	合計
さいたま市	7	6	13	男性	3	5	8
川口市	1	2	3	女性	5	3	8
合計	8	8	16	合計	8	8	16

④ 「さいたまブロンコス」試合結果について

WIN

さいたまブロンコス 87 - 77 アイシンアレイオンズ

LOSE

（浦和駒場体育館）

TEAM	1Q	2Q	3Q	4Q
さいたま	21	20	13	33
アイシン	12	17	20	28

◆ 12月18日モニターツアーの様子

さいたまブロンコス・波多選手が来てくれました



3X3体験会（さいたま新都心バスターミナル）

名物の「ステーキ丼」を堪能しました！



昼食（素敵屋さん：さいたま市大宮区）

接戦の末、さいたまブロンコスが見事勝利！！



Bリーグ試合観戦（浦和駒場体育館）

◆【第2弾】アーバンスポーツ体験＆市内観光ツアー（アーバンスポーツツーリズムモニタリングツアー）：中止

① ツアー内容の概要

実施日	令和4年2月11日（金・祝）日帰り
定員	30名：在日外国人を対象
参加料金	無料

② 旅行行程について

(1)	アーバンスポーツ体験「アバスポさいたま」（50分）
(2)	「鉄道博物館」拝観／昼食（150分）
(3)	「大宮盆栽美術館」拝観（60分）

✓ **第2弾モニターツアーについては自治体（さいたま市）からの中止要請を受けて開催中止**

6. 実施内容

【B-2】SNSでの情報発信

A) 関係団体のアカウントによる情報発信

□ 本事業の発信に活用したSNSアカウント

◆ Instagram

① アーバンくん (@urbankun_official) 【SSC】



② CHIMERA GAMES (@chimeragame) 【CHIMERA】



◆ Twitter

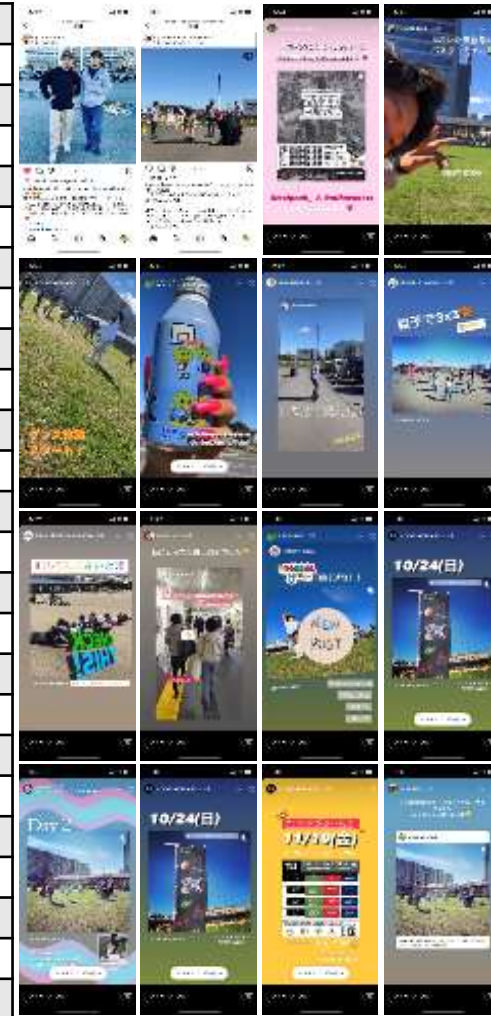
① さいたま市広報課 (@SaitamaCityPR) 【さいたま市】



B) 講師による情報発信

□ SNSアカウントにて発信して頂いた皆さま（Instagram：一部抜粋）

1	13mind Distributions/GoUeda (@goueda13mind)
2	ADACHI"PIRO"HIROKI (@adachi_hiroki)
3	cheb3kan (@cheb3kan)
4	CHIMERA OPEN SESAMI (@chimeraopensesami)
5	EMINE (@__emnmx)
6	Hayato Nakatani Aguess (@hayatobmx)
7	Jun Kamata (@k_junstagram)
8	KZM (@wkbykzm)
9	M (@moonymang)
10	-MEME- (@meme0912)
11	MIHOZONESS (@mihozoneess)
12	MISA (@misa_mrs.dd)
13	Noriko Yamazaki (@norinori77k)
14	OTAE (@otae_otae)
15	RHYME HOMMURA (ライム) (@rhymebmx)
16	Rikako (@rikako_yurikahi2)
17	shinnosuketogo (@shinnosuketogo)
18	Taisuke Fukumoto (@taisuke_waffle)
19	イワネスインセイ (@iwanessinsane)
20	さいスポ (@saitamasports)
21	さいたま Broncos 公式アカウント (@thesaitamabroncos)
22	ナギザスペーススッパ (@nagithespstppr)
23	まいぷ。 (@maipooh_)
24	岩野 (八田 荘) (@iwano_gun)
25	吉田 幸生 (@koh.yoshida)
26	荒畑 潤一 (@junichiarahata)
27	世界のていゆつ (@sekainotu2)
28	前垣 馨 (@caolu_burn_maegaki)
29	日本インラインスケート協会 (@japaninlineskateassociation)



**「ストーリーズ」機能を中心に
SNSで幅広く情報発信**

【+α】マナー啓発チラシの作成

アーバンスポーツの体験イベント参加者向けに**マナー啓発チラシ**を作成した。
初めてアーバンスポーツに取り組む「初心者向け」の内容としている。

□ マナー啓発チラシの内容（全16項目）

タイトル	アーバンスポーツのルールとマナー ～笑顔で楽しくみんなでアーバンスポーツを体験しよう！～
◆ Before（アーバンスポーツをする前に）	
①	あいさつをしましょう
②	必ず準備運動をしましょう
③	スタッフの話をしっかりと聞きましょう
④	他のスポーツも見てみましょう
◆ Manners&Rules（体験エリアについて）	
⑤	コース内での追い越し禁止や順番を必ず守りましょう
⑥	無理な使い方や技は絶対にしないでください
⑦	決められた場所や時間以外でやってはいけません
⑧	ペットボトルや食べ物は散らかさず、邪魔にならない所におきましょう
◆ Wear（服装について）	
⑨	ヘルメット／プロテクターを必ず着用しましょう
⑩	運動のできる靴や服装で参加しましょう
⑪	余った靴の紐は靴の中に入れてみましょう
⑫	スカートではなく、ズボンで参加しましょう
◆ Others（その他）	
⑬	ゴミは必ず持ち帰り、来た時よりもキレイにしましょう
⑭	撮影するときは許可を取りましょう
⑮	ケガをしてしまった場合や体調が悪くなった場合には、すぐにスタッフに声を掛けてください
⑯	他の人の邪魔や迷惑になることはやめましょう

□ マナー啓発チラシデザイン



7. 新型コロナウイルス感染防止対策について

①【A-1】体験イベントでの対策

- ・ 事前申込による参加者の把握
- ・ 参加者用「同意書」の提出（代表者氏名、参加者氏名、連絡先、当日の体温等）
- ・ 参加者の検温及び手指消毒の徹底
- ・ スタッフの検温、手指消毒、マスク着用の徹底
- ・ 各体験エリアへの消毒液の設置
- ・ レンタルコンテンツの消毒の徹底
- ・ 会場内に手指消毒等を促す表示の掲出
- ・ 参加者同士の距離を確保するため体験定員を縮小
- ・ 参加者について体験時間外のマスク着用の徹底
- ・ 「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」の活用

② 【B-1】モニターツアーでの対策

- ・ 事前申込による参加者の把握
- ・ 参加者用「同意書」の提出（代表者氏名、参加者氏名、連絡先、当日の体温等）
- ・ 参加者の検温及び手指消毒の徹底
- ・ スタッフの検温及び手指消毒の徹底
- ・ ツアーバス内への消毒液の設置
- ・ 参加者同士の距離を確保したツアーバス内の座席設定
- ・ 参加者同士の距離を確保した昼食の座席設定
- ・ 「埼玉県LINEコロナお知らせシステム」の活用

③ 「同意書」について

[illegible]

- ホームページ等で事前にアナウンスを行ったうえで、体験イベント及びモニターツアー参加者全員に「同意書」の提出を求めた。
- 当日の体温は「受付」にて検温
- 体験イベント及びモニターツアー参加者だけでなく、「同行者」についても、検温及び記入を求めた。
- 体験イベント及びモニターツアー参加後、参加者から体調不良となった等の連絡はなかった。

④ 当日の対策の様子について



✓ 全事業について感染症防止対策を徹底することができた

◆アーバンスポーツ×政令指定都市トップクラスの成長力

さいたま市は政令指定都市に移行後も常に人口増加を続けており、2021年4月1日現在の人口は「1,327,691人」であり、特に「30代から50代まで」の年齢層が最も多い人口構造となっている。

また、2020年、総務省の「住民基本台帳人口移動報告」によると、転入超過数が多い市町村として「全国第4位」であり、人口は政令指定都市移行後「約27.5万人」増加している。さらに、総務省の同報告によると、年齢別の「0歳から14歳」においては転入超過数が6年連続「全国1位」を誇っている。

このことから、アーバンスポーツを「する」人口（競技人口）を増やすうえで、メインターゲットとなる「14歳以下」の子どもたちが常に増え続けているという「まちの成長力」は本市特有の地域資源であり、アーバンスポーツ振興を目的とした事業の実施に非常に適した人口構造であると言える。

また、アーバンスポーツは「ひとりで自由に手軽に」楽しめるという競技特性を持つことから、コロナ禍において非常に注目を集めている。

したがって、さいたま市において、「アーバンスポーツ」を活用した事業を実施すること自体が、政令指定都市トップクラスの成長力という地域資源を活用することにつながっていると考ええる。

データ・資料①

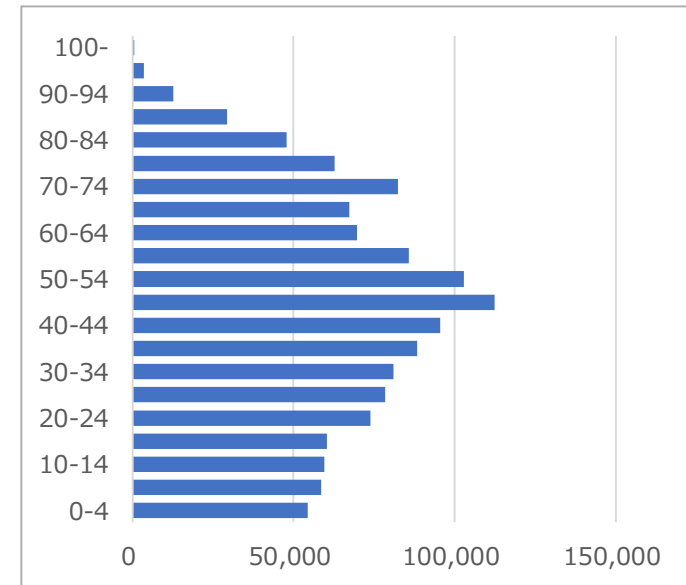
◆ 転入超過数ランキングトップ5（2020）

順位	市町村	転入超過数
1	大阪市	16,802
2	東京都特別区郡	13,034
3	横浜市	12,447
4	さいたま市	10,922
5	札幌市	10,493

<出典> 2020年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

データ・資料②

◆ さいたま市の人口ピラミッド（令和3年度）



<出典> さいたま市の人口・世帯：令和3年4月1日現在（さいたま市）

◆ 0-14歳転入超過数ランキングトップ5（2020）

順位	市町村	転入超過数
1	さいたま市	1,665
2	札幌市	929
3	印西市	792
4	流山市	744
5	つくば市	693

<出典> 2020年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

◆「アーバンスポーツによる施設の利活用モデル」の創出

【A-1】体験イベントの実施会場である「さいたま新都心バスターミナル」は、2020年6月に開業し、JRさいたま新都心駅から徒歩約7分の立地であり、利用者は、高速バスを利用して、関東圏の空港や、青森、名古屋、大阪、京都など全国各地へ向かうことができる。

開業当初、さいたま市としては、東日本の交流拠点として、インバウンドも含めた観光バスでの観光客の来訪を期待していた。事実、施設内には複数言語での案内表示が設置されるなど、訪日外国人向けの配慮が至るところになされており、東京2020大会に向けた施設であることがわかる。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、観光バスの本数は激減しており、バスターミナル内が閑散としてしまう時間も見受けられる。

さいたま市によると、現在、本施設のうち、大型車駐車場と中央の芝生広場については、イベントの開催会場等として有料での貸出も行っているが、コロナ禍での利活用方法の周知には苦慮しているとのことであった。

本事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、整備当初の目的を達成できず、利活用方法の周知に苦慮している施設を会場として、アーバンスポーツの体験イベントを開催することにより、市民だけでなく、地域外の人々へ利活用方法の周知を図った。また、本事業の実施により、さいたま新都心バスターミナルが、アーバンスポーツの競技関係者の興味・関心を惹くことで、今後、民間団体主催のアーバンスポーツの競技大会やイベントが開催されるなど、アーバンスポーツによる施設の新たな利活用モデルとなっていくことを期待している。さらに、今回の成功事例を通じて、市内に複数存在する未利用地や都市公園内の一部においても、アーバンスポーツでの利活用を行政側に打診することで、アーバンスポーツを「する」場所の確保につなげていく。



◆「自然・歴史・文化・スポーツ」が融合する豊富な文化資源の活用

課題【②-3】のとおり、さいたま市は「浦和レッズ」や「大宮アルディージャ」に代表されるように「サッカーのまち」として全国的な知名度を誇っているだけでなく、バスケットボールの「さいたまブロンコス」、卓球の「T.T彩たま」、自転車ロードレースの「さいたまディレーブ」など、様々なプロスポーツチームが本市をホームタウンとしている。また、「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」や「さいたまマーチ」をはじめとするたくさんのスポーツイベントが市内で開催されてきた。

また、鉄道博物館・大宮盆栽美術館・岩槻人形博物館に代表される文化施設は国内外を問わず人気を集めており、「鉄道のまち」、「盆栽のまち」、「人形のまち」など文化的な側面からも深い歴史を持っているほか、見沼田んぼという日本一の桜回廊と呼ばれる首都近郊における貴重な大規模緑地空間も有しているなど、日本の伝統的な文化や歴史、景観を残したまちとしての魅力もある。

さらに、食文化においては、「浦和のうなぎ」、「スタミナラーメン」、「豆腐ラーメン」、「岩槻ネギの塩焼きそば」などのご当地グルメや、全国的にみても菓子類の消費額が高い「スイーツのまち」としての特徴が挙げられるほか、特産品においては、「さつまいも」、「くわい」、「お米」、「岩槻ネギ」、「ヨーロッパ野菜」などの農産物や100年以上の歴史を持つ4つの酒蔵の個性ある地酒などたくさんのユニークな魅力をもっている。

今回の第1弾モニターツアーでは、地元のバスケットボールチーム「さいたまブロンコス」の価値向上を図れたほか、中止となってしまった第2弾モニターツアーでは、将来のインバウンド獲得に向けて、鉄道博物館と大宮盆栽美術館を巡ることで、「アーバンスポーツ×日本の伝統文化」といったアーバンスポーツと他分野の連携によるツーリズムの価値向上を目指した。



◆ 地域プロスポーツチームとの連携

第1弾モニターツアーでは、さいたま市をホームタウンとする地域プロスポーツチーム「さいたまブロンコス」との連携を図ることで、アーバンスポーツツーリズムとしての価値を高める工夫を施した。

「バスケットボール」のB3リーグチームである「さいたまブロンコス」は、運営体制の変革とともに、昨年度、新たにさいたま市をホームタウンとすることを発表した。市内プロスポーツチームのなかでも最も新しく参入したチームであり、地域の子どもたちを対象としたスクール事業の開催など、チームとして地域密着を目指すため、本市及び市教育委員会と連携協定を締結し、ホームゲームの開催だけでなく、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいるところである。

本事業では、【A-1】体験イベントへの講師派遣や【B-1】モニターツアーでの試合観戦等を通じて、「3X3」を含むバスケットボールの普及・振興を図るとともに、より一層自分たちのチームを知ってもらう取り組みを行った。

特にモニターツアーでは、初めてさいたまブロンコスの試合を現地で観戦したという参加者が大半であり、新たなファンの獲得につなげることができた。

今後もチーム主体で継続して同様の事業を実施していくことで、市内外から試合の観客を呼び込み、市内観光入込客数の増加及び地域経済の活性化に貢献することができると考える。

また、地域住民にとっても、地元のプロスポーツチームの地域貢献活動により、地域アイデンティティの醸成や地域コミュニティの形成につながるなど様々な効果が期待できる。



◆ 参加者へのルール及びマナーの啓発

アーバンスポーツは海外のストリートカルチャーを起源としているため、海外では街なかでアーバンスポーツを楽しむことが日常的な文化となっている国や地域がある。

しかし、日本において、アーバンスポーツはここまでの競技としての発展を迎える前に「競技者のマナー問題」など一部の悪い側面が先んじてテレビ・新聞等のメディアを通じて報道されてきたため、ストリートでの活動は全国のほとんど地域で認められていない現状がある。

本事業においては、そうした国内に根付いたアーバンスポーツの「負のイメージ」を少しでも改善すべく、子どもたちにできるだけ小さいころからアーバンスポーツに触れてもらい、「遊び」・「カルチャー」としての楽しさも感じてもらうながらも、「ルール」や「マナー」を学ぶ機会を提供することができた。

また、その子どもたちが、本事業参加後に、少しでも自分たちの身の回りにいる家族や友人に「ルール」や「マナー」を伝える機会をもってくれるよう、体験イベントのなかで講師による指導やルール及びマナーに関する掲示を行ったほか、マナー啓発チラシを作成・配布することで、子どもたちを中心とした地域のマナー啓発の仕組みをつくり、「地域の生活を守る取組」となることを意識した。

アーバンスポーツが地域から排除され「住民に迷惑を与える遊び」にするのではなく、地域から歓迎され「住民から受け入れられるスポーツ」として認識してもらうべく、「幼少期からのルール及びマナー啓発」に努めるとともに、将来的にはアーバンスポーツのプレイヤー同士が自らルールやマナーを教えるような文化の形成につなげていきたい。



◆ SNSによる情報発信

【B-2】SNSによる情報発信では、様々なアカウントから情報を発信していくことで、本事業の取組について幅広く情報発信を行った。

中止となった第2弾モニターツアーにおいては、在日外国人を対象としていたことから、「英語」での告知用ホームページの作成やSNSの投稿等を行い、将来的なグローバルコンテンツとなり得るための工夫を施した。



▲【モニターツアー専用ホームページ】



【Instagram投稿】▶

◆ 第2弾モニターツアーの申込状況

令和4年2月11日（金）に開催予定であった第2弾モニターツアーについては中止決定前に参加者の募集を実施していた。

参加者の申込状況については以下のとおりであり、定員を超える多くの在日外国人から参加申込があり、外国人のニーズの把握につながった。

◆ 申込状況

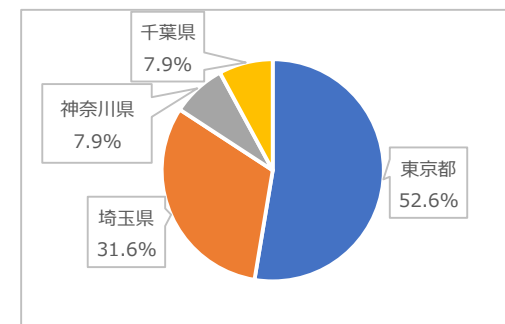
申込者総数	38組66名
定員	30名
リーチ数	38,792件
フォームクリック数	583回

◆ 代表者の国籍

国籍	代表者
アメリカ合衆国	6
インドネシア	5
フィリピン	4
インド	3
フランス	3
中国	2
韓国	2
ベトナム	2
台湾	1
オーストラリア	1
香港	1
サウジアラビア	1
ベルギー	1
モンゴル	1
イギリス	1
バングラデシュ	1
メキシコ	1
ナイジェリア	1
日本	1
合計	38

◆ 代表者の住所（都道府県）

住所	代表者
東京都	20
埼玉県	12
神奈川県	3
千葉県	3
合計	38



◆「リアルイベント」と「デジタルコンテンツ」の融合

本事業では、観光客にリアルな体験価値を提供する「リアルイベント」を中心コンテンツとしているが、「withコロナ期」のニューノーマルなコンテンツとして「デジタルコンテンツ」が注目を集めている。

エンターテインメント業界においては、オンラインライブやeスポーツなど、様々なデジタル技術を活用した取組が「withコロナ期」における各企業の収益の柱となりつつある。

また、アーバンスポーツ界においても、トッププレイヤーだけでなく、初心者から上級者まで、SNSを活用して基礎知識やトリックを学ぶことが常識となり、「ひとりで自由に手軽に」楽しめる競技であるからこそ、SNS上でのつながりに高いニーズが生まれている。

本事業においても、「アフターコロナ期」に向けた実証実験として「リアルイベント」を取り入れつつも、「withコロナ期」のニューノーマルな取組を実践するため、【A-2】として「動画コンテンツの配信」を実施した。

ヨガやダンスといったアーバンスポーツ種目を中心に、親子で一緒に楽しめる動画コンテンツを作成し、学校や自宅で、気軽にアーバンスポーツを楽しむ機会を提供することができた。

「リアルイベント」は開催時間や場所が限られるため、参加できない人たちに対して、どのような環境であっても運動機会を提供することができる「動画コンテンツの配信」は「SDGs：3.すべての人に健康と福祉を」という観点からも、非常にサステナブルな取組であったと言える。

アーバンスポーツツーリズムコンテンツを創出するうえで、「リアル」と「デジタル」を融合させた取組を実施することは、幅広い年齢・地域への競技振興につながり、様々なプレイヤーのニーズに応えることになった。



◆「さいたま市GIGAスクール構想」との連携

さいたま市教育委員会では「さいたま市GIGAスクール構想」を掲げ、2021年2月に10万人の全児童・生徒に「1人1台」タブレットパソコンを配布し、学校のICT環境の整備が進められてきた。

新型コロナウイルス感染拡大によりオンライン授業の実施が浸透してきたところではあるが、今後は国語や算数といった各教科の学びにとどまらず、教科を横断した「探究的な学び」に導くだけでなく、体育や日常の運動といった「スポーツ」での活用も期待されている。

課題【③-1】のとおり、新型コロナウイルス感染症の流行により、部活動の活動自粛が求められ、特に中学1年生・2年生において、体育以外での生徒の運動頻度が減少する結果となっている。GIGAスクール構想の推進により、学校だけでなく、自宅での学習も可能となったことで、学校外での運動においてもタブレットパソコンの活用が可能となった。

本事業では、【A-2】で作成した動画コンテンツをタブレットパソコンにて配信する予定であったが、現時点ではさいたま市のYouTubeアカウントにて配信するに留まっており、体験イベントの参加者を中心に、自宅等でアーバンスポーツを楽しんでもらっているところである。

来年度以降、再度、さいたま市GIGAスクール構想と連携し、オンラインによる動画コンテンツの配信も行うことで、より多くの子どもたちへアーバンスポーツの普及促進を図るとともに、子どもたちの運動機会の確保につなげていくことで、地域住民に貢献することを目指していく。



11.効果検証

◆ 効果検証方法

① 概要

本事業の効果検証方法は、【A-1】体験イベント及び【B-1】モニターツアーの参加者へのアンケート結果をもとに、コロナ禍における「アーバンスポーツツーリズム推進による地域活性化モデル」創出に向けて事業全体の効果検証を行うこととする。

② 調査項目の概要

A) 「体験イベント」参加者へのアンケート

調査対象	体験イベントの参加者（大人・子ども）	
調査のタイミング	大人	3回【事前/当日/事後】※事前・事後は代表者のみ回答
	子ども	1回【当日のみ】
調査手法	事前	「電子」でのアンケート：SELECTTYPE
	当日	「紙」によるアンケート
	事後	「電子」でのアンケート：Googleフォーム
設問数	大人	【事前】11問、【当日】12問、【事後】12問
	子ども	【当日】10問
【大人】調査項目（一部）	項番	内容
	①	身体を動かすきっかけづくりとなったか：運動習慣の定着状況
	②	アーバンスポーツのイメージ／継続意向調査
	③	アーバンスポーツのスクール事業の事業性調査
	④	アーバンスポーツの集客力／回遊性調査
	⑤	その他基礎質問（属性情報等）
【子ども】調査項目（一部）	①	アーバンスポーツを続けたいか／好きになったか
	②	学校の授業や保育園などでアーバンスポーツをやりたいか
	③	その他基礎質問（属性情報等）

※ 詳細な調査項目は別紙参照

B) 「モニターツアー」参加者へのアンケート

調査対象	モニターツアーの参加者（大人・子ども）	
調査のタイミング	大人	1回【当日のみ】
	子ども	1回【当日のみ】
調査手法	当日	「紙」でのアンケート
設問数	大人	【当日】25問
	子ども	【当日】10問
【大人】調査項目（一部）	項番	内容
	①	モニターツアーにおける企画内容／旅行形態への評価
	②	モニターツアーにおける地域資源の評価／再参加意向調査
	③	アーバンスポーツイベントの満足度／評価点調査
	④	インバウンド獲得に向けたツアー内の魅力度調査
	⑤	その他基礎質問（属性情報等）
【子ども】調査項目（一部）	①	アーバンスポーツイベントをまた観たいと思うか
	②	今回のツアーは楽しかったか／また参加したいと思うか
	③	その他基礎質問（属性情報等）

※ 詳細な調査項目は別紙参照

11.効果検証

◆ 効果検証方法

③ 期待される効果と検証方法

期待される効果	目標到達点	検証方法
【運動機会に係る指標】 身体を動かすきっかけづくり	事業実施後のアンケート調査にて、 「今後、運動する機会・時間が増えると思う」と 回答した者の割合【80%達成】を目指す	- 全参加者を対象に、体験イベント参加日（当日）にアンケート調査を実施し、参加後のスポーツ実施意欲改善効果を検証する。 - 大人の参加者を対象に、体験イベント申込時（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、大人の体験イベント参加前後のスポーツ実施頻度について比較分析を行い、スポーツ習慣の定着効果を検証する。
【ツーリズムに係る指標】 地域資源に対する評価向上	事業実施後のアンケート調査にて、 「ぜひまた参加したい」と 回答した者の割合【50%達成】を目指す	- 大人の参加者を対象に、モニターツアー参加日（当日）にアンケート調査を実施し、類似プログラムへの再参加意向について検証する。 - 大人の参加者を対象に、モニターツアー参加日（当日）にアンケート調査を実施し、モニターツアー参加前後の期待値と満足度について比較分析を行い、モニターツアーを通じた地域資源に対する価値向上効果を検証する。
【競技振興に係る指標】 アーバンスポーツの継続意欲醸成	事業実施後のアンケート調査にて、 「今後もアーバンスポーツを続けたい」と 回答した者の割合【60%達成】を目指す	大人の参加者を対象に、体験イベント参加日（当日）にアンケート調査を実施し、自身のアーバンスポーツ継続意欲醸成効果について検証する。また、同様のアンケート調査にて、大人から自身の子どもへのアーバンスポーツ継続に係る期待値について検証する。

④ アンケート取得数

◆ 本事業に係るアンケート取得数

	事前	当日		事後
区分	大人	大人	子ども	大人
【A-1】 体験 イベント	1,001	301	400	84
【B-1】 モニター ツアー	—	7	8	—

※ 大人／事前：キャンセル待ち等も含む申込総数
※ 大人／事前：代表者1名が申込時にアンケートに回答
※ 大人／事前：実際に参加した代表者数 ⇒ 283名
※ 大人／当日：申込者以外の同行者（母親等）も含む

✓ 【A-1】体験イベント（大人／事前）内訳

区分	種目	申込者数	実参加者数	倍率
体験	BMX	172	41	4.20
	スケートボード	323	33	9.79
	インラインスケート	186	47	3.96
	3X3	47	12	3.92
	ダンス	140	87	1.61
	ヨガ	18	14	1.29
	ダブルダッチ	11	3	3.67
	ポグスティック&けん玉	16	12	1.33
レンタル	BMX&キックバイク	49	22	2.23
	インラインスケート	23	11	2.09
	キックバイク	16	1	※子どものみ
合計		1,001	283	3.54

✓ 【A-1】体験イベント（大人／当日・事後）内訳

開催日	大人（同行者も含む）			子ども		
	参加者数	アンケート 回答数	未回答	参加者数	アンケート 回答数	未回答
1023	49	49	0	68	61	7
1024	66	64	2	68	60	8
1117	17	17	0	30	30	0
1119	25	25	0	42	41	1
1127	34	34	0	57	57	0
1128	60	60	0	84	84	0
1218	52	52	0	67	67	0
合計	303	301	2	416	400	16
事後	—	84	—	—	—	—

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

① 【運動機会に係る指標】身体を動かすきっかけづくり

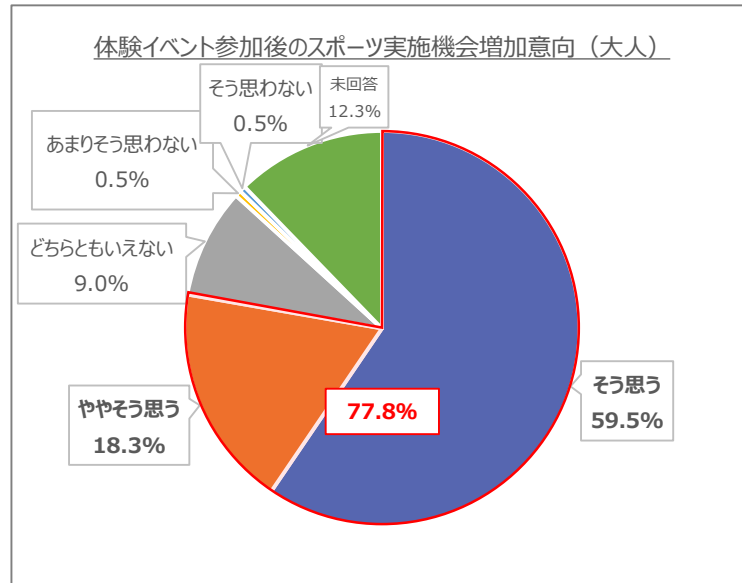
【結果①-1】大人のスポーツ実施意欲について

体験イベント参加日（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、大人のスポーツへの取組意欲にもたらす影響について検証した。

当日アンケート調査におけるスポーツへの取組意欲に関する設問について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合が、「**77.8%**（400人中311人）」であり、体験イベントへの参加がスポーツ実施意欲を改善させるという結果が得られた。

□ 体験イベント参加後のスポーツ実施機会増加意向（n=400）

今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか



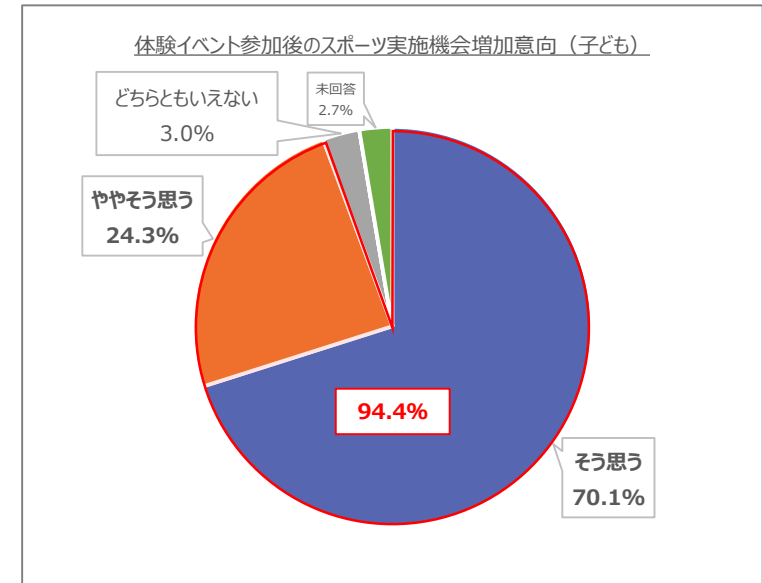
【結果①-2】子どものスポーツ実施意欲について

体験イベント参加日（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、子どものスポーツへの取組意欲にもたらす影響について検証した。

当日アンケート調査におけるスポーツへの取組意欲に関する設問について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合が、「**94.4%**（301人中284人）」であり、体験イベントへの参加がスポーツ実施意欲を改善させるという結果が得られた。

□ 体験イベント参加後のスポーツ実施時間増加意向（n=301）

今日（きょう）やったことをきっかけに、うんどうやスポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか。



【分析／考察】

- ・【結果①-1】アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、約8割の参加者（大人）が**今後の運動機会が増えると思う**と回答
- ・【結果①-2】アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、約9割の参加者（子ども）が**今後の運動時間が増えると思う**と回答
- ・アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、**子育て世代の親子のスポーツ実施意欲を向上**させるという結果が得られた。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

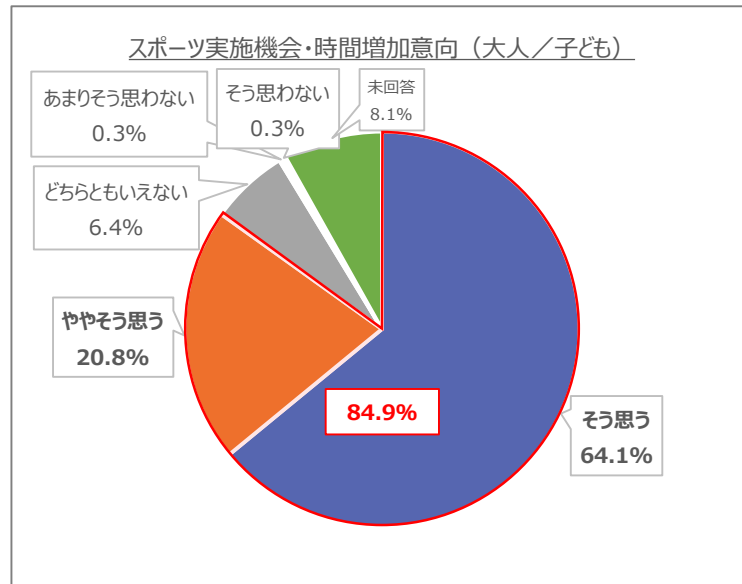
① 【運動機会に係る指標】身体を動かすきっかけづくり

【結果①-3】スポーツへの取組意欲に関する効果検証について

目標到達点である『「今後、運動する機会・時間が増えると思う」と回答した割合』について検証するため、前述の【結果①-1】及び【結果①-2】のそれぞれの結果から、スポーツへの取組意欲に関する設問における、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合を合計すると、「**84.9%**（701人中595人）」であり、目標値として設定した「80%」を上回る結果を得られた。

□ スポーツ実施機会・時間増加意向（n=701）

【大人】今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか
【子ども】今日(きょう)やったことをきっかけに、うんどうやスポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか。



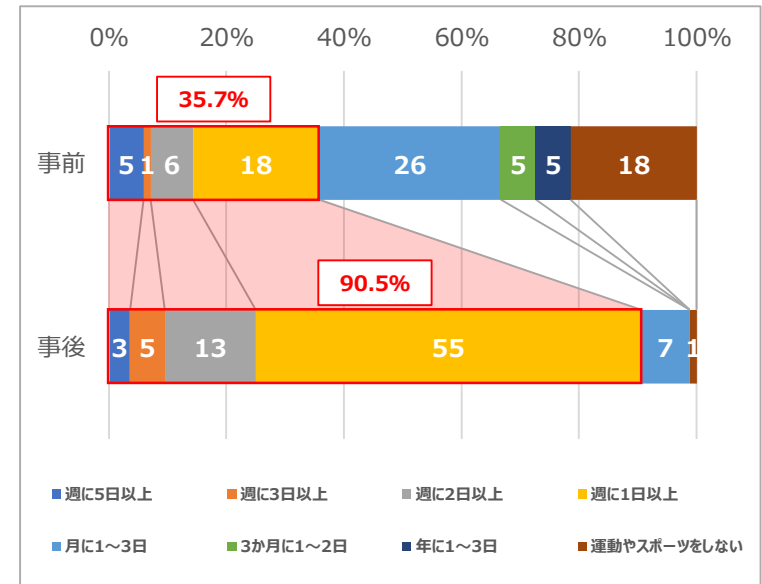
【結果①-4】週1日以上スポーツ習慣の定着（実施率）について

大人の参加者を対象として、体験イベント参加前（事前）及び参加中（事後）に実施したアンケート調査の結果をもとに、体験イベント参加前後のスポーツ実施頻度について比較分析を行った。

体験イベント参加前後のスポーツ実施頻度に関する設問について、「週1日以上」実施していると回答した者の割合が「35.7%（84人中40人）」から「**90.5%**（84人中76人）」へ上昇したという結果が得られた。

□ 週1日以上スポーツ習慣の定着割合（n=84）

【事前】あなたは1週間のうち、運動やスポーツをどのくらい実施していますか。
【事後】あなたは今後、運動やスポーツをどのくらい行いたいですか。



【分析／考察】

- 【結果①-3】アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、約8割の参加者（大人／子ども）が**今後の運動機会・時間が増えると思う**と回答
- 【結果①-4】アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、約9割の参加者（大人）に**週1日以上運動習慣**が定着
- 実施意欲の向上だけでなく、**実施習慣の定着についての効果**も見受けられるため、アーバンスポーツが「身体を動かすきっかけづくり」となったことは明白である。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

② 【ツーリズムに係る指標】地域資源に対する評価向上

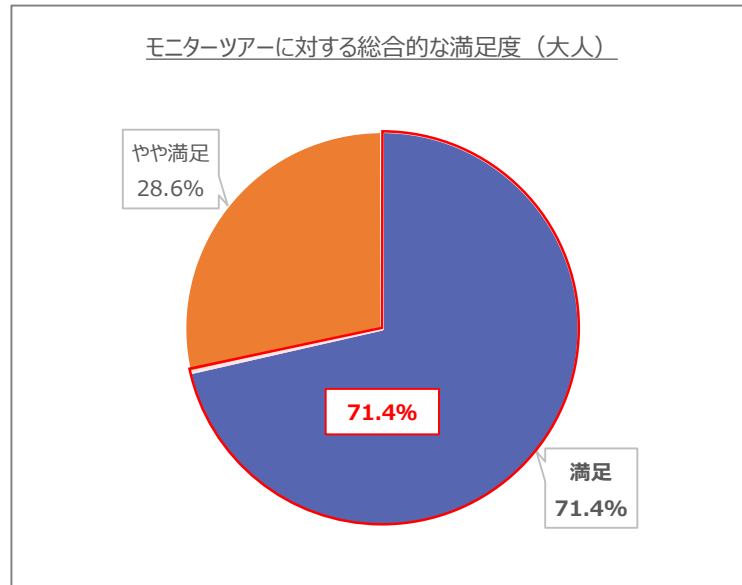
【結果②-1】大人のモニターツアーに対する満足度について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、大人のモニターツアーに対する満足度について検証した。

当日アンケート調査におけるモニターツアーの満足度に関する設問について、「満足」と回答した者の割合が、「**71.4%**（7人中5人）」であり、今回のモニターツアーの実施内容は、多くの参加者から最も高い評価を得ることができた。

□ モニターツアーに対する総合的な満足度（n=7）

今回のツアーに参加されて、どの程度満足されましたか。項目別にそれぞれ○をつけてください。：総合的に見て



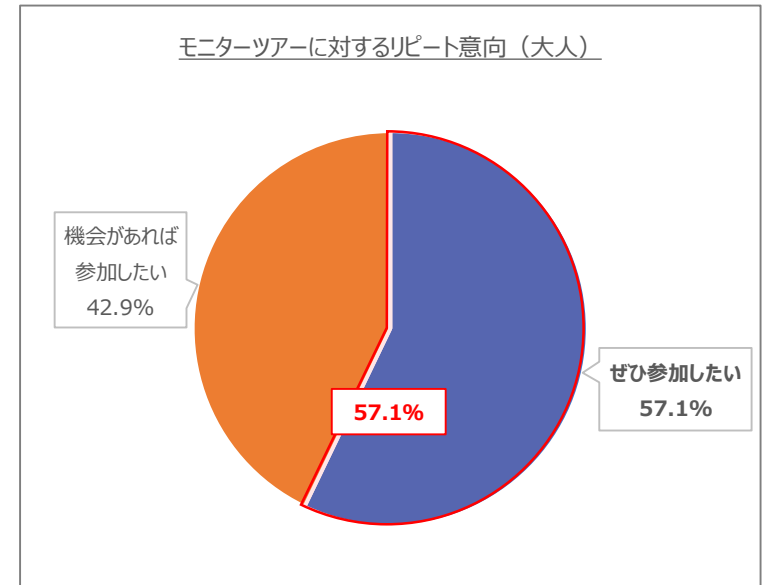
【結果②-2】大人のモニターツアーに対する再参加意向について

目標到達点である『「ぜひまた参加したい」と回答した割合』について検証するため、モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、モニターツアーに対する再参加意向について検証した。

当日アンケート調査におけるモニターツアーの再参加意向に関する設問について、「ぜひ参加したい」と回答した者の割合が、「**57.1%**（7人中4人）」であり、目標値として設定した「50%」を上回る結果を得られた。

□ モニターツアーに対するリピート意向（n=7）

今後、今回のようなツアーにまた参加したいと思いますか。



【分析／考察】

- ・【結果②-1】今回のモニターツアー参加者のうち、約7割の参加者が**最も高い評価（満足）**と回答
- ・【結果②-2】今回のモニターツアー参加者のうち、約6割の参加者が**最も高い評価（ぜひ参加したい）**と回答
- ・参加者から**高い満足度や再参加意向が示された**ので、「アーバンスポーツツーリズム」として地域の価値向上に寄与する商品になり得る結果が示唆された。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

② 【ツーリズムに係る指標】地域資源に対する評価向上

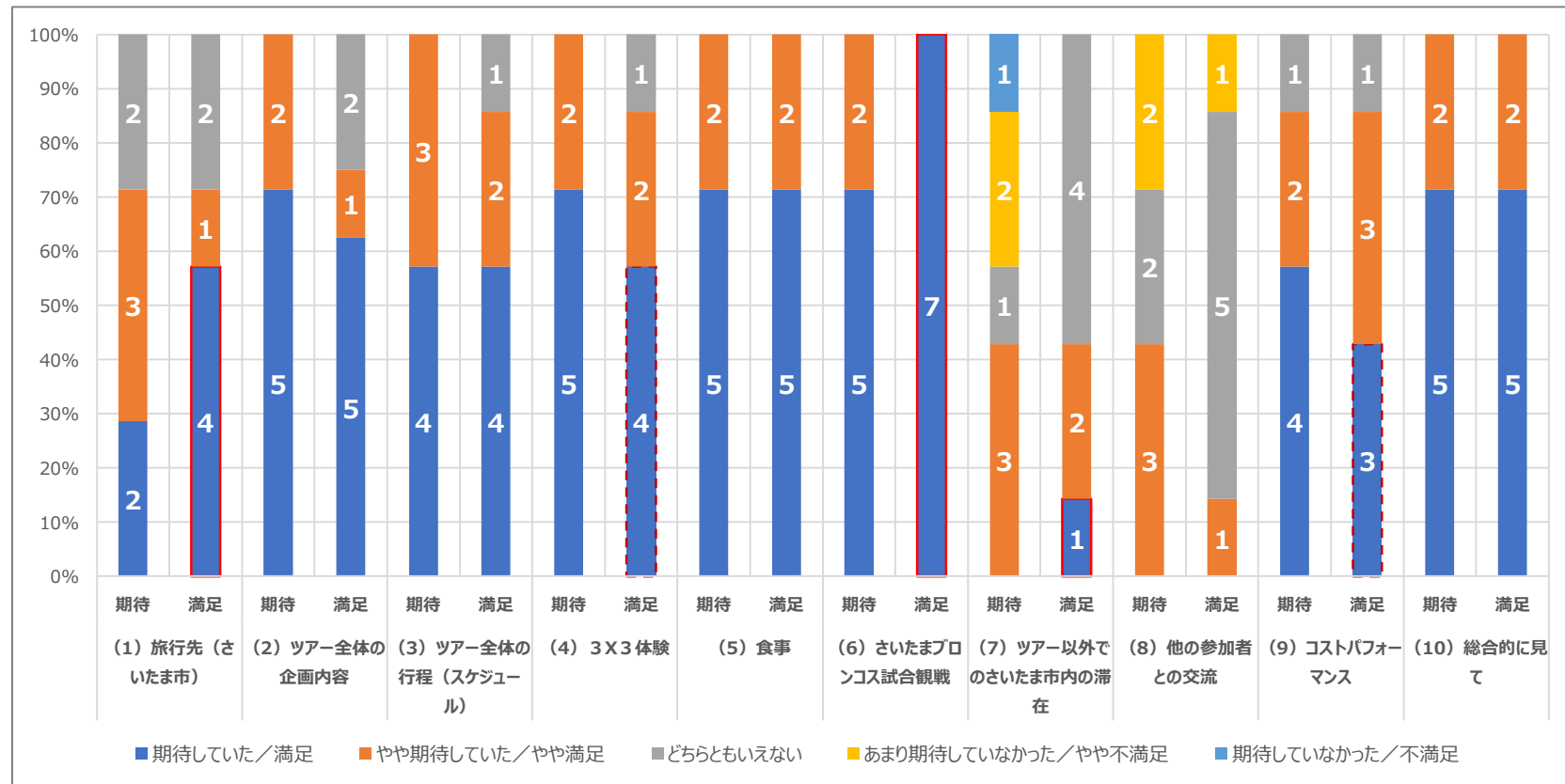
【結果②-3】大人のモニターツアーに対する期待値と満足度の比較について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、大人のモニターツアーに対する期待値と満足度の比較について検証した。
当日アンケート調査におけるモニターツアーの各実施プログラムの期待値及び満足度に関する設問について、以下のとおりの結果となった。

□ モニターツアーの「期待値」と「満足度」の比較（n=7）

【問2：期待値】今回のツアーに申し込まれた際に、あなたはツアーに対してどの程度期待されていましたか。

【問4：満足度】今回のツアーに参加されて、どの程度満足されましたか。



- 【分析／考察】
- 期待値以上に満足度が高かった項目は「旅行先」、「さいたまブルコス試合観戦」、「ツアー参加後のさいたま市内の観光」であった。
 - モニターツアーを通じて、地域（さいたま市）を存分に楽しんでいただき、**地域の価値向上につながるものであった**ことが示唆された。
 - 「3X3体験」、「コストパフォーマンス」については満足度が低下しており、理由としてコロナ禍で選手との交流が不十分であったことが考えられる。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

② 【ツーリズムに係る指標】地域資源に対する評価向上

【自由記述まとめ①】「また参加したい」と思う理由について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、「また参加したい」と回答した方の理由（自由記述）は以下のとおりである。

◆ 「また参加したい」と思う理由（自由記述）

- ・楽しかったから。また参加したいです。
- ・①子どもがスポーツにふれるきっかけになる、②さいたまに愛着がわく、③地元チームを知ることができた。
- ・地元のチームの応援は一体感が出て楽しめた。
- ・バスケット体験や試合をまたしたいと思ったから。
- ・とても楽しい時間でした。浦和レッズでもこういった企画があると嬉しいです。
- ・ブロンコス選手に会えることを子どもが楽しみにしているから。

モニターツアー参加者のうち、大半が市内在住者であったため、地元チームを応援できたことへの**肯定的な意見**が多くあった。

【自由記述まとめ②】モニターツアーの満足しなかった点について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、満足しなかった点についての回答（自由記述）は以下のとおりである。

◆ 「満足しなかった点」について（自由記述）

- ・3X3の試合体験ができなかった。
- ・もっとレッスンっぽいものかと思っていた。
- ・ツアーの中に応援グッズがあれば良かった。
- ・バスケットのレベルをもう少し上げた方が子どもも喜ぶと思います。

モニターツアー内の「3X3体験」では、バスケットボール初心者を対象とした内容であったことから、体験レベルに対して**否定的な意見**が見受けられた。

【自由記述まとめ③】ツアー内容に対するご意見・改善点等について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、ツアー内容に対する意見等についての回答（自由記述）は以下のとおりである。

◆ 【大人】ツアー内容に対するご意見・改善点（自由記述）

- ・とても楽しく一日が過ぎて満足です。3X3体験で、子どもと一緒に体を動かして楽しかったです。試合を近くで見られたのは良かったです。お昼もとてもおいしく頂きました。
- ・①決まった集合時間のために間に合わせて来ているのだから、定刻で始めるか、遅れるなら一声かけてほしい、10分くらいだけ、今日は風も寒かった。②昼食後、自由行動するとき、出かける旨をこたわらせたかったが添乗員がいなかった。③3X3は子どもへの指導がもっとされるかと思っていた（子どもは楽しんでいたので不満まではいかないが）
- ・行ってみたいとずっと思っていたが、なかなか機会が無かったので、こういった観戦ツアーは嬉しい。コロナで難しいかもしれないが、選手とのふれあい（グータッチ会）とかがあったら嬉しいです。
- ・ブロンコスの選手と「一緒に」バスケットができるような3X3内容にしてみたいです。子どもにとっては選手からパスをもらうだけでもうれしいと思いますので。

◆ 【大人】今後同様のツアーがあった場合、何をしたいか（自由記述）

- ・他のスポーツ体験ができるスポットや、子どもとコミュニケーションがとれるツアーがあったら良いと思います。
- ・他の種類のスポーツ。
- ・他のスポーツ企画もあればぜひ体験してみたい。
- ・あれこれではなく、バスケット1本でもいいくらいと私達親子は思います。

親子を対象とした今回のようなツアーにおいては、「子どもとのコミュニケーション」や「子どもの体験価値」を重視する意見が多く、「**体験＋観戦**」のツアー内容は、他のスポーツ競技への応用も可能であり、多くの親子旅行者のニーズを十分満たすものになり得ると考える。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

②【ツーリズムに係る指標】地域資源に対する評価向上

【自由記述まとめ①】「ツアー全体」が楽しかったと思う理由について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、ツアー全体が「楽しかった」と回答した方の理由（自由記述）は以下のとおりである。

◆「ツアー全体」が「楽しかった」と回答した理由（自由記述）

- ・ 初のバスケの試合が見れたから。
- ・ 3X3体験とか、コロナかの中で、こういうツアーがあったのしかった。
- ・ しあいも見れたし、ごはんもおいしかったです。たいけんでブロンコスの選手がきてくれたから。
- ・ お昼はおいしかったしレッスンの時もたのしかったし、し合が見れてよかったです。
- ・ アーバンスポーツの時、たくさんほめられてうれしかったからです。
- ・ 最初の3X3たいけんは、すごく楽しかったし、お昼ごはんもとても美味しかったです。最後はさいたまブロンコスの試合が見れて嬉しかったです。
- ・ ブロンコスがかったから。
- ・ 子どもが楽しんでいる様子でした。「試合が見れてよかった」とのことです。

【自由記述まとめ②】「3X3体験」が楽しかった点について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、「3X3体験」が楽しかった点についての回答（自由記述）は以下のとおりである。

◆「3X3体験」が「楽しかった」と回答した理由（自由記述）

- ・ プロ選手（はた選手）に教えていただいたから。
- ・ はたさんがドリブルやパスをおしえてくださったから。
- ・ はた選手がいろいろとおもしろいことをやってくれたから。
- ・ たのしいことがたくさんあったし、うまくできるきがしてきたから。
- ・ たくさんほめられたし、シュートをけっこう入れられたから。
- ・ さいたまブロンコスのはた選手にバスケを楽しく教えてもらえて、楽しかったです。
- ・ シュートがむずかしかったから。
- ・ もっとレベルを上げてほしいかと思いました。

子どもたちにとっては「3X3体験」で選手と直接ふれあった後に、試合観戦できたことが非常に好評であった。

【自由記述まとめ③】「昼食」について満足した点について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、「昼食」が満足した点についての回答（自由記述）は以下のとおりである。

◆「昼食」が「満足」と回答した理由（自由記述）

- ・ お肉やサラダなどがおいしかった。
- ・ すてーき屋さんだけでなくほかのお店のごはんも食べられたから。
- ・ ローストビーフどんはおいしくて、ケーキやさんやギャラリーにいられたから。
- ・ すてきでおいしかったから。
- ・ ステーキ丼やオレンジジュースがとても美味しかったです。
- ・ おにくがおいしかったから。
- ・ 「つけもの」はまいちのような様子でした。

子どもたちも大人と同様の食事メニューだったが、
昼食の満足度は高かった。

【自由記述まとめ④】「ブロンコスの試合」について満足した点について

モニターツアー参加日（当日）に実施したアンケート調査にて、「ブロンコスの試合」が満足した点についての回答（自由記述）は以下のとおりである。

◆「さいたまブロンコスの試合」が「満足」と回答した理由（自由記述）

- ・ テレビで見るより生で見るほうがはくよくがあったから。
- ・ いろいろなプレーが見れたし、全力でおうえんできたから。
- ・ はじめてみてプロはこんなしをしていたのを見てるとたのしかったから。
- ・ せん手のかたがたがこうふんするようなせっせんをくり広げてくれたから。
- ・ 試合の途中、せっせんでおいつかれそうになったけど、最後は勝って嬉しかったです。
- ・ ブロンコスが好きだから。

さいたまブロンコスの試合観戦では、
子どもたちがプロの迫力を間近で体感し、
プロスポーツチームを応援することの楽しさを体感してもらえた。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

③【競技振興に係る指標】アーバンスポーツの継続意欲醸成

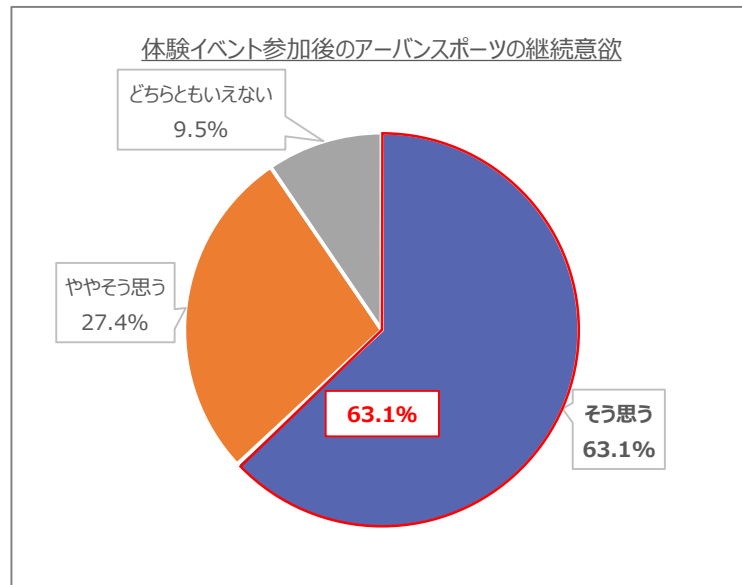
【結果③-1】大人のアーバンスポーツ継続意欲について：体験

目標到達点である『「今後もアーバンスポーツを続けたい」と回答した割合』について検証するため、体験イベント参加後（事後）に実施したアンケート調査の結果をもとに、競技の継続意欲について検証した。

事後アンケート調査におけるアーバンスポーツの継続意欲に関する設問について、「そう思う」と回答した者の割合が、「**63.1%**（84人中53人）」であり、目標値として設定した「60%」を上回る結果を得られた。

□ 体験イベント参加後のアーバンスポーツの継続意欲（n=84）

あなたは今後、アーバンスポーツをしたいと思いますか。



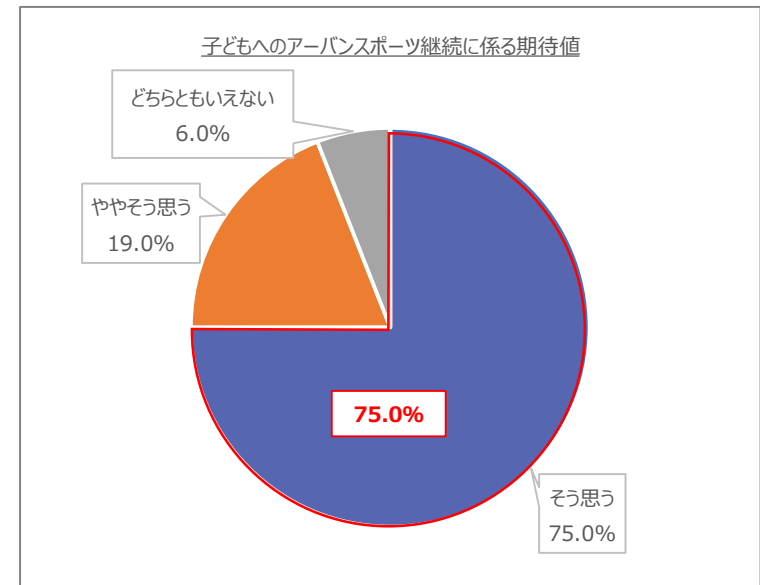
【結果③-2】子どもへのアーバンスポーツ継続に係る期待値について：体験

体験イベント参加後（事後）に実施したアンケート調査の結果をもとに、子どもへの競技継続に係る期待値について検証した。

事後アンケート調査における子どもへのアーバンスポーツの継続に係る期待値に関する設問について、「そう思う」と回答した者の割合が、「**75.0%**（84人中63人）」であり、親（参加者）から自身の子どものアーバンスポーツ継続に係る高い期待値を得ることができた。

□ 子どもへのアーバンスポーツ継続に係る期待値（n=84）

お子さまに今後、アーバンスポーツをさせたいと思いますか。



【分析／考察】

- ・【結果③-1】アーバンスポーツの体験イベント参加後、約6割の参加者（大人）が**アーバンスポーツを続けたい**と回答
- ・【結果③-2】アーバンスポーツの体験イベント参加後、約8割の参加者（大人）が**子どもにアーバンスポーツを続けてほしい**と回答
- ・子どもだけでなく、参加者自身にもアーバンスポーツの継続意欲が醸成され、親子参加型の体験イベントを通じて、**幅広い世代で競技振興が図れた**と考える。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

③【競技振興に係る指標】アーバンスポーツの継続意欲醸成

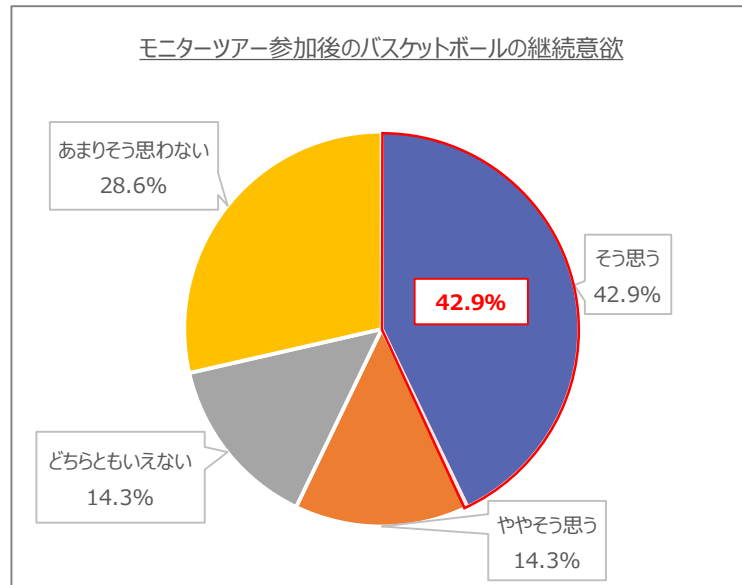
【結果③-3】大人のバスケットボール（3X3）継続意欲について：ツアー

モニターツアー参加後（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、大人のバスケットボール（3X3）継続意欲について検証した。

当日アンケート調査における大人のバスケットボール（3X3）継続意欲に関する設問について、「そう思う」と回答した者の割合が、「**42.9%**（7人中3人）」であり、今回のツアーでは親（参加者）自身について、強い継続意欲を得ることはできなかった。

□ モニターツアー参加後のバスケットボールの継続意欲（n=7）

あなたは今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をしたいと思いますか。



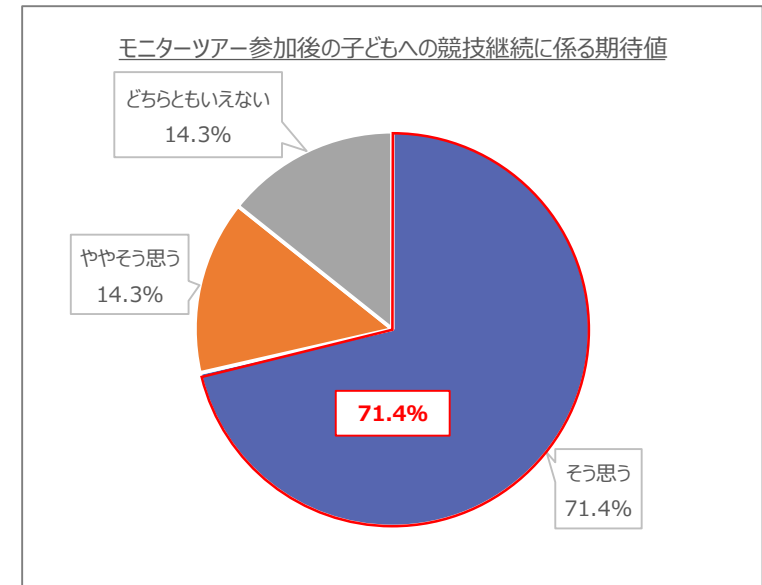
【結果③-4】子どもへの競技継続に係る期待値について：ツアー

モニターツアー参加後（当日）に実施したアンケート調査の結果をもとに、子どもへの競技継続に係る期待値について検証した。

当日アンケート調査における子どもへのバスケットボールの継続に係る期待値に関する設問について、「そう思う」と回答した者の割合が、「**71.4%**（7人中5人）」であり、親（参加者）から自身の子どものバスケットボール（3X3）継続に係る高い期待値を得ることができた。

□ モニターツアー参加後の子どもへの競技継続に係る期待値（n=7）

お子さまに今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をさせたいと思いますか。



【分析／考察】

- ・【結果③-3】モニターツアー参加後、約4割の参加者が**バスケットボール（3X3）を続けたい**と回答
- ・【結果③-4】モニターツアー参加後、約7割の参加者が**子どもにバスケットボール（3X3）を続けてほしい**と回答
- ・モニターツアーでは大人の継続意欲醸成についての効果は薄く、**親世代では「みる」意識が強く**、今後「する」意識の醸成を重視すべきか検討が必要。

11.効果検証

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

④ 効果検証のまとめ

【運動機会に係る指標】身体を動かすきっかけづくり

目標到達点	実 績	分析／考察
「今後、運動する機会・時間が増えると思う」 (大人・子ども／当日／体験イベント) 【80%達成】	84.9%達成 <701人中595人>	- アーバンスポーツの体験イベントへの参加を通じて、子育て世代の親子のスポーツ実施意欲を向上させるという結果が得られた。 - 実施意欲の向上だけでなく、実施習慣の定着についての効果も見受けられるため、アーバンスポーツが「身体を動かすきっかけづくり」となったことは明白である。

【ツーリズムに係る指標】地域資源に対する評価向上

目標到達点	実 績	分析／考察
「ぜひまた参加したい」 (大人／当日／モニターツアー) 【50%達成】	57.1%達成 <7人中4人>	- 参加者から高い満足度や再参加意向が示されたので、「アーバンスポーツツーリズム」として地域の価値向上に寄与する商品になり得る結果が示唆された。 - モニターツアーを通じて、地域（さいたま市）を存分に楽しんでもらえ、地域の価値向上につながるものであったことが示唆された。 「3X3体験」、「コストパフォーマンス」については満足度が低下しており、理由としてコロナ禍で選手との交流が不十分であったことが考えられる。

【競技振興に係る指標】アーバンスポーツの継続意欲醸成

目標到達点	実 績	分析／考察
「今後もアーバンスポーツを続けたい」 (大人／事後／体験イベント) 【60%達成】	63.1%達成 <84人中53人>	- 子どもだけでなく、参加者自身にもアーバンスポーツの継続意欲が醸成され、親子参加型の体験イベントを通じて、幅広い世代で競技振興が図れたと考える。 - 東京2020大会の正式種目となったアーバンスポーツの振興により、五輪レガシーの創出に大きく貢献できたと考える。 - モニターツアーでは大人の継続意欲醸成についての効果は薄く、親世代では「みる」意識が強く、今後「する」意識の醸成を重視すべきが検討が必要。

【アンケート調査に基づく効果検証結果についての総括】

- 全ての目標到達点に対して、目標値を超える実績を残しており、それぞれの指標に対するアーバンスポーツツーリズムの効果を実証することができた。
- モニターツアーについては、コロナ禍の影響により「1回のみ」の開催となったため、アンケートのサンプル数が少なく、次年度以降にさらなる検証が必要と考える。
- 体験イベントについては、事後アンケートの取得率が想定よりも低かったため、事後アンケートの取得率向上のための新たなアイデアが求められる。

◆ アンケート調査に基づく効果検証結果

⑤ 新たな課題や改善点

◆ 東京2020大会の爆発的な影響力

東京2020大会では、スケートボード男子ストリートの堀米雄斗選手を始め、数多くの日本人アーバンスポーツプレイヤーが大活躍を見せた。

また、東京2020大会でのスケートボードやBMXのプレイヤーたちが、互いの成功や失敗を分かち合いながら挑戦する姿に多くの共感を呼んだ。

その結果、東京2020大会を契機として、アーバンスポーツ競技全体について、国内にも「スポーツ」としての認識が大きく広がったと考える。

今回の事業においても、体験イベントの参加者へのアンケートの結果、東京2020大会をきっかけとして参加申込をしたという回答が大半を占めており、東京2020大会後、世代を問わず、アーバンスポーツの「体験」に対するニーズが激増している現状を把握することができた。

そのため、体験イベントについては、初めてアーバンスポーツに挑戦する方（初心者）向けの内容としていたが、参加者の一部からは「東京オリンピックを見て、自身のスケートボードを購入したが、なかなか上達しないのでイベントに申込みをした」や「普段、アーバンスポーツをする場所が無いので、イベントに参加してみようと思った」といった声が寄せられ、「指導」や「場所」に対するニーズも併せて増加していることを感じた。

今回の東京2020大会をきっかけに、国内では多くのスクールやパークが新たに立ち上がっており、当市においても、現在の人気を一過性のブームで終わらせないために、アーバンスポーツの機会や場所を継続して提供することで、急増する「体験」ニーズに応えていきたい。

また、これまでのトラディショナルスポーツとは違った魅力を持つアーバンスポーツであるからこそ、これまでの勝敗にこだわる「競技スポーツ」と同様の指導ではなく、アーバンスポーツの起源である「ストリートカルチャー」としての楽しさを伝えるような指導方法を確立していくことが、アーバンスポーツの「指導」ニーズに的確に応えることになると考えている。



◆ バasketボール観戦ツアーにおける参加者のニーズ

今回のモニターツアーでは地域プロスポーツチームの「さいたまブロンコス」と連携し、「初心者向けの3X3体験」と「B3リーグ公式戦の試合観戦」をメインコンテンツとしたツアー内容を企画した。

東京2020大会において、初の五輪正式種目となった「3X3」では、BMXやスケートボードと同様、日本チームの活躍が話題となった。

「3X3」はアーバンスポーツ競技の一種と言われているが、トラディショナルスポーツの「バスケットボール」から派生した競技であり、「3X3≠バスケットボール」というイメージは払拭できていない。

そのため、今回のツアー参加者においても、参加者の「競技志向」は強く、「3X3体験」の体験レベルについては否定的な意見が出る結果となった。

「アーバンスポーツツーリズム」としては「体験＋観戦」のツアーである場合、従来のスポーツとは違い、スポーツ観戦の感動だけでなく、参加者の「楽しさ」や「成功体験」を提供することで、参加者の満足度も向上し、将来のグローバルコンテンツとして発展可能性が生まれると考える。

そのため、「3X3」を中心としたアーバンスポーツツーリズムにおいては、「3X3≠バスケットボール」という明確な違いを打ち出す必要があると考えており、『「3X3」の体験と「3X3」の試合観戦をセットにしたツアー』の企画が有効であると考えている。また、当市には「3X3 EXE PREMIER」に参入しているプロチーム「SAITAMA WILDBEARS」が存在しており、次年度以降、アーバンスポーツツーリズムにおける連携可能性を模索していきたい。

一方で、さいたまブロンコスのモニターツアーの結果を見ると、参加者の満足度は高く、当然のことながらプロスポーツチームの興行であるため、試合数や観客数のキャパシティもあり、ファンクラブや物販等による収入も期待できることから、自走化のハードルは比較的低く、現時点でスポーツツーリズムのコンテンツとして魅力ある旅行商品になり得ると考える。



12.次年度以降の自走化に向けた展開

◆ 事業性検証方法

① 概 要

本事業の次年度以降の自走化に向けた事業性調査の検証方法は、【A-1】体験イベント及び【B-1】モニターツアーの参加者へのアンケート結果をもとに、「ターゲット」、「実施内容」、「実施会場」、「価格」の4項目について分析し、自走化に向けた展開可能性について検証を行うこととする。
 ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、モニターツアーを1回しか実施することができず、検証に必要なデータが不十分であるため、本事業では「体験イベント」に関する自走化の可能性について検証し、それらの結果をもとにツアー及びグローバルコンテンツとしての展開可能性について考察することとする。

② 事業性検証手法

以下の2つの分析手法の結果をまとめて、4つの分析項目について整理し、自走化に向けた展開可能性について検証する。

分析手法	分析項目	内 容
a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証	ターゲット、実施内容、実施会場	自走化に向けた課題とポイントをアンケート結果から考察する
b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査	価格	体験イベントの適正な価格をPSM分析を用いて算出する

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

① 概 要

【A-1】体験イベントの参加者へのアンケート結果をもとに、「課題」や「ポイント」となり得る結果を整理し、「ターゲット」、「実施内容」、「実施会場」、「価格」の4項目において、今後の体験イベントの自走化に向けた事業収支以外の参加者のニーズや課題の傾向等について分析、考察を行うこととする。

② 検証項目

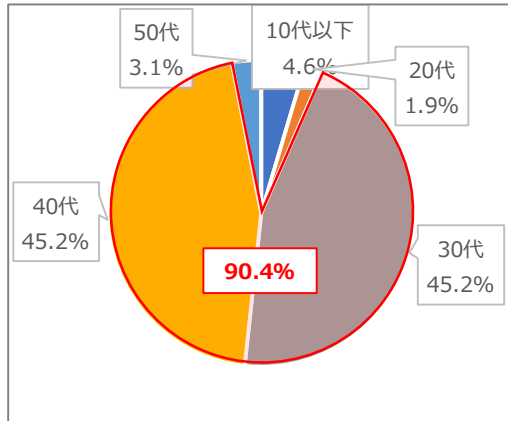
項番	検証項目	対象	調査時点	項番	検証項目	対象	調査時点
1	大人の【A-1】体験イベントの参加者年代割合について	大人	当日	8	イベント参加後の行動変化について（父親／母親）	大人	事前／事後
2	子どもの【A-1】体験イベントの参加者年齢割合について	子ども	当日	9	子どもとのスポーツ関連行動について（父親／母親）	大人	事後
3	イベントへの参加理由について	大人	事前	10	アーバンスポーツの継続意欲等について（父親／母親）	大人	事後
4	アーバンスポーツの体験動機について	大人	事前	11	子どもの体験イベントに対する評価点と行動変化について	子ども	当日
5	イベントへの参加理由について（父親／母親）	大人	事前	12	交通手段と体験イベント参加後の行動について	大人	当日
6	アーバンスポーツの体験動機について（父親／母親）	大人	事前	13	常設のアーバンスポーツパークの利用意向について	大人	事後
7	体験イベントに関する評価点について（父親／母親）	大人	当日	14	今回の参加費に対する満足度について	大人	事後

12.次年度以降の自走化に向けた展開

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

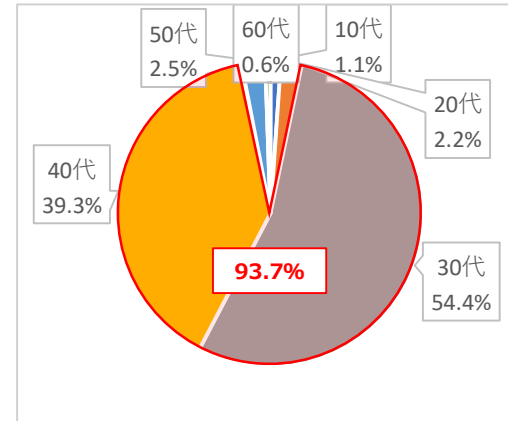
① ターゲットの年齢について

□ 大人の【A-1】体験イベントの参加者年代割合について



年代	人数	割合
10代以下	12	4.6%
20代	5	1.9%
30代	118	45.2%
40代	118	45.2%
50代	8	3.1%
60代以上	0	0.0%
合計	261	100%

□ (参考)「Sport in Life推進プロジェクト」の参加者年代割合について



年代	人数	割合
10代以下	8	1.1%
20代	16	2.2%
30代	393	54.4%
40代	284	39.3%
50代	18	2.5%
60代以上	4	0.6%
合計	723	100%

□ 子どもの【A-1】体験イベントの参加者年齢割合について

年齢	人数	割合	年齢	人数	割合
15歳	0	0.0%	7歳	63	20.3%
14歳	0	0.0%	6歳	49	15.8%
13歳	0	0.0%	5歳	39	12.6%
12歳	7	2.3%	4歳	29	9.4%
11歳	16	5.2%	3歳	20	6.5%
10歳	13	4.2%	2歳	5	1.6%
9歳	32	10.3%	1歳	0	0.0%
8歳	37	11.9%	合計	310	100%

【分析】

- 本事業では「親」について「**20代後半から40代前半**」、「子ども」については「**未就学児から中学生まで**」を主なターゲットとして設定していた。
- 当法人は昨年度の「Sport in Life推進プロジェクト」及び今年度の「スポーツによるグローバルコンテンツ創出事業」において、どちらも親子向けのアーバンスポーツに関する体験コンテンツ（BMX、スケートボード、インラインスケートなど）を実施している。
- 両事業における親世代の参加者の年代割合は、「**30代**」と「**40代**」が9割以上を占めており、子どもは「**未就学児から小学校3年生まで**」が大半を占めていた。

【考察】

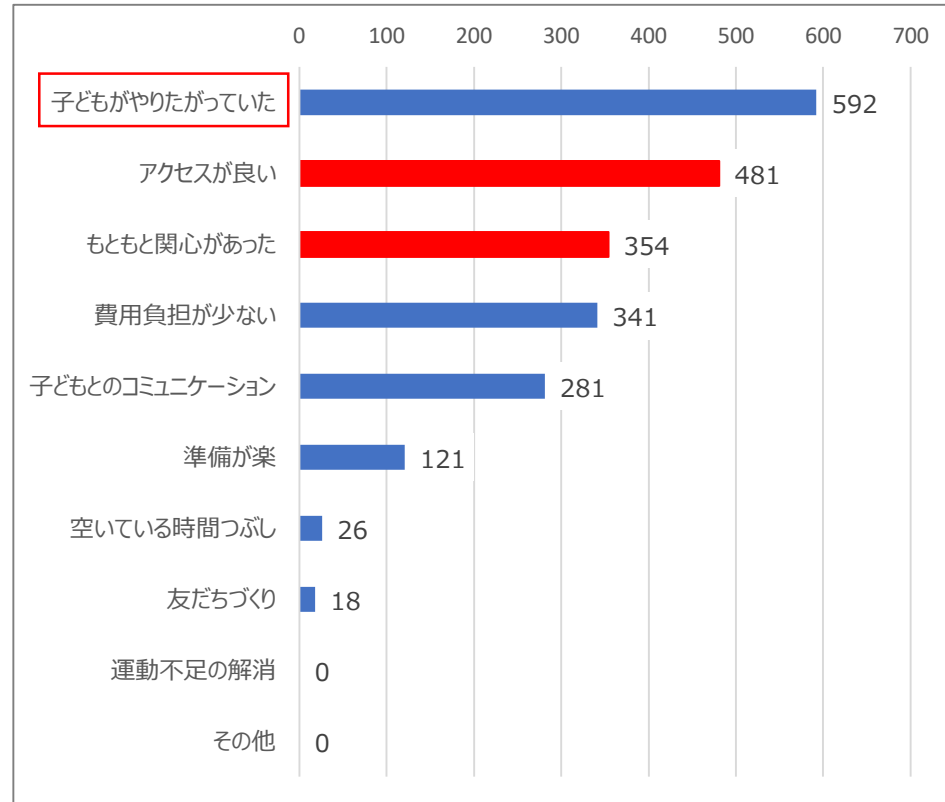
- 本事業で実施したようなアーバンスポーツの「**体験教室**」企画では、「教室」という性質上、子どもの参加者の年齢が「**低年齢（小学校3年生以下）**」に集中する傾向にあると考える。
- そのため、「教室＝スクール」という形での自走化を検討するためには、「子ども」については、「**未就学児から小学校3年生まで**」に見直す必要がある。
- 親世代については「30代」、「40代」がメインターゲットとなることは明らかであるが、本事業においては「**子どもの年齢**」が大きく影響していると考えられるため、詳細なターゲットの細分化は不要であると考え。
- 「親子参加型」とするか、「子どものみ参加型」とするかによって、については別途検証が必要。

12.次年度以降の自走化に向けた展開

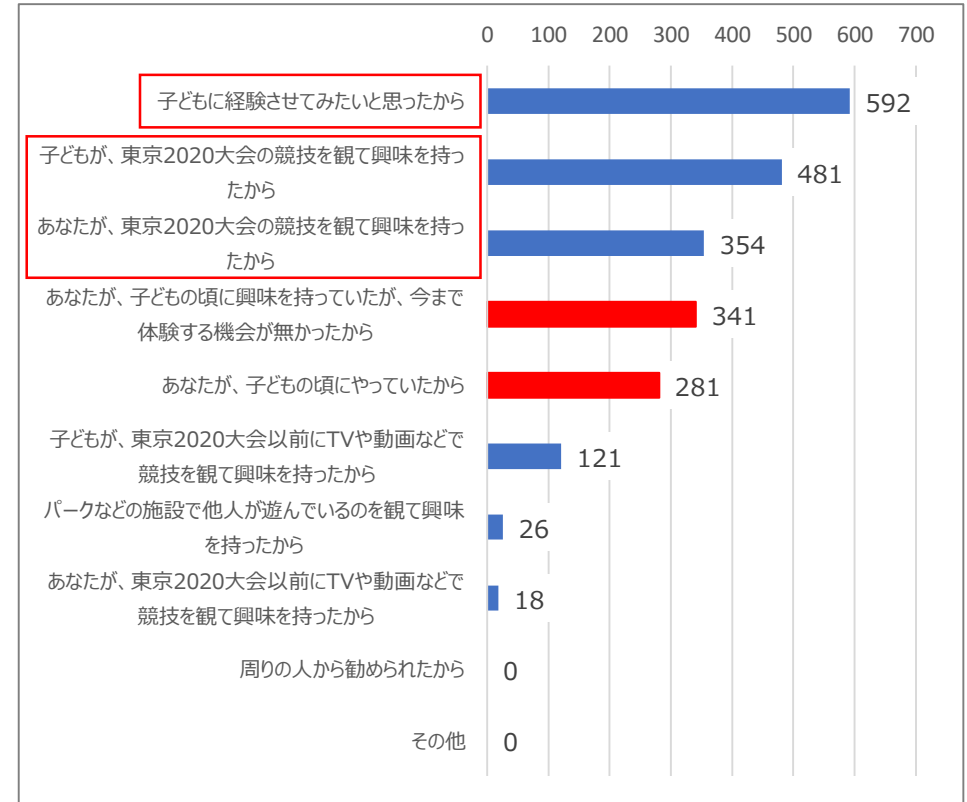
a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

② イベントの参加理由とアーバンスポーツの体験動機について：「キャンセル待ち」も含む申込者全数（1,001名）

ロ【大人／事前】イベントへの参加理由について（n=1,001）



ロ【大人／事前】アーバンスポーツの体験動機について（n=1,001）



- 【分析】
- どちらも「**子ども**」に関係する回答が最も多く、体験動機においては、東京2020大会における日本人選手の活躍が強く影響していることがわかる。
 - イベントの参加理由においては、「**アクセスの良さ**」や「**過去の関心・経験**」が影響しており、「過去の経験」は体験動機にも強く作用している。

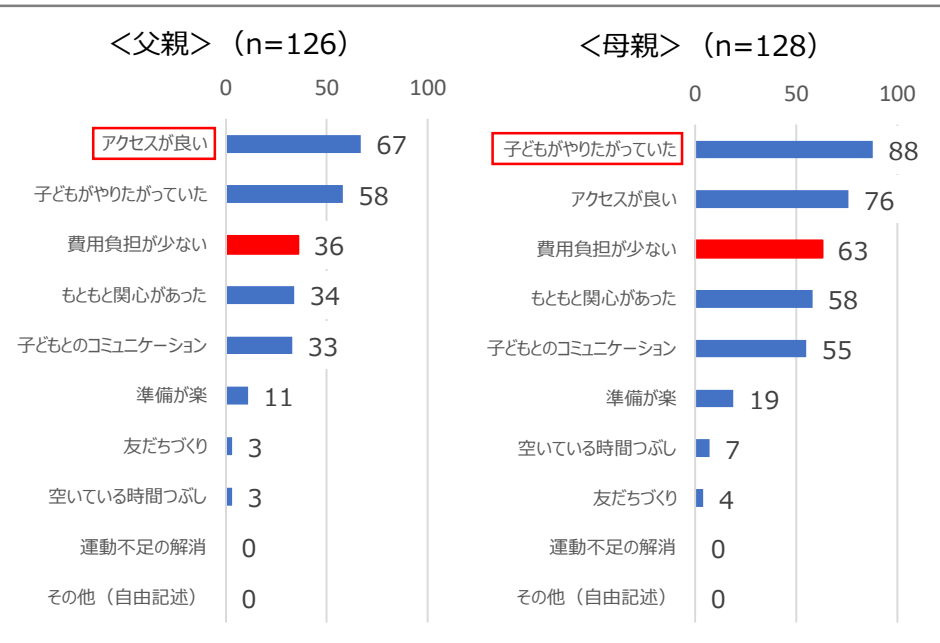
- 【考察】
- 今回の体験イベントでは、特に「スケートボード」の申込倍率が最も高く、東京2020大会を契機とした「**体験意欲の上昇**」が最たる理由であることは明らかであるが、イベントの参加理由には「アクセスの良さ」など**従来から重視される項目**も依然として強い影響力があるため、現在の人気を一過性のブームで終わらせないためにも、その都度、適切に参加者のニーズを把握し、恒常的なイベント運営を継続していくことが必要となる。
 - 「子ども」については、東京2020大会を契機として顕在化された、新たなアーバンスポーツの競技者（実施者）と言えるが、「親世代」については、東京2020大会「**以前**」の関心や経験が申込のきっかけとなっていることから、アーバンスポーツ全体として、競技人口が少ないと言われているものの、潜在的な競技人口は多数存在しているのではないかと考える。

12.次年度以降の自走化に向けた展開

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

③ 父母の意識差について

ロ【大人／事前】イベントへの参加理由について（父親／母親）



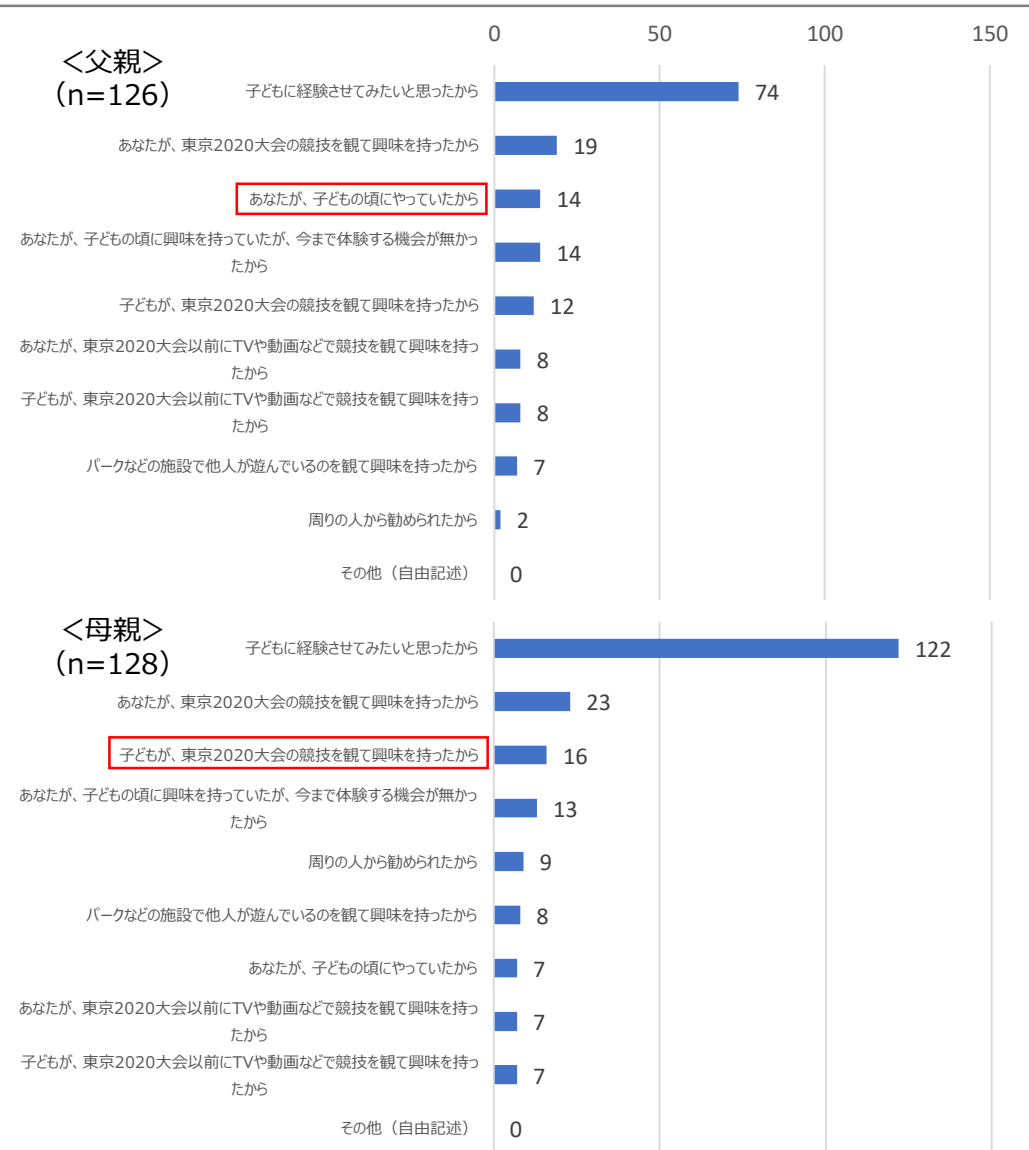
【分析】

- 体験イベントへの参加理由について、父親は「**アクセスが良い**」を最も重視する結果となり、父母で参加理由に意識の差が生まれている。
- アーバンスポーツの体験動機についても、母親よりも父親の方が比較的、**過去の自身の経験**が上位に来る結果となった。

【考察】

- 本事業のようなアーバンスポーツの「体験教室」においては、「親子参加型」の内容であれば「父親」、「子どものみ参加型」であれば「母親」に向けたアプローチが効果的はないかと考える。
- また、申込者の集計とは異なり、実際に参加した父母からは「費用負担が少ない」ことが参加理由の上位3位となっており、申込のきっかけにおいて「**価格**」を重視する傾向にあることがわかった。

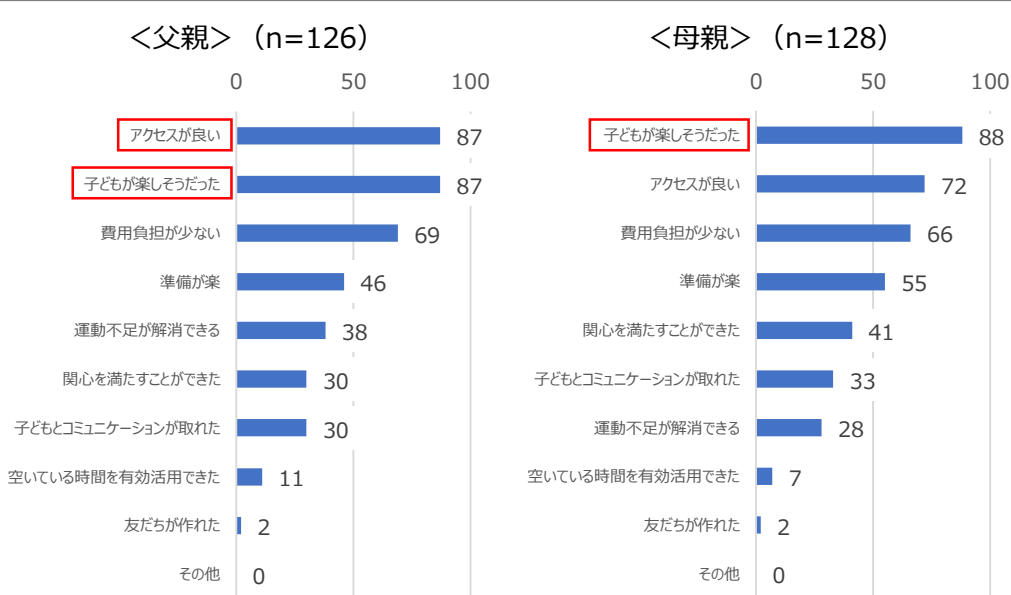
ロ【大人／事前】アーバンスポーツの体験動機について（父親／母親）



a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

③ 父母の意識差について

ロ【大人／当日】体験イベントに関する評価点について（父親／母親）



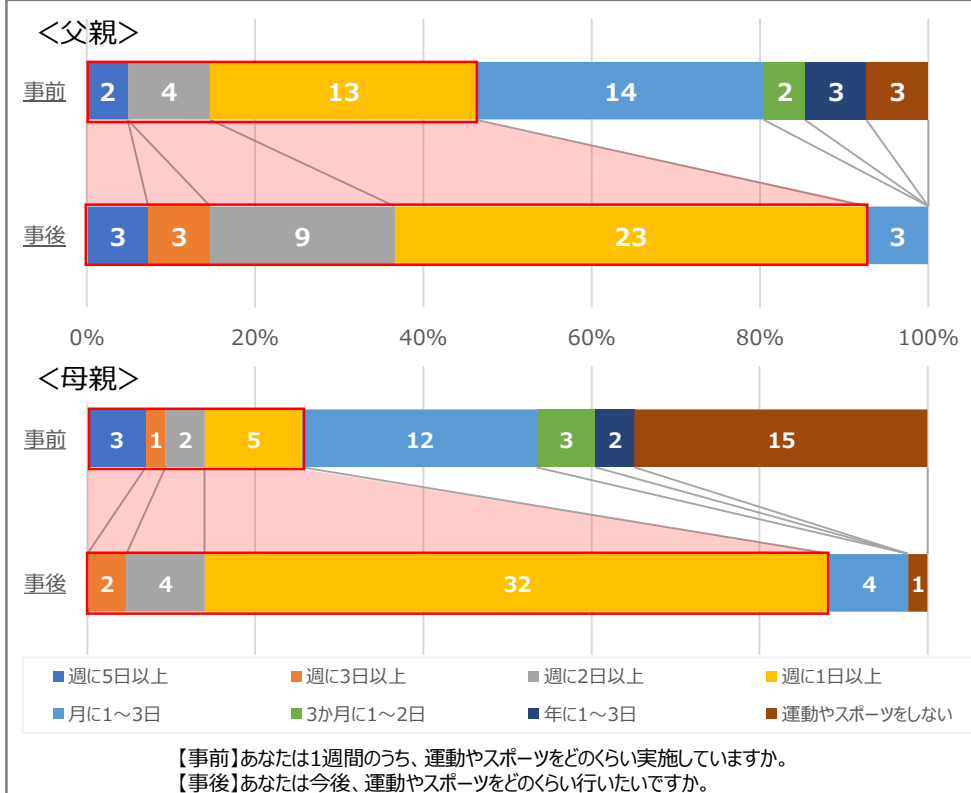
【分析】

- 体験イベント参加後の評価点について、父親は参加理由と同様に、「アクセスが良い」を「子どもの体験価値」と同程度重視する結果となった。
- 一方で、母親は「子どもが楽しそうだった」と「子ども体験価値」の提供に関する項目が第1位であり、父母で参加理由に意識の差が生まれている。

【考察】

- 親子で一緒に体験することを想定した場合、父親を参加させるためには「アクセスの良い」会場を設定することが、イベント参加の誘因となると考える。
- また、母親は「アクセスの良さ」や「費用負担が少ない」ことに対して一定の評価を得ているものの、それ以上に「子どもの体験価値」を最も重視している。
- したがって、「子どものためならある程度アクセス面は許容できる母親」と、「子どもの体験価値を重視する一方で、アクセス面も譲れない父親」という構図が垣間見れた。

ロ【大人】イベント参加後の行動変化について（父親／母親）



【分析】

- 体験イベント参加後のスポーツ実施習慣は**父母関係なく**、数値の上昇が見受けられるが、実施頻度については父親の方がやや高い傾向にある。

【考察】

- アーバンスポーツイベントをきっかけとした「スポーツ実施習慣の定着」は、父母関係なく一定の成果を得たが、一方で、「父親」の方が事後の実施頻度は高く、**定期的な運動習慣を身に付けやすい傾向にある**のではないかと考えられる。

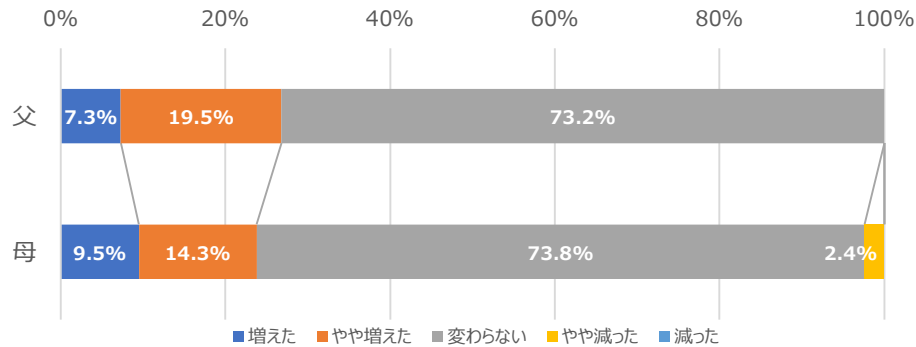
12.次年度以降の自走化に向けた展開

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

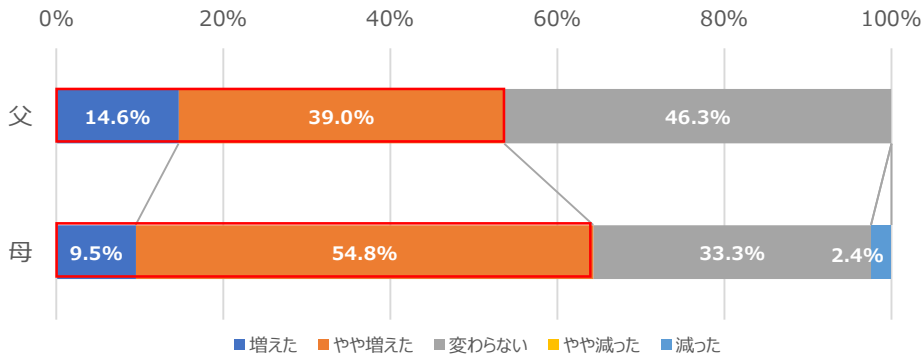
③ 父母の意識差について

ロ【大人／事後】子どもとのスポーツ関連行動について（父親／母親）

【事後】あなたは1週間のうち、子どもと運動やスポーツをする時間は増えましたか。（n=84）



【事後】あなたは1週間のうち、子どもと運動やスポーツの話をする時間は増えましたか。（n=84）



【分析】

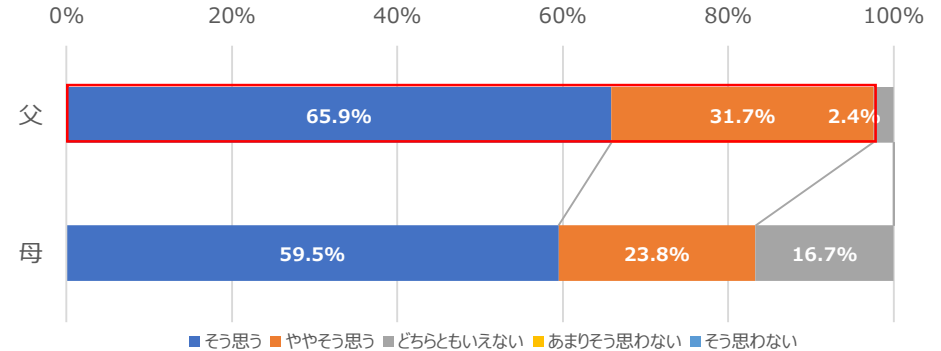
- 体験イベント参加後、「子どもとのスポーツ実施時間」は、**父母関係なく**、変化が無い方が多かったが、「話をする時間」については、父母ともに、「増えた」、「やや増えた」と回答した割合が半数を超えている。

【考察】

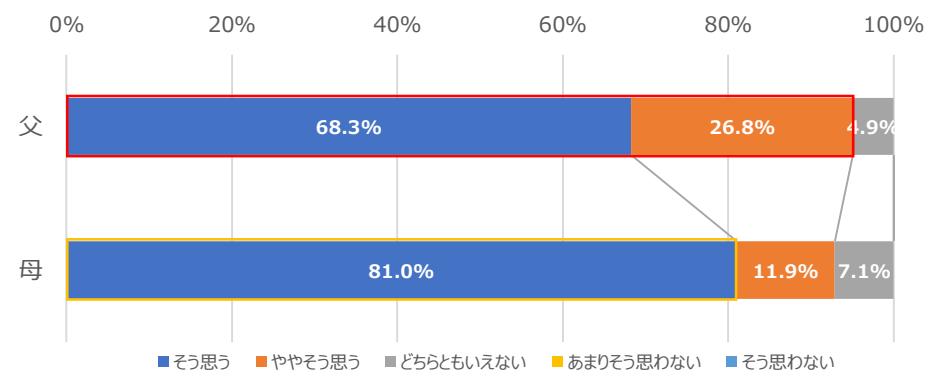
- 「親子参加型」の企画では、**子どもとのコミュニケーション機会の増加**に高い効果があり、参加者の継続的な参加につながるのではないかと考える。

ロ【大人／事後】アーバンスポーツの継続意欲等について（父親／母親）

【事後】あなたは今後、アーバンスポーツをしたいと思いますか。（n=84）



【事後】お子さまに今後、アーバンスポーツをさせたいと思いますか。（n=84）



【分析】

- 自分自身のアーバンスポーツの継続意欲は**父親の方が高く**、子どもへの期待値も、全体としては父親の方が高い回答率だが、「そう思う」という回答については、**母親の回答率が父親の回答率を上回る**結果となった。

【考察】

- 「親子参加型」では**自分も子どもも継続したい父親**を、「子どものみ参加型」では**子どもに続けさせたい母親**へリーチしていくことが大切である。

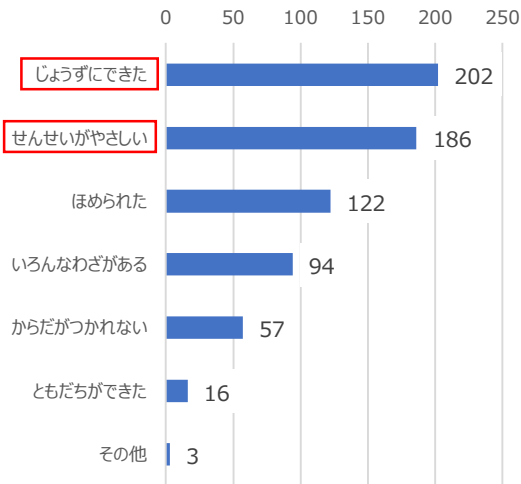
12.次年度以降の自走化に向けた展開

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

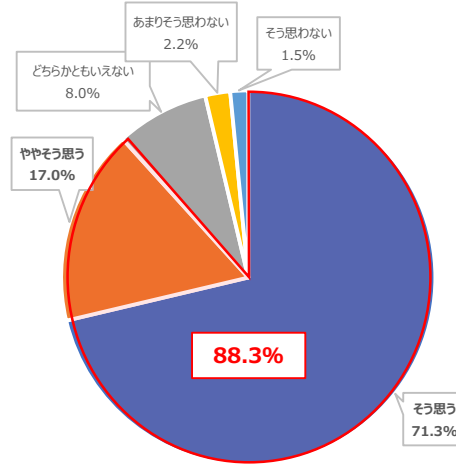
④ 子どもたちのニーズの把握について

ロ【子ども／当日】子どもの体験イベントに対する評価点と行動変化について

今日やってみたスポーツが楽しかった理由 (n=400)



今日やってみたスポーツをきっかけに
スポーツについて家族と話をしたいか (n=324)



【分析】

- 子どもが楽しかったと回答した理由の上位2位は、「じょうずにできた」、「せんせいがやさしい」であり、特に「じょうずにできた」の項目に関しては、全体の子どもの回答者数400名のうち、半数以上が選択しているという結果になった。
- 子どもからアーバンスポーツについて、家族と話をしたかという設問においては、8割以上が「そう思う」、「ややそう思う」と回答している。

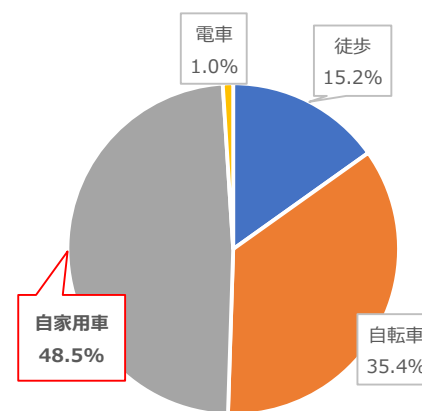
【考察】

- 今回の体験イベントでは初心者が多く参加していたことから、**自身の成功体験**が「楽しかった」という全体の満足度につながっていると考え。
- また、「せんせいがやさしい」については、**講師の方々の丁寧な指導**による成功体験が子どもたちの評価につながっていると考え。
- 家族とのコミュニケーションについては、両親での結果以上に、**肯定的な回答**が見受けられるため、子どもたちへの成功体験の提供により、家族間のコミュニケーションは増え、親世代へのスポーツ振興にもつながるのではないかと考える。

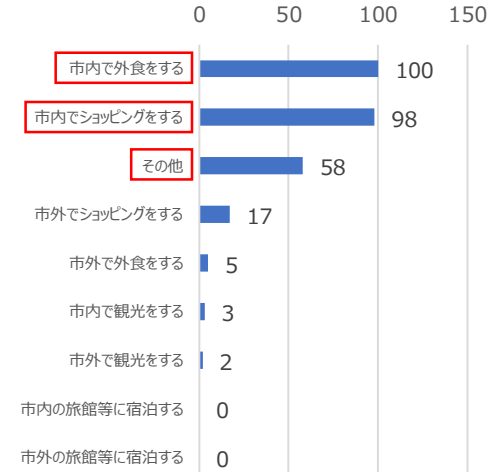
⑤ 体験イベントの会場について

ロ【大人／当日】交通手段と体験イベント参加後の行動について

会場までの交通手段
(n=283)



体験イベント参加後の予定
(n=283)



【分析】

- 参加者の交通手段は「**自家用車**」が最も多く、約半数の回答があり、次いで「自転車」が多いという結果になった。
- 体験イベント参加後の行動については、「**市内**」での活動が大半であり、「その他」の回答では「**帰宅**」という回答がほとんどであった。

【考察】

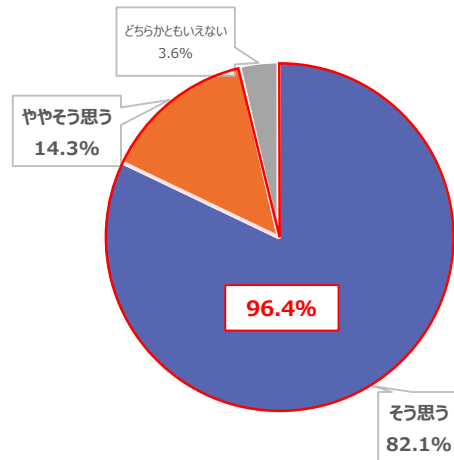
- 「親子参加型」のイベントでは、多くの参加者が自家用車を利用しており、駐車場の確保は必須となると考えるが、「アクセスの良さ」と「駐車場」を兼ね備える会場の確保も大きな課題となっている。
- また、今回会場の「新都心バスタ」は、商業施設「コクーンシティ」に隣接する場所であることから、体験イベント参加後の外食や買い物の行動につながっていると考え。
- コロナ禍においては、「帰宅」という選択肢も多く、体験イベントだけでは、回遊性の確保や観光としての展開については難しさを感じる。

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

⑤ 体験イベントの会場について

ロ【大人／事後】常設のアーバンスポーツパークの利用意向について

【事後】あなたはさいたま市内にBMXやスケートボードなどができる、常設のアーバンスポーツパークがあった場合、利用してみたいと思いますか。(n=84)



【分析】

- 常設のアーバンスポーツパークに対する参加者のニーズは「**96.4%**」であり、参加者のほとんどが利用してみたいとの回答であった。

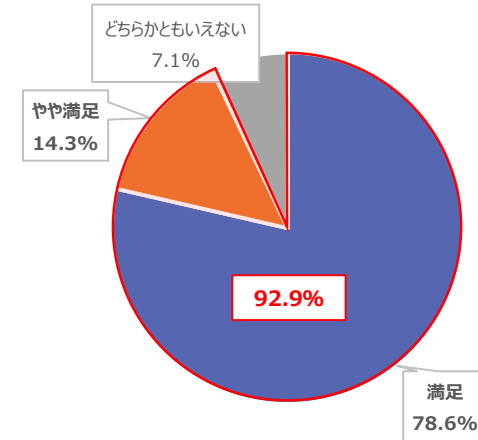
【考察】

- 今回の体験イベントでは、未利用地の活用という観点から「新都心バスタ」を利用してイベントを開催した。
- しかし、利用者からは**常設のアーバンスポーツパークに対するニーズは高く**、定期的な体験イベントを開催した場合には多くの参加者が集まると考える。
- 今回の設問では「BMXやスケートボードなどの」と表記したが、常設のアーバンスポーツパークでは、1種類のコンテンツではなく、**様々なアーバンスポーツコンテンツが実施可能**であることが求められていると考える。
- 今後、常設のアーバンスポーツパークが設置されることにより、新たなアーバンスポーツツーリズムのコンテンツ創出が可能となり、**アーバンスポーツによる地域活性化の拠点施設**になり得ると考える。

⑥ 体験イベントの価格について

ロ【大人／事後】今回の参加費に対する満足度について

【事後】今回の参加費（500円）についてどのように感じましたか。(n=84)



【分析】

- 今回の体験イベントの参加費1名あたり500円について、参加者の満足度は「**92.9%**」であり、参加者のほとんどが満足しているとの回答であった。

【考察】

- 当法人が昨年度実施した「Sport in Life推進プロジェクト（SIL）」では、体験教室の参加費については「無料」としており、今回初めてアーバンスポーツの体験イベントを「有料：500円／1人」とした。
- ただ、参加者のほとんどから「500円」という金額については満足しているとの回答を得ており、アーバンスポーツの体験イベントの参加費が「有料」であることは、現時点で**参加者に許容されている**ことが明らかとなった。
- 今回のような実証実験において、競技振興が必要とされるアーバンスポーツであっても、すべての事業を無料で実施する必要はなく、**「有料」での事業実証**を重ねることで、正しい自走化の検証が行えるのではないかと考える。
- なお、bでは自走化に向けた体験イベントの適正価格について調査している。

12.次年度以降の自走化に向けた展開

a. アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果

⑥ アンケート調査に基づく「体験イベント」の自走化に向けた参加者のニーズや課題の傾向等のまとめ

項目	◆ 参加者のニーズ	◆ 課題の傾向
<u>ターゲット</u>	- アーバンスポーツの「体験教室」企画では、「教室」という性質上、子どもの参加者の年齢は「低年齢（小学校3年生以下）」。 - 親世代については、「子どもの体験価値」を求める「30代」、「40代」がメインターゲットとなる。	「教室＝スクール」では、子どものターゲットを「未就学児から小学校3年生まで」に見直す必要がある。 - 大人のターゲットについて年齢の縛りは必要なし。 - 開催方法ごとにターゲットの見直しを行うことで満足度が高まる。
<u>実施内容</u>	- 実施コンテンツについてはBMX・スケートボード・インラインスケートの人気が高く、中でもスケートボードの人気は突出して高い。 - 初心者向けの体験イベントでは、大人・子どもともに、自身の成功体験や講師の丁寧な（楽しい）指導に対するニーズが強い。 - 親子参加型のイベントでは、家族間のコミュニケーションが増える等の評価もあり、安易に「子どものみ参加型」とする必要はない。	- 実施コンテンツについては、1つのコンテンツだけでなく、複数のコンテンツを同時に楽しめることで、参加者の集客力が高まる。 - 講師に対しては、参加者に成功体験（楽しさ）を提供することを意識した指導内容が求められる。 「親子参加型」の内容であれば「父親」、「子どものみ参加型」であれば「母親」に向けたアプローチが効果的である。
<u>実施会場</u>	- 親子で一緒に体験することを想定した場合、実施会場は、「アクセスの良さ」と「駐車場」に対するニーズが非常に高い。 - アクセスの良さや近隣施設によっては、体験イベント参加後の外食や買い物の行動につながる。 - 常設のアーバンスポーツパークに対する利用意欲は高く、定期的に通える拠点の設置についてのニーズが高い。	「アクセスの良さ」と「駐車場」を兼ね備える会場の確保は課題。 - コロナ禍においては、体験イベント後、「帰宅」という選択肢も多く、回遊性の確保や観光としての展開については難しさを感じる。 - 今後、常設のアーバンスポーツパークが設置されることにより、新たなアーバンスポーツツーリズムのコンテンツ創出が可能となり、アーバンスポーツによる地域活性化の拠点施設になり得ると考える。
<u>価格</u>	「1人500円」という低価格に対する参加者の満足度は高い。 - 今回の参加者は、アーバンスポーツの体験イベントの参加費が「有料」であることを許容している。	競技振興が必要とされるアーバンスポーツであっても、すべての事業を無料で実施する必要はなく、「有料」での事業実証を重ねることで、正しい自走化の検証が行えるのではないかと考える。

【アンケート調査に基づく「体験イベント」の事業性検証結果の総括】

- アンケート調査の結果から事業の効果検証だけでなく、アーバンスポーツの「体験イベント」における参加者のニーズや課題の傾向を整理することができた。
- 次年度以降、「体験」を中心とするアーバンスポーツツーリズムの自走化を検討していくためには「**有料**」での実証事業の積み重ねが必要となると考える。
- アーバンスポーツ事業全般として、メジャースポーツと比較して、事業の自走化（採算性）だけでなく、ニーズや課題等の基礎調査数を増やしていくことも課題。

12.次年度以降の自走化に向けた展開

b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査

① 概要

今後の自走可能性を検証するため、本事業で実施した親子でのアーバンスポーツ体験イベントの事業性を測る、価格感度測定（以下 PSM ; Price Sensitivity measurement）のためのアンケート調査項目を設けた。

「PSM」とは、アンケート調査を用いて、ある商品やサービスについて価格に関する4つの質問をすることで、「最低品質保証価格」、「理想価格」、「妥協価格」、「最高価格」の4つの価格を導き出す分析手法であり、価格に対する消費者の感度を分析できることが特徴である。

② PSM分析のためのアンケート調査項目

【A-1】体験イベントの「大人／事後」のアンケート（問12）において、次のような調査項目を設定した。

✓ 今回の体験イベントの参加費は「500円」だったが、設問では「今回の参加費は国や自治体による実証実験として特別に安い金額となっているため、以下の設問に答える際には、設問内で仮定されている金額に準じてお答えください。」と説明している

<問12：大人／事後> ※ 以下の四角内の前提を提示したうえで、次の質問に回答。

アーバンスポーツができる今回と同様の会場にて、保護者1人・子ども1人（2人1組）を対象に、体験教室を以下の条件で開催します。

【条件】

- ・ 営業時間：10:00～16:00
- ・ 体験（指導）時間：50分（+準備時間 10分）
- ・ できるスポーツ：スケートボード、インラインスケート
- ・ 道具レンタルあり（※道具をレンタルする場合には、後述する体験教室参加費とは別に、レンタル代（親子2人1組）が1,000円程度かかる。
道具を持ち込む場合はかからない）
- ・ 指導してくれる講師あり（※ 講師2人に対し、親子3組程度）
- ・ 指導内容：スケートボード、インラインスケートを始めてみたい方や初心者の方を対象

※ 体験教室の参加費（親子1組）とは、会場利用費と講師指導代等を合計した総額とする。

- A. 体験教室の参加費（親子1組）について、いくらくらいから「**安い**」と感じますか。
- I. 体験教室の参加費（親子1組）について、いくらくらいから「**高い**」と感じますか。
- U. 体験教室の参加費（親子1組）について、これ以上高いと「**高すぎて参加できない**」と思う価格はいくらくらいですか。
- E. 体験教室の参加費（親子1組）について、これ以上安いと「**品質（設備内容、指導内容や安全面など）に不安を感じる**」価格はいくらくらいですか。

PSMでは、金額をどう設定するかが重要であるため、民間のアーバンスポーツ体験教室等の金額を参考に、選択肢となる金額を設定した。

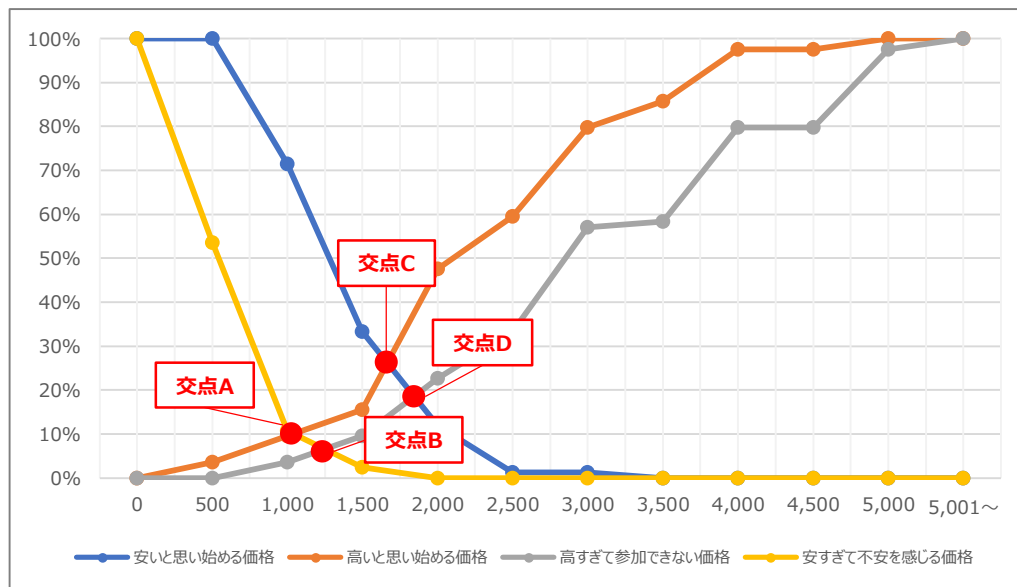
民間のアーバンスポーツ体験教室における親子での参加費は、（道具レンタル代を除き、）一回の参加あたり「2,000円から4,000円台」であった。

そのため、選択肢では「500円」刻みとして、「500 / 1,000 / 1,500 / 2,000 / 2,500 / 3,000 / 3,500 / 4,000 / 4,500 / 5,000」と、「5,000円超（ 円）」（※自由記述）と、「この中にはない」（※0円を意味する）」の計12個を設定した。

12.次年度以降の自走化に向けた展開

b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査

③ 4つの価格の算出



4つの設問の結果（回答率）から上のグラフが作成可能。4つの価格は、4つの折れ線グラフの交点から算出。
 グラフを見ると、交点は価格の小さい順にA<B<C<Dと並んでいる。グラフの交点と4つの価格の関係は以下のとおりとなる。

<交点A> 最低品質保証価格：普及／特売

「安すぎて買わない」のグラフと、「高いと思う」のグラフの交点。
 これ以上安くすると消費者が「**品質が悪いのではないか**」と疑い始める価格と言える。普及価格をつける場合や特売の際に参考になる。

<交点B> 理想価格：コストは合わないけど売れる

「高すぎて買わない」のグラフと「安すぎて買わない」のグラフの交点。
 2つのグラフはどちらも購買に否定的な要素の心理的価格を示すため、交点は「否定的な意見を持つ人が最も少ない価格」と言える。
 言い換えれば「**最も多くの人を買う可能性がある価格**」であるが、現実的にはコストの問題で理想価格に設定することが難しい場合が多いことが特徴である。

<交点C> 妥協価格：トップシェア商品の価格

「高いと思う」のグラフと、「安いと思う」のグラフの交点。
 この価格は「**心理的な値ごろ感がある**」と言える。
 想定商品群のトップシェア商品と限りなく近い金額に収まる傾向がある。

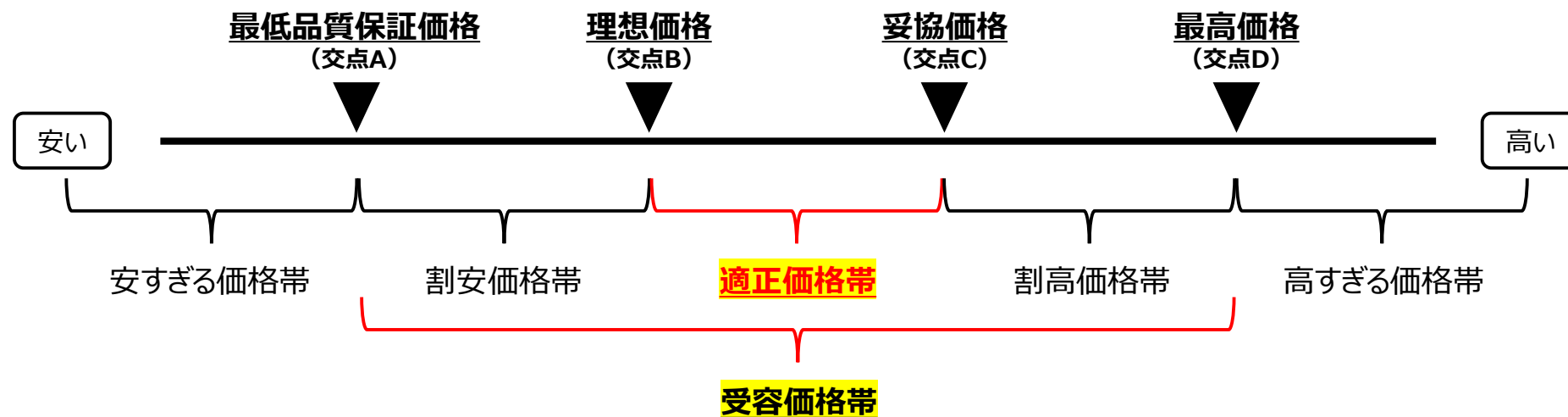
<交点D> 最高価格：高級品／嗜好品

「高すぎて買わない」のグラフと、「安いと思う」のグラフの交点。
 この価格は、「**これ以上高く値付けをすると、誰も買ってくれなくなる**」と言える。
 高級品や付加価値のついた商品の場合には参照する。

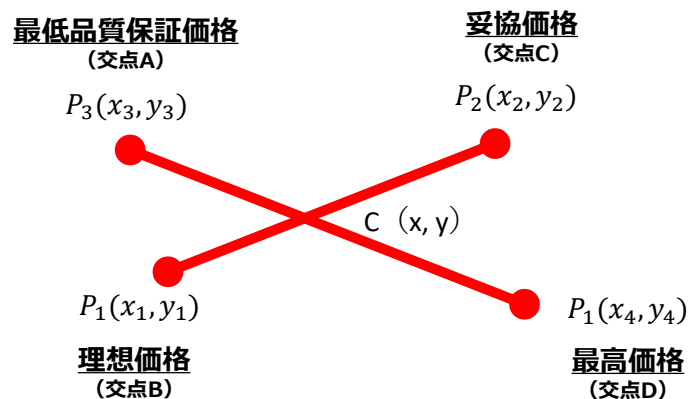
b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査

④「適正価格帯」及び「受容価格帯」の算出

4つの価格において、妥協価格から理想価格の間を「適正価格帯」。また、最高価格から最低品質保証価格の間を「受容価格帯」。商品やサービスの設定をする場合には、適正価格帯内で設定すると良いと言われている。



なお、4つの価格の計算方法は、グラフの2つの直線の交点を求める連立方程式で算出。式は以下のとおりである。

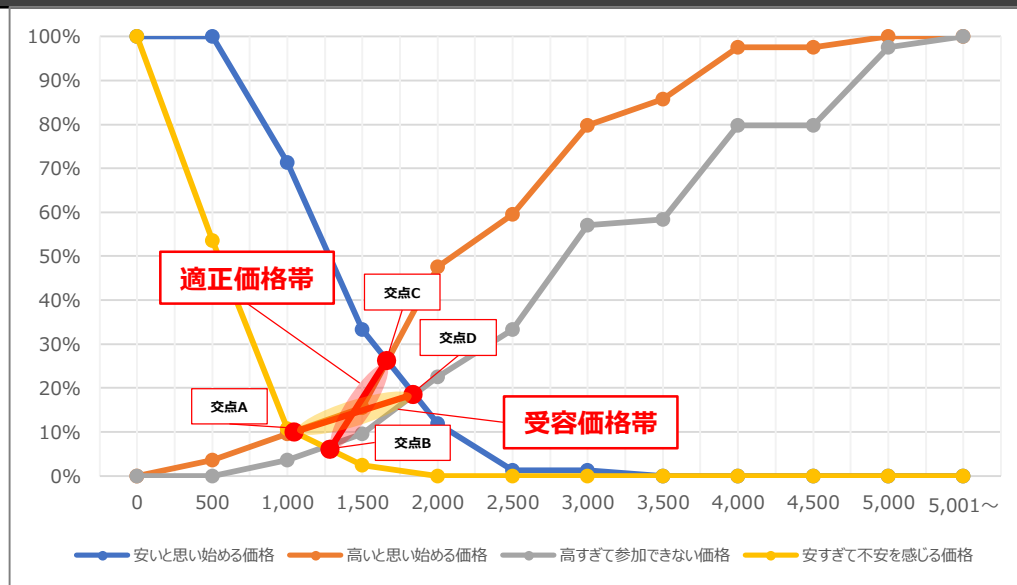


$$x = \frac{(y_3 - y_1) * (x_1 - x_2) * (x_3 - x_4) + x_1 * (y_1 - y_2) * (x_3 - x_4) - x_3 * (y_3 - y_4) * (x_1 - x_2)}{(y_1 - y_2) * (x_3 - x_4) - (x_1 - x_2) * (y_3 - y_4)}$$

12.次年度以降の自走化に向けた展開

b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査

④ 「適正価格帯」及び「受容価格帯」の算出 (n=84)



アーバンスポーツ体験教室参加費（大人1名／子ども1名）

<交点A> 最低品質保証価格

<交点B> 理想価格

<交点C> 妥協価格

<交点D> 最高価格

1,042円

1,250円

1,667円

1,845円

☆ 適正価格帯（交点B～交点C）

☆ 受容価格帯（交点A～交点D）

1,250円 ～ 1,667円

1,042円 ～ 1,845円

設問／価格		回答率											
		0円	500円	1,000円	1,500円	2,000円	2,500円	3,000円	3,500円	4,000円	4,500円	5,000円	5,001円～
ア	安いと思い始める価格	100.0%	100.0%	71.4%	33.3%	11.9%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
イ	高いと思い始める価格	0.0%	3.6%	9.5%	15.5%	47.6%	59.5%	79.8%	85.7%	97.6%	97.6%	100.0%	100.0%
ウ	高すぎて参加できない価格	0.0%	0.0%	3.6%	9.5%	22.6%	33.3%	57.1%	58.3%	79.8%	79.8%	97.6%	100.0%
エ	安すぎて不安を感じる価格	100.0%	53.6%	10.7%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

b. PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査

⑤ PSM分析に基づく「適正価格帯」及び「受容価格帯」を用いた事業性調査

□ PSM分析にて想定した条件の整理

アーバンスポーツ体験教室想定条件	
対象	親子1組（大人：1名、子ども：1名）
体験時間	50分（+準備時間10分）
コンテンツ	スケートボード or インラインスケート
講師	あり（2名）
指導内容	初心者向けの内容
レンタル	別途：1,000円（親子2人分）

□ 今回算出された「適正価格帯」及び「受容価格帯」について

適正価格帯	受容価格帯
1,250円 ~ 1,667円	1,042円 ~ 1,845円
【参考】昨年度事業（SIL）における同条件の利用許容額＜CVM分析＞	
1,805円 ※ 親子1組／レンタル代込み	
- 今回の「適正価格帯」は民間のアーバンスポーツ体験教室等の価格と乖離する金額ではなく、一般的な価格帯が算出されたと考えている。 - 昨年度事業における「利用許容額」よりも今回算出された価格は上昇しており、東京2020大会以降、徐々に消費者の需要が増加していると予測される。	

□ 調査結果に基づく収入予測の前提条件

- 適正価格帯より、仮に参加費を「**1,500円（親子1組）**」と想定する。
- 受容価格帯より、仮に参加費を「**1,800円（親子1組）**」と想定する。
- レンタルについて、「親子2人分（1,000円）」を利用するものとする。
- 参加者数は「大人」の当日参加者数から「303組（606名）」とする。

参加者負担額①	2,500円 （1,500円 + 1,000円）
参加者負担額②	2,800円 （1,800円 + 1,000円）
参加者数	303組 （606名）

□ 調査結果に基づくアーバンスポーツの体験イベントにおける収入予測

収入予測①	757,500円 （7日間）
＜内訳＞ 2,500円 × 303組 = 757,500円	
収入予測②	848,400円 （7日間）
＜内訳＞ 2,800円 × 303組 = 848,400円	
※ 参考【体験イベント総売上】500円 × 719名 = 359,500円	

【PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査の総括】

- PSM分析に基づく「適正価格帯」及び「受容価格帯」を用いたアーバンスポーツの体験イベントにおける収入予測の結果、適正価格帯において「**757,500円**」、受容価格帯では「**848,400円**」という結果になった。
- 結論としては本事業の総事業費から勘案して、これらの価格帯で採算が成り立つ見込みはなく、体験型イベント（「する」イベント）においては、「**参加費収入のみでの自走化は難しい**」ことが明らかとなった。
- PSM分析の結果については、民間のアーバンスポーツ体験教室等の価格と乖離した価格帯ではなかったものの、今回の体験イベントでは、物販や飲食等の売上がないため、収入予測は参加費及びレンタル代のみとなる。
- また、アーバンスポーツのなかでも人気のあるローラー系のスケートボードやインラインスケートなどのコンテンツでは、参加者の安全確保の観点から、参加者数の大幅な増加を見込むこともできない。
- 一方で、PSM分析の結果から、参加者負担額の単価について、これ以上の価格設定を行った場合、参加者数は落ち込むことが予測される。
- したがって、アーバンスポーツの「体験イベント」という単発の企画のみでの自走化は難しいとの考察に至ったが、今後、物販や飲食収入の確保、講師のネームバリューによる参加者負担の単価上昇、協賛企業や行政等の支援による自走化の可能性については引き続き検討していく必要がある。

◆ 事業継続や横展開に向けたポイント・課題

◆ アーバンスポーツツーリズムの自走化の可能性

今回の実証実験の結果から、アーバンスポーツの「する」イベントを中心としたツーリズムの自走化には特に「採算性」の面で課題があることが明らかとなった。

今後の自走化に向けては、単発の「する」イベントのみで終わるのではなく、「みる」イベントとの連携が必要であり、それぞれのイベントでは道具や飲食等の販売による収入やイベント後も参加者が継続して通える場所（ハード）の確保など、常に収益確保を目的とした取組を増やしていく必要があると感じた。

一方で、東京2020大会の影響により、現在のツーリズムコンテンツとしての集客力は、一般的なスポーツコンテンツよりも高く、地域資源等の活用による付加価値の提供により単価上昇が狙えるコンテンツであることも明らかとなった。

「アーバンスポーツツーリズム」としては、参加者の「楽しさ」や「成功体験」を提供する『①体験コンテンツ』と、選手がコンテスト等で活躍する姿を提供する『②観戦コンテンツ』をセットにしたツアーが基本的な枠組みとなるが、①及び②にいかにか収益確保を目的とした取組と各地域の特色ある地域資源を活用する取組を加えることができるかが、今後の自走化のポイントになると考える。

◆ 「地域SC」を中心として地域活動団体と連携した自主事業の検討

アーバンスポーツは未成熟なスポーツであるがゆえに、トラディショナルスポーツと比較して、各種協会や団体など地域に根差した活動母体が少なく、新たな地域活動団体や民間事業者が参入しやすい傾向にあると言える。

本事業の実施体制は、当法人（地域SC）が中心となり、地元自治体、コンテンツ事業者、旅行業者等が連携して事業を実施するというシンプルな構造であることから、各地域で同様の事業実施が可能であると考ええる。

そのため、地域SCのように近年全国各地で新しく創設され、新規コンテンツの創出に苦慮している団体においては、本事業を地域SCのモデル事業のひとつとして横展開していくことで、各地域における地域SCの新しい役割が生まれるとともに、地域の活性化を図っていく仕組みが作れるのではないかと考える。

また、当法人においては、次年度以降、全国の地域SCのモデルとなるべく、本事業の結果をもとに、アーバンスポーツの継続的な機会と場所の確保に向けて、地域活動団体等と連携したアーバンスポーツに関する自主事業創出の検討を行っていきたいと考えている。

◆ グローバルコンテンツとしての展開

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初企画していたモニターツアーが中止になってしまうなど、アーバンスポーツツーリズムのグローバルコンテンツとしての展開可能性について明確な検証を行うことができなかった。

ただ、在日外国人向けの第2弾モニターツアーの申込状況から、国籍や居住地に関係なく、アーバンスポーツツーリズムに対する外国人の高いニーズを把握することができたため、今回のツアー内容が将来のグローバルコンテンツとして、インバウンドの獲得に有益であろうことが示唆された。

しかし、アーバンスポーツは海外発祥の歴史があることから、グローバルコンテンツとして展開していくためには、「体験（する）コンテンツ」には、海外には無い個性を、「観戦（みる）コンテンツ」には、世界レベルのコンテストを求められるため、インバウンドの獲得に対するハードルが高いことは認識すべきである。

一方で、外国人の「日本文化」に対するニーズは高いことから、当法人としては、当市が誇る盆栽や人形といったコンテンツの提供により、「体験＋観戦＋日本文化」というアーバンスポーツツーリズムの新たなグローバルコンテンツとしての展開が可能であると考えており、次年度以降の検討課題としたい。

◆ 生涯スポーツ振興としての行政の費用負担の正当化

昨年度実施した「Sport in Life推進プロジェクト」の結果に続き、今回の実証実験の結果においても、アーバンスポーツの実施により、「8割」を超える子育て世代の参加者が「運動機会や時間が増えると思う」と回答しており、改めてアーバンスポーツが「コロナ禍でのスポーツ実施率向上」に大きく貢献できるという結果を得ることができた。また、東京2020大会の影響もあり、参加者のアーバンスポーツに対する継続意欲は強く、アーバンスポーツの実施により、幅広い世代での競技振興を図ることができただけでなく、親子のスポーツに関するコミュニケーションの増加や五輪レガシー創出に貢献することができた。

これらの結果は、市民のスポーツ実施率向上を目的とした「生涯スポーツの振興」として、アーバンスポーツの活用可能性を示すものであり、地方自治体の費用負担が正当化されるための十分な材料になるのではないかと考える。

東京2020大会のブームを一過性のもので終わらせないためには、地域SCや民間事業者主体の取組だけでなく、併せて、行政主導の取組が増えていくことで、幅広い世代への競技振興につながるのではないかと考えている。

本事業ではアーバンスポーツツーリズムにおける現状や課題を把握したうえで、「運動機会」、「ツーリズム」、「競技振興」という3つの指標を用いた事業の効果検証と、アンケート調査に基づく事業の自走化の検証を行い、Withコロナ時代におけるアーバンスポーツツーリズムの展開可能性について検討することができた。

特に、事業の効果検証においては、コロナ禍の状況を考慮し人数制限等の対策を講じたにも関わらず、多くの方に体験イベント及びモニターツアーへご参加頂き、各種アンケート調査へご協力頂いたことから、3つの評価指標に関する効果については信頼性のある調査結果を報告することができたと認識している。

また、自走化の検証においては、「体験イベント」に関する事業性調査を実施することで、アーバンスポーツツーリズムの基本的な枠組みとして「体験＋観戦」の形を提唱し、次年度以降のアーバンスポーツツーリズムコンテンツ創出に向けた参加者のニーズや課題の傾向等の検討材料を的確に示すことができた。

当法人としては、これらの結果をもとに、次年度以降、アーバンスポーツの継続的な機会と場所の確保に向けて地域活動団体と連携した自主事業創出の検討を行うとともに、アフターコロナ時代におけるアーバンスポーツツーリズムのグローバルコンテンツとしての展開可能性について模索していきたいと考える。

また、本事業を実施する中で、東京2020大会のアーバンスポーツ界全体に対する影響力の強さを実感しており、国内でアーバンスポーツに係る新たなコンテンツを創出する絶好のタイミングであると言えるが、トラディショナルスポーツと比較して地域の組織体制や活動力は脆弱であることから、ツーリズムコンテンツとしての発展と並行して、各種協会、地域SC、地方自治体等が各地域の受け皿や担い手の創出といった「競技振興」に関する様々な取組が実施されることを期待している。



もっさいたまスポーツも。



Saitama Sport Commission

【お問い合わせ】

一般社団法人さいたまスポーツコミッション

事業企画課 ・ 本間 薫

TEL : 048-762-8334 MAIL : honma@saitamasc.jp

◆ アンケート票

スタッフ 記入欄	参加エリア	日 付	開始時間	グループ番号	性別
	/	:			男性・女性

【新都心バスタ】アバスポさいたま 参加者アンケート(保護者用)

【代表団様】一般社団法人さいたまスポーツコンベンション
【構成団様】さいたま市、一般社団法人 CHIMERA Union

本日はご参加ありがとうございます。今後の活動のため、以下についてご回答ください。
なお、本アンケートの内容は個人情報で特定できない形で処理します。

① 今日あなたが体験したスポーツのすべてに○をつけてください。

1. BMX (観望あり)	2. スケートボード (観望あり)	3. インライン スケート (観望あり)	4. SOX (観望あり)	5. ダンス (観望あり)	6. 空が (観望あり)
7. BMX (観望なし)	8. キックバイク (観望なし)	9. インライン スケート (観望なし)			

② 今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか、もっとも増えるものに○をつけてください。

1. そう思う	2. ややそう思う	3. どちらともいえない	4. あまりそう思わない	5. そう思わない
---------	-----------	--------------	--------------	-----------

③ 以下について、今回よかったと思われるものはありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. アドモがよい	2. 費用負担が 少ない	3. 準備が楽 そうだった	4. 子どもが楽し そうだった	5. 観戦を満了 することができた
6. 運動不足が 解消できる	7. 友達が作れた	8. 遊んでいる時間 を有効活用でき た	9. 子どもとユニ バーシティが取 れた	
10. その他(自由記述)				

④ 次の事項はスポーツが「できない理由」としてあげられるものです。今回体験されたような
アーバンスポーツであれば解消できると思われるものにいくつでも○をつけてください。

1. 仕事や家事が 忙しい	2. 子どもに手が かからない	3. 天気や行事が かからない	4. 場所を取っ ていない	5. 場所や人数が 足りない
6. 距離がない	7. 指導者がい ない	8. お金に余裕が ない	9. 運動やスポーツ が嫌い	10. 距離がない
11. 運動やスポーツ は上になんか ことがある	12. 生活や仕事で 余裕がなくて いる			

裏面に続きます→

スタッフ 記入欄	参加エリア	日 付	開始時間	グループ番号	性別
	/	:			男性・女性

【新都心バスタ】アバスポさいたま 参加者アンケート(お子さま用)

【代表団様】一般社団法人さいたまスポーツコンベンション
【構成団様】さいたま市、一般社団法人 CHIMERA Union

① 今日あなたがやってみたスポーツに○をつけてください。

1. BMX (せんせい がいた)	2. スケートボード (せんせい がいた)	3. インライン スケート (せんせい がいた)	4. SOX (せんせい がいた)	5. ダンス (せんせい がいた)	6. 空が (せんせい がいた)
7. BMX (せんせい がいない)	8. キックバイク (せんせい がいない)	9. インライン スケート (せんせい がいない)			

② 今日やってみたスポーツはたのしかったですか。あてはまるものに○をつけてください。

1. そうおも う	2. ややそ うおも う	3. どちらとも いえない	4. あまりそ うおも わない	5. そうおも わない
--------------	--------------------	------------------	-----------------------	----------------

③ ②で、「そうおも」や「ややそうおも」に○を付けた人のみこたえてください。
それはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. からだが きつくない	2. せんせいが いた	3. じょうず にでき た	4. 決められた できた	5. ともだちが できた
6. いろんな わざがある	7. その他(じょうずに書いてください)			

④ 今日やったことをきっかけに、うんどうやスポーツがより好きになりましたか。
あてはまるものに○をつけてください。

1. そうおも う	2. ややそ うおも う	3. どちらとも いえない	4. あまりそ うおも わない	5. そうおも わない
--------------	--------------------	------------------	-----------------------	----------------

⑤ 今日やったことをきっかけに、うんどうやスポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうす
か。あてはまるものに○をつけてください。

1. そうおも う	2. ややそ うおも う	3. どちらとも いえない	4. あまりそ うおも わない	5. そうおも わない
--------------	--------------------	------------------	-----------------------	----------------

うんどうがますます→

ツアー名：3X3 体験＆さいたまプロコンス試合観戦日帰りツアー

アーバンスポーツツーリズム モニターツアーに関するアンケート	
-----------------------------------	--

この度は当モニターツアーにご参加いただき、ありがとうございました。
当モニターツアーはスポーツ庁「スポーツによるグローバルコンテンツ創出事業」の一環として実施
しております。ツアーに参加された皆さまの貴重なご意見をお聞かせいただき、本ツアーを改善してい
くための参考にさせていただきます。個人を特定することはありません。【全 25 題】
大変お疲れのところ恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

Q1. 今回、ツアーに申し込みに理由はありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1 ツアーのテーマが魅力的だから	6 素敵な食事ができるから
2 お手頃な価格だから	7 バスケットボールの試合観戦をしたいから
3 ツアー内容が充実しているから	8 日帰り時間でちょうど良いから
4 さいたま市を巡ることができから	9 実施時間がちょうど良いから
5 スポーツ体験をしたいから	10 その他()

Q2. 今回のツアーに申し込まれた際に、あなたはツアーに対してどの程度期待していましたか。
項目別にそれぞれ○をつけてください。

	①	②	③	④	⑤
	期待 していた	やや 期待 していた	い えな い	あ まり 期 待 して いた な か た い	期 待 して いた な か た い
(1) 旅行先(さいたま市)	1	2	3	4	5
(2) ツアー全体の企画内容	1	2	3	4	5
(3) ツアー全体の行程(スケジュール)	1	2	3	4	5
(4) 3X3体験	1	2	3	4	5
(5) 食事	1	2	3	4	5
(6) さいたまプロコンス試合観戦	1	2	3	4	5
(7) ツアーを申し込んださいたま市内での観光	1	2	3	4	5
(8) 他の参加者との交流	1	2	3	4	5
(9) コストパフォーマンス	1	2	3	4	5
(10) 総合的に見て	1	2	3	4	5

ツアー名：3X3 体験＆さいたまプロコンス試合観戦日帰りツアー

アーバンスポーツツーリズム モニターツアーに関するアンケート	
-----------------------------------	--

今回は当モニターツアーに参加(さんか)していただき、ありがとうございました。
今日(きょう)のツアー内容(ないよう)について、アンケートをお願いします。

Q1. さんか(さんか)のツアーはたのしかったですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1 たのしかった	2 やや たのしかった	3 どちらとも いえない	4 あ ま り た の し く な か た い	5 た の し く な か た い
-------------	-------------------	--------------------	--	---

Q2. Q1 のこたえの理由(りゆう)をおしえてください。

Q3. ツアーのうち、「3×3 だいけん」はたのしかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。

1 たのしかった	2 やや たのしかった	3 どちらとも いえない	4 あ ま り た の し く な か た い	5 た の し く な か た い
-------------	-------------------	--------------------	--	---

Q4. Q3 のこたえの理由(りゆう)をおしえてください。

◆ PDFデータ



01_大人用アンケート(体験/当日)



02_子ども用アンケート(体験/当日)



03_大人用アンケート(モニターツアー)



04_子ども用アンケート(モニターツアー)

※ リンクからファイルをご覧いただけます

◆ アンケート設問

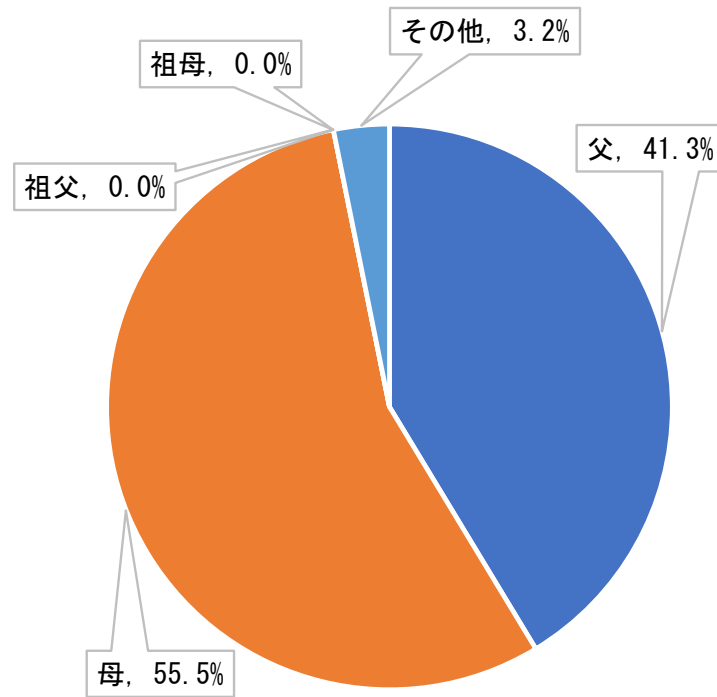
◆ 【A-1】体験イベント：大人／事前

問	質問
1	あなたと、参加されるお子さまとのご関係をお答えください。
2	あなたが1日あたり、「家事（育児を含む）」にかかる平均時間を教えてください。育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
3	【2】のうち、あなたが1日あたり、「育児」にかかる平均時間を教えてください。育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
4	あなたは1週間のうち、運動やスポーツをどのくらい実施していますか。
5	あなたが1週間のうち、子どもと一緒に運動やスポーツをする（平均）合計時間を教えてください。
6	お子さまは1週間のうち、運動やスポーツをどのくらい実施していますか。学校の体育を除きます。
7	今回、イベントに参加しようと考えた理由は何ですか。（複数回答）
8	アーバンスポーツを体験しようと考えた理由は何ですか。（複数回答）
9	あなたがアーバンスポーツをすることを想定した上で、特に心配なことは何ですか。（複数回答）
10	お子さまがアーバンスポーツをすることを想定した上で、特に心配なことは何ですか。（複数回答）
11	以下の【アーバンスポーツにおけるマナー】に関する質問に対して、○か×を選択してください。
ア	パークなどの施設への往復時に、大声を挙げたり、ポイ捨てをしたりといった、近所の人に迷惑となる行為はしない。
イ	施設でアーバンスポーツをするお友達と、気持ち良くあいさつをする。
ウ	禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。

◆ アンケート集計結果

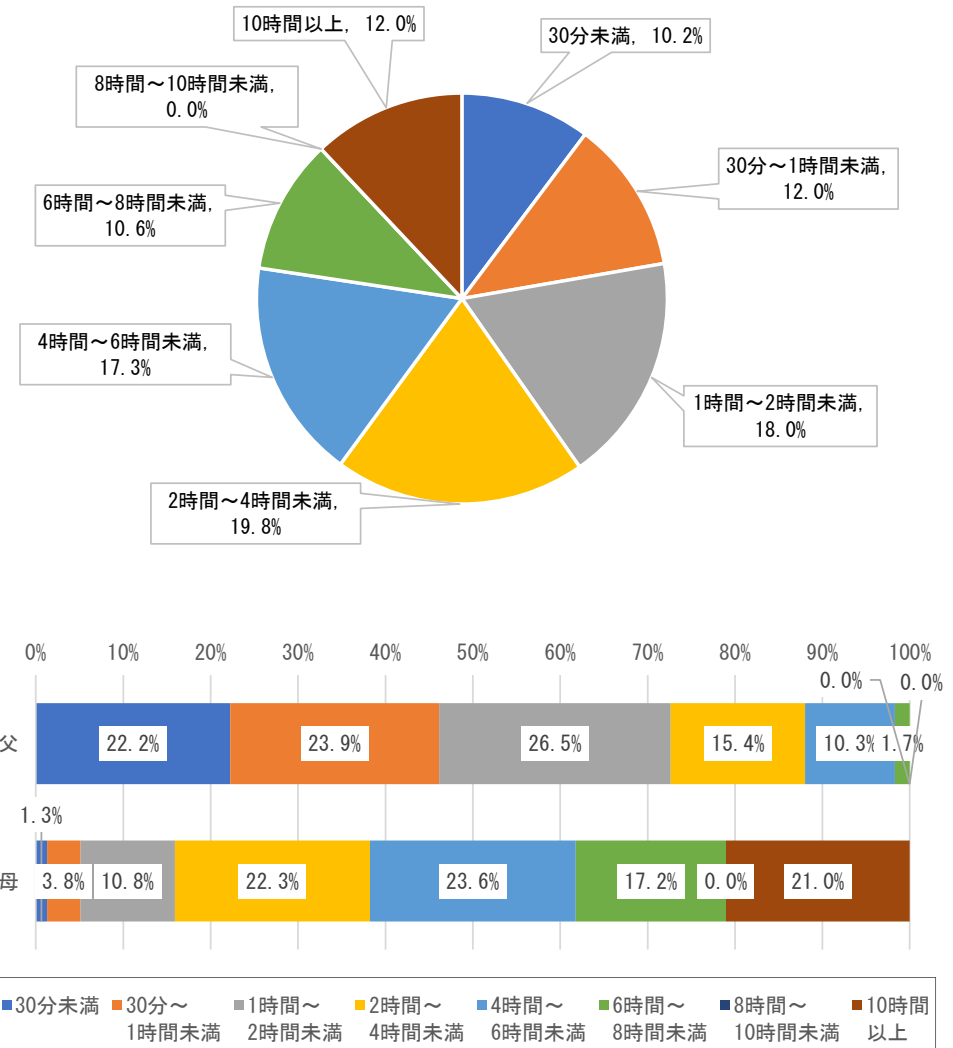
◆ 【事前／大人】 問1

あなたと、参加されるお子さまとのご関係をお答えください。



◆ 【事前／大人】 問2

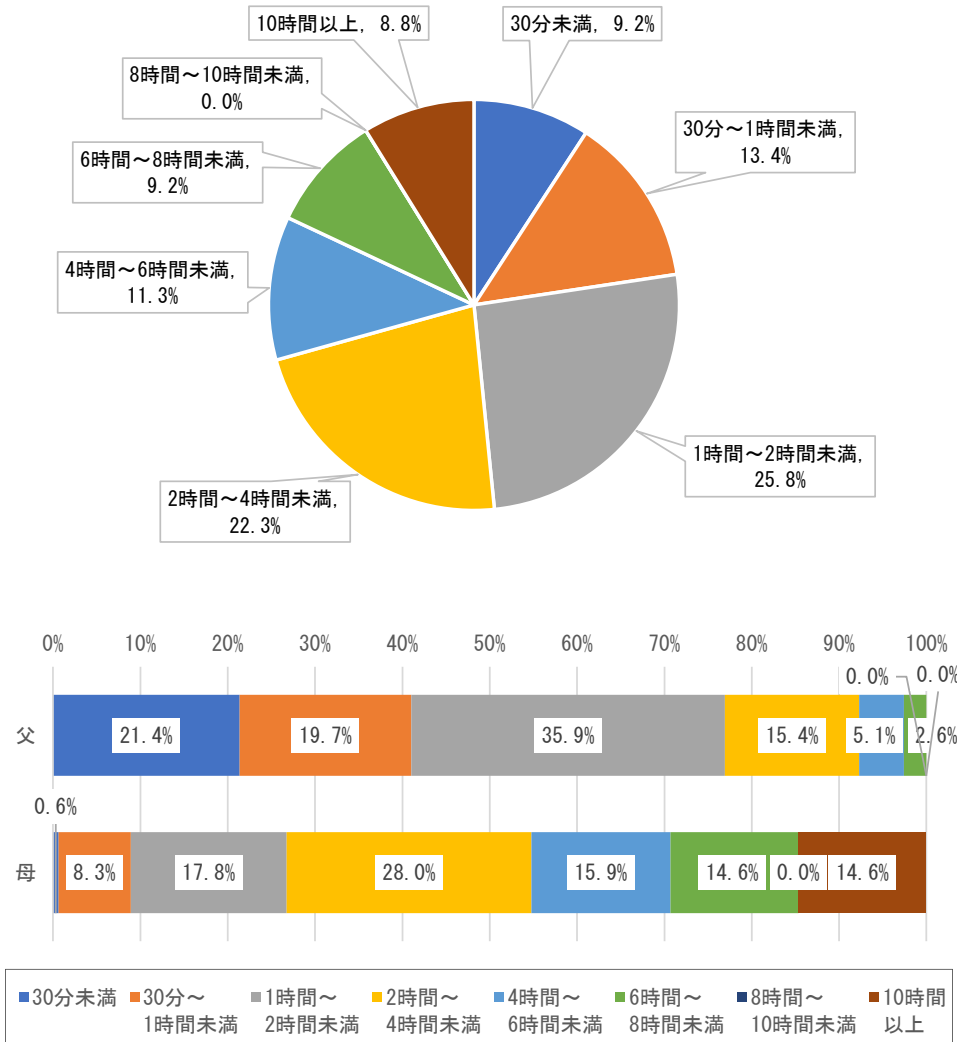
今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか。



◆ アンケート集計結果

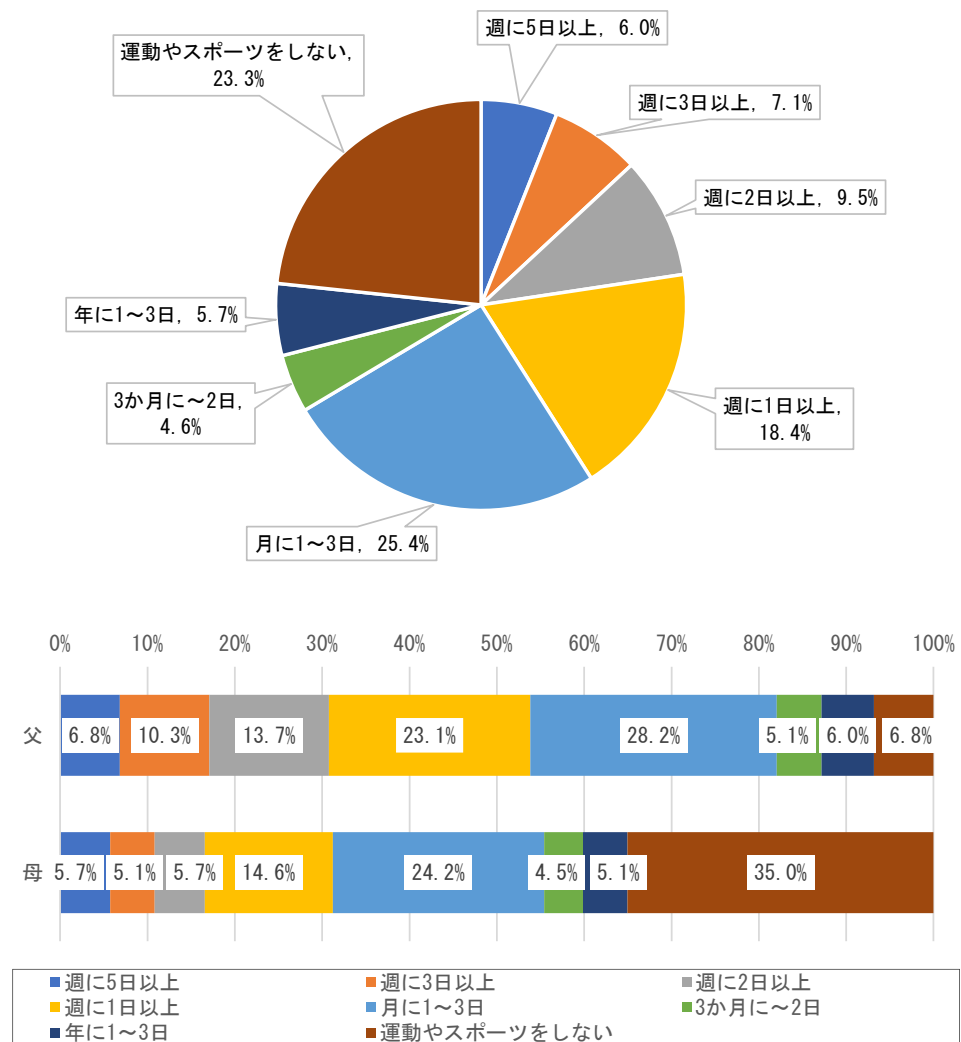
◆ 【事前／大人】問3

【問2】のうち、あなたが1日あたり、「育児」にかかる平均時間を教えてください。
育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。



◆ 【事前／大人】問4

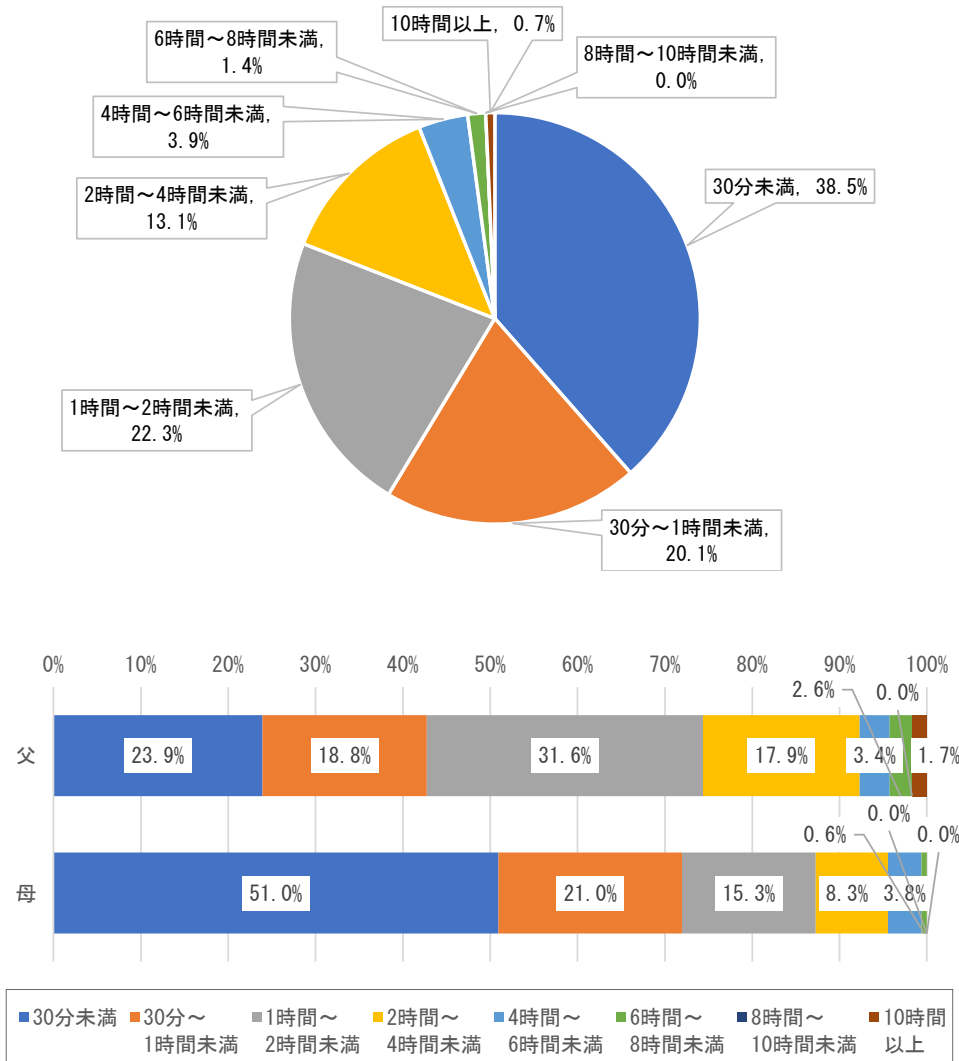
あなたは1週間のうち、運動やスポーツをどのくらい実施していますか。



◆ アンケート集計結果

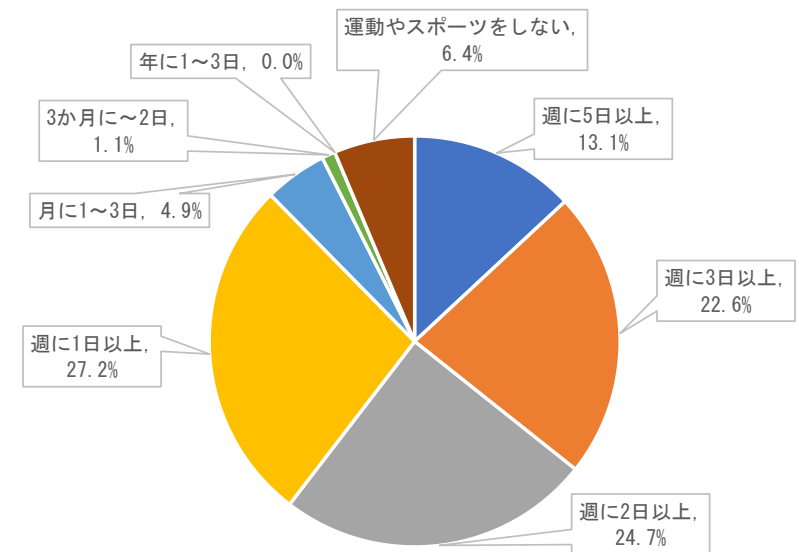
◆ 【事前／大人】 問5

あなたが1週間のうち、子どもと一緒に運動やスポーツをする
(平均) 合計時間を教えてください。



◆ 【事前／大人】 問6

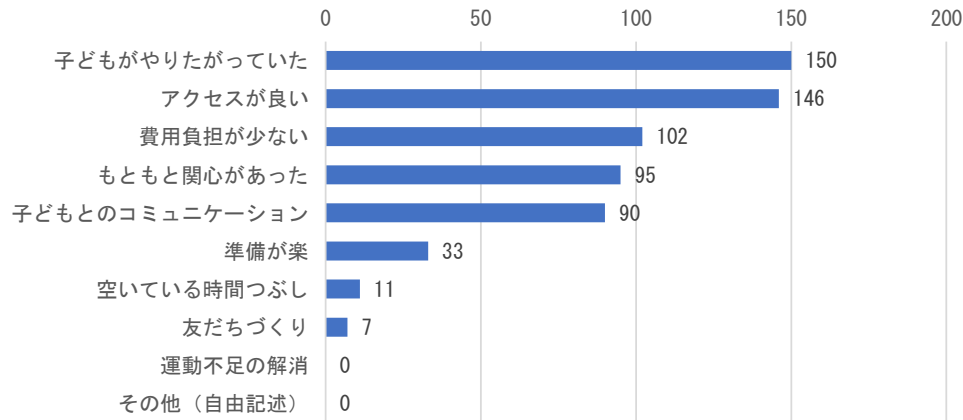
お子さまは1週間のうち、運動やスポーツをどのくらい実施していますか。
学校の体育を除きます。



◆ アンケート集計結果

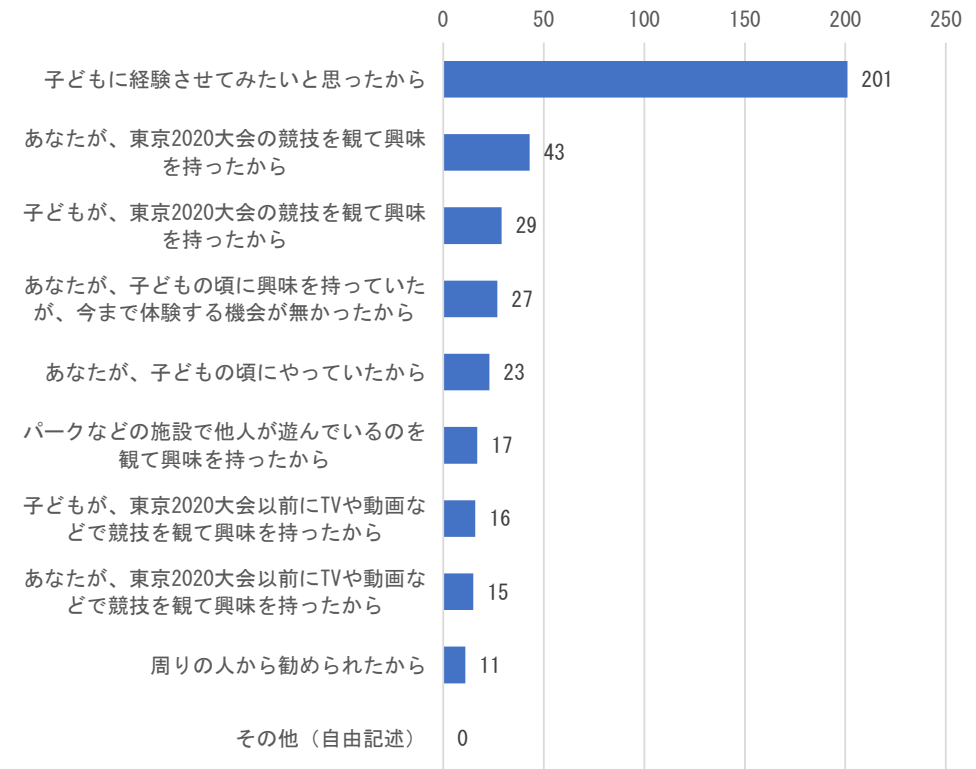
◆ 【事前／大人】 問7

今回、イベントに参加しようと思った理由は何ですか。（複数回答）



◆ 【事前／大人】 問8

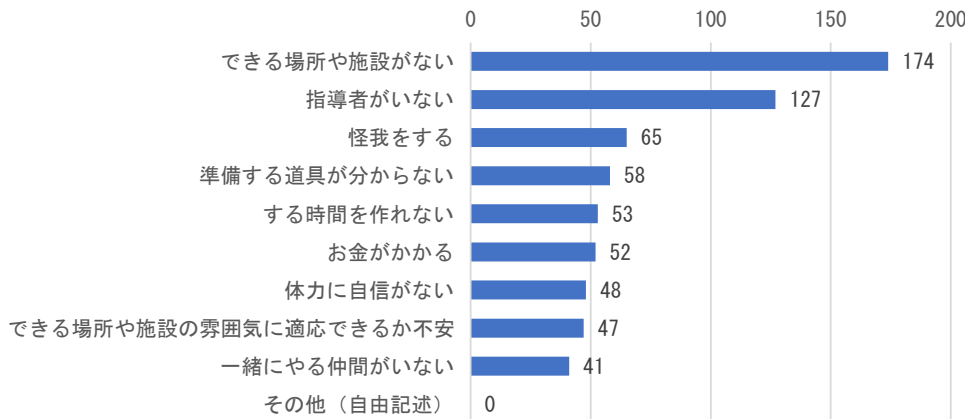
アーバンスポーツを体験しようと思った理由は何ですか。（複数回答）



◆ アンケート集計結果

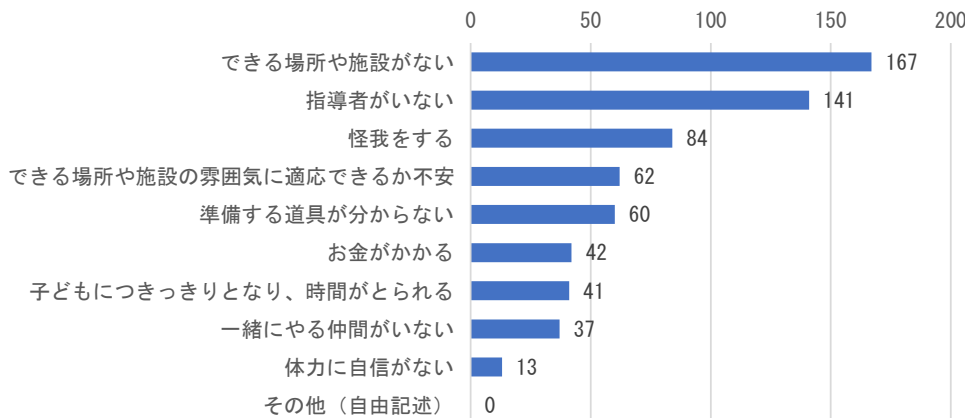
◆ 【事前／大人】 問9

あなたがアーバンスポーツをすることを想定した上で、特に心配なことは何ですか。（複数回答）



◆ 【事前／大人】 問10

お子さまがアーバンスポーツをすることを想定した上で、特に心配なことは何ですか。（複数回答）



◆ 【事前／大人】 問11ア：○か×を選択してください。

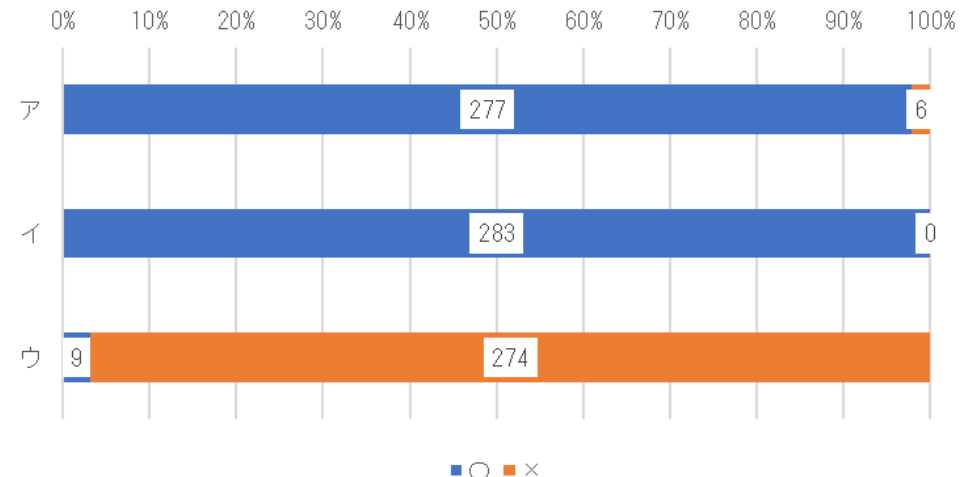
パークなどの施設への往復時に、大声を挙げたり、ポイ捨てをしたりといった、近所の人に迷惑となる行為はしない。

◆ 【事前／大人】 問11イ：○か×を選択してください。

施設でアーバンスポーツをするお友達と、気持ち良くあいさつをする。

◆ 【事前／大人】 問11ウ：○か×を選択してください。

禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。



◆ アンケート設問一覧

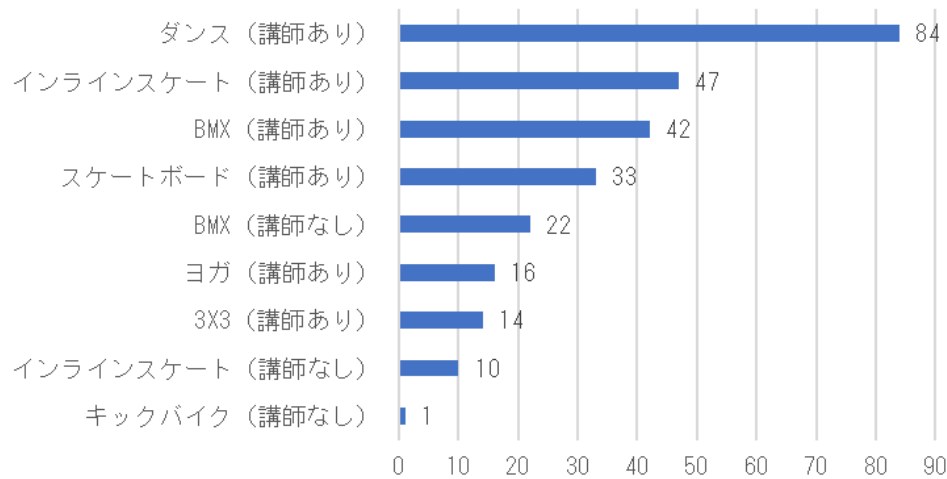
◆ 【A-1】体験イベント：大人／当日

問	質問
1	今日あなたが体験したスポーツのすべてに○をつけてください。
2	今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか。
3	以下について、今回よかったと思われるものはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
4	次の事柄はスポーツが「できない理由」としてあげられるものです。今回体験されたようなアーバンスポーツであれば解消できると思われるものにいくつでも○をつけてください。
5	講師の説明はわかりやすかったですか。
6	講師から説明を受けたことで解消された、アーバンスポーツをする上での心配ごとは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
7	以下の【アーバンスポーツにおけるマナー】に関する質問に対して、○か×を選択してください。
ア	パークなどの施設への往復時に、大声を挙げたり、ポイ捨てをしたりといった、近所の人に迷惑となる行為はしない。
イ	施設でアーバンスポーツをするお友達と、気持ち良くあいさつをする。
ウ	禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。
8	会場まではどのように来られましたか。主なものに一つ○をつけてください。
9	体験イベント参加後のご予定を教えてください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
10	この体験イベントにまた参加したいと思いますか。
11	あなたの年齢であてはまるものに○をつけてください。
12	一緒に参加されるお子さんとのご関係であてはまるものに○をつけてください。

◆ アンケート集計結果

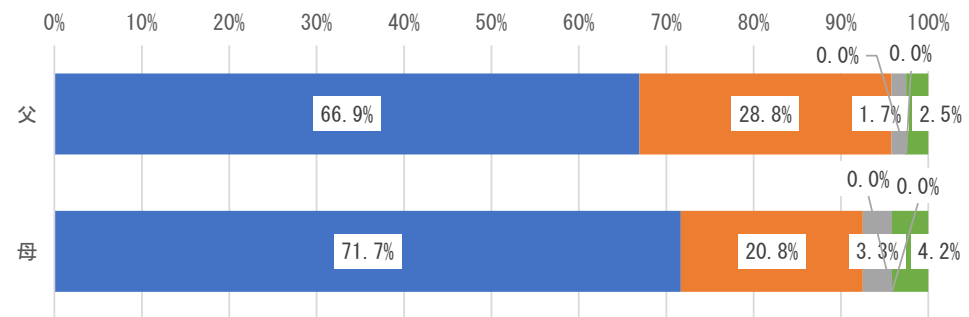
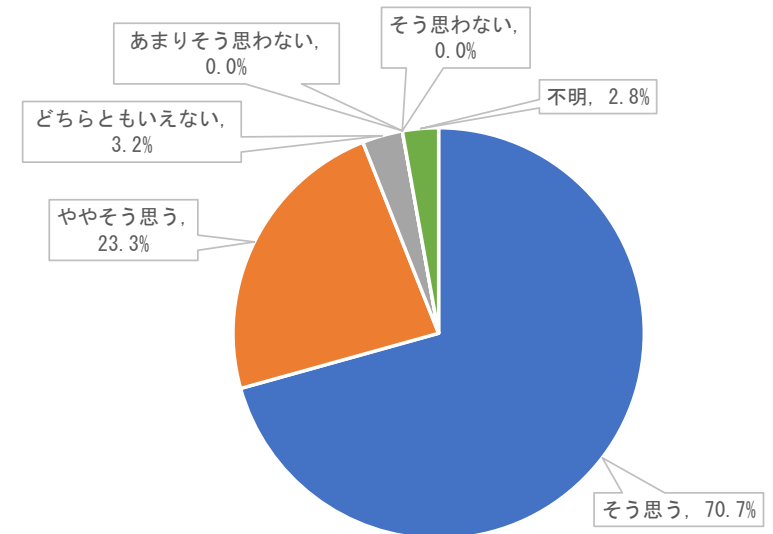
◆ 【当日／大人】 問1

今日あなたが体験したスポーツに○をつけてください。



◆ 【当日／大人】 問2

今後、あなたのお子さまと運動やスポーツをしたり、
運動やスポーツについて話したりする機会は増えると思いますか。

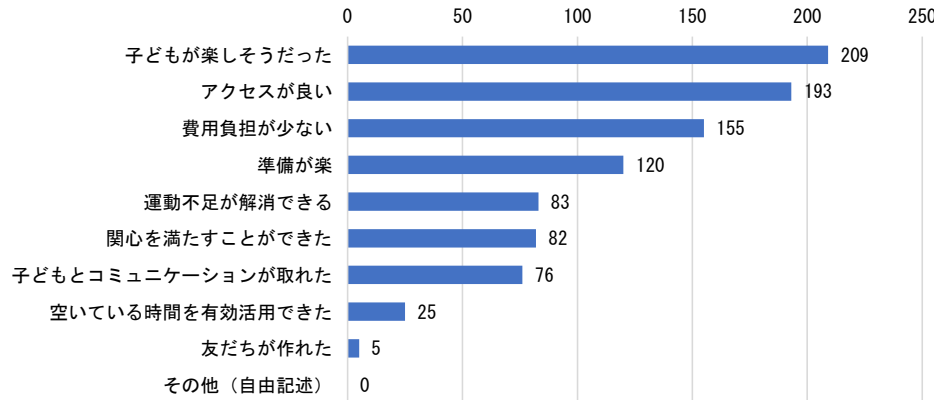


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 不明

◆ アンケート集計結果

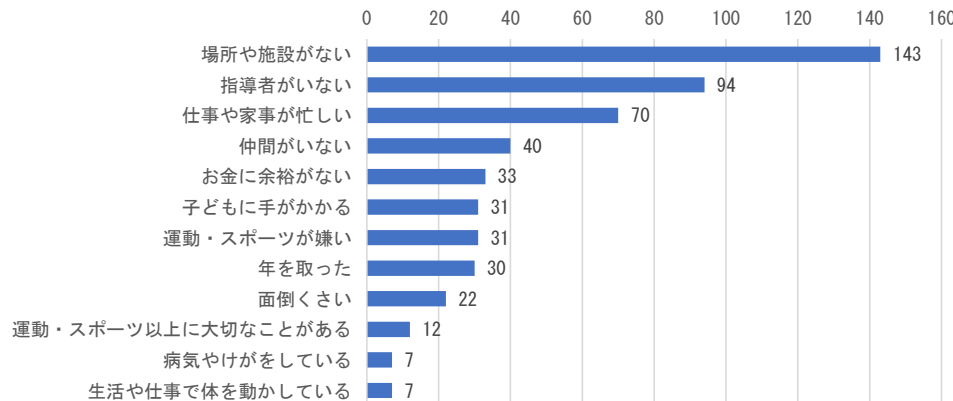
◆ 【当日／大人】 問3

以下について、今回よかったと思われるものはありますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



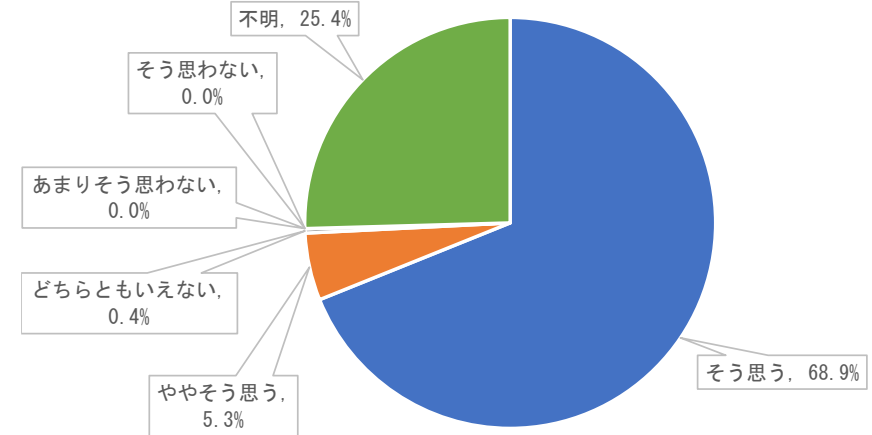
◆ 【当日／大人】 問4

次の事柄はスポーツが「できない理由」としてあげられるものです。
今回体験されたようなアーバンスポーツであれば解消できると
思われるものにいくつでも○をつけてください。



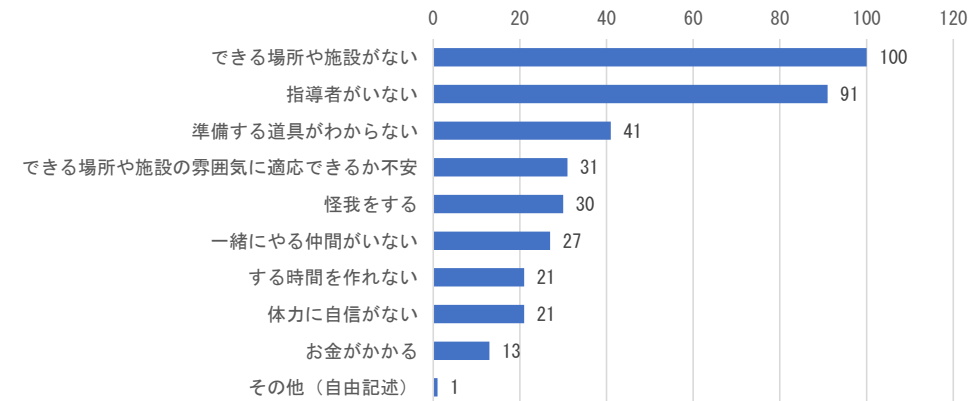
◆ 【当日／大人】 問5

講師の説明はわかりやすかったですか。



◆ 【当日／大人】 問6

講師から説明を受けたことで解消された
アーバンスポーツをする上での心配ごとは何ですか。（複数回答）



◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】問7ア：○か×を選択してください。

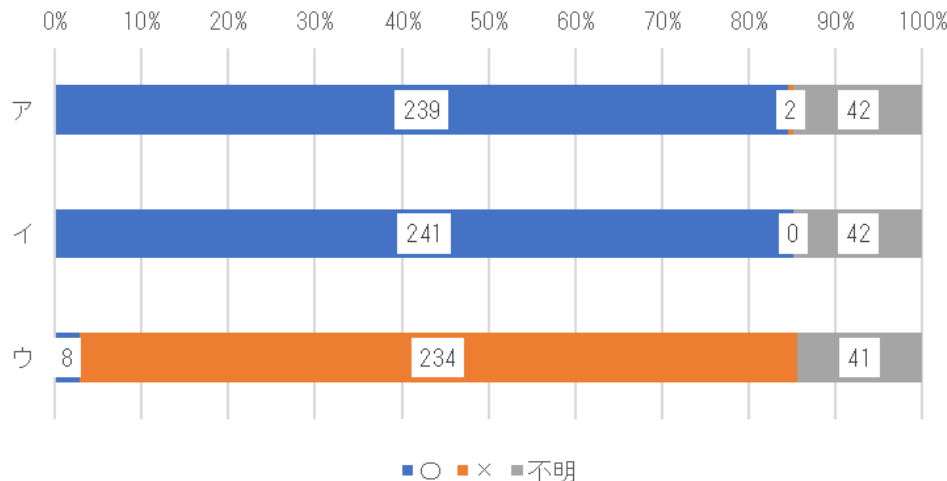
パークなどの施設への往復時に、大声を挙げたり、ポイ捨てをしったりといった、近所の人に迷惑となる行為はしない。

◆ 【当日／大人】問7イ：○か×を選択してください。

施設でアーバンスポーツをするお友達と、気持ち良くあいさつをする。

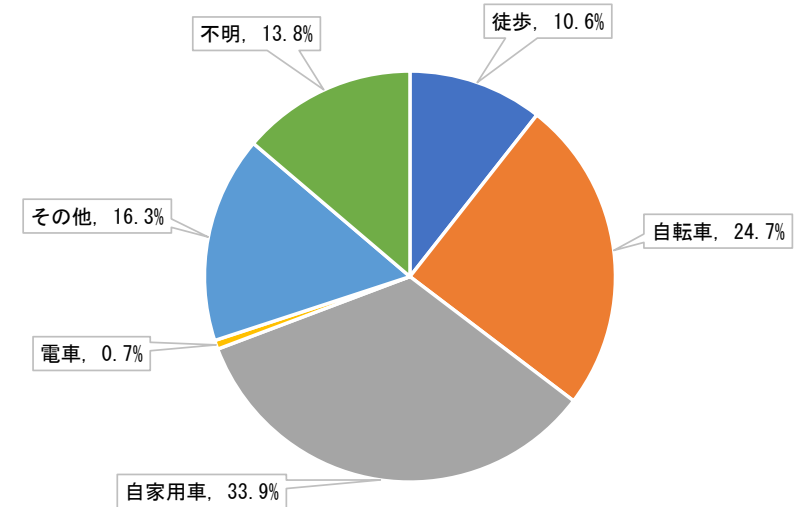
◆ 【当日／大人】問7ウ：○か×を選択してください。

禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。



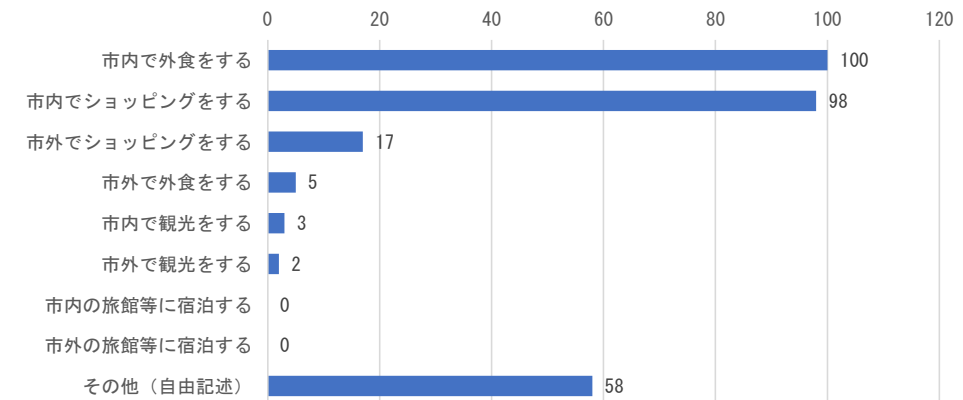
◆ 【当日／大人】問8

会場まではどのように来られましたか。主なものに一つ○をつけてください。



◆ 【当日／大人】問9

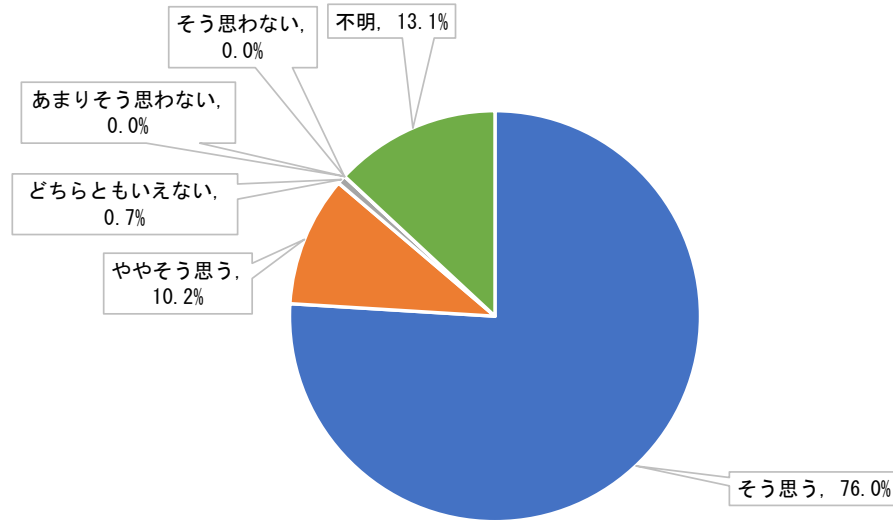
体験イベント参加後のご予定を教えてください。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

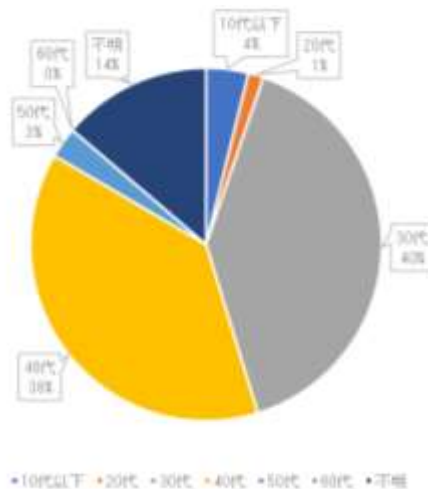
◆【当日／大人】問10

この体験イベントにまた参加したいと思いますか。



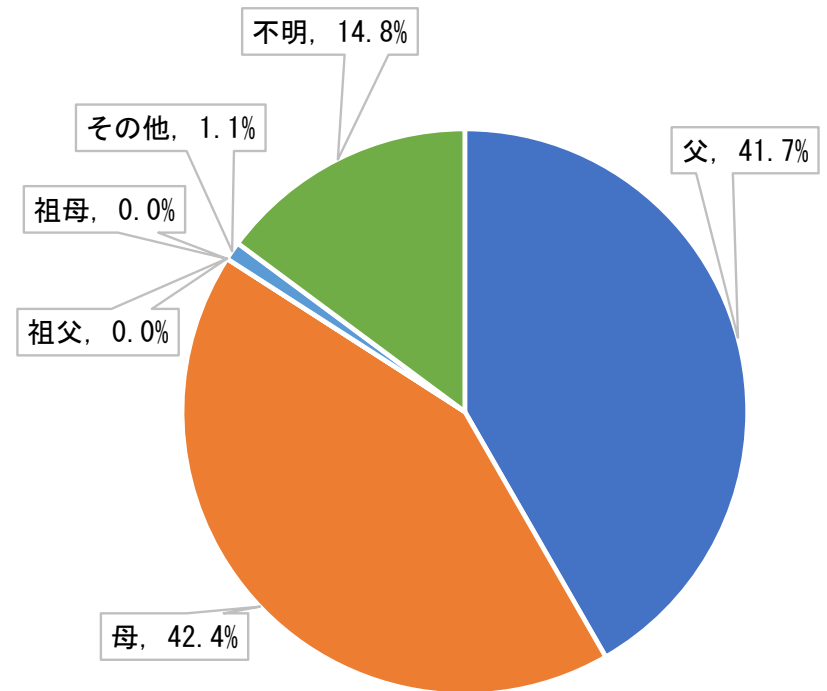
◆【当日／大人】問11

あなたの年齢であてはまるものに○をつけてください。



◆【当日／大人】問12

一緒に参加されるお子さんとのご関係であてはまるものに○をつけてください。



◆ アンケート設問一覧

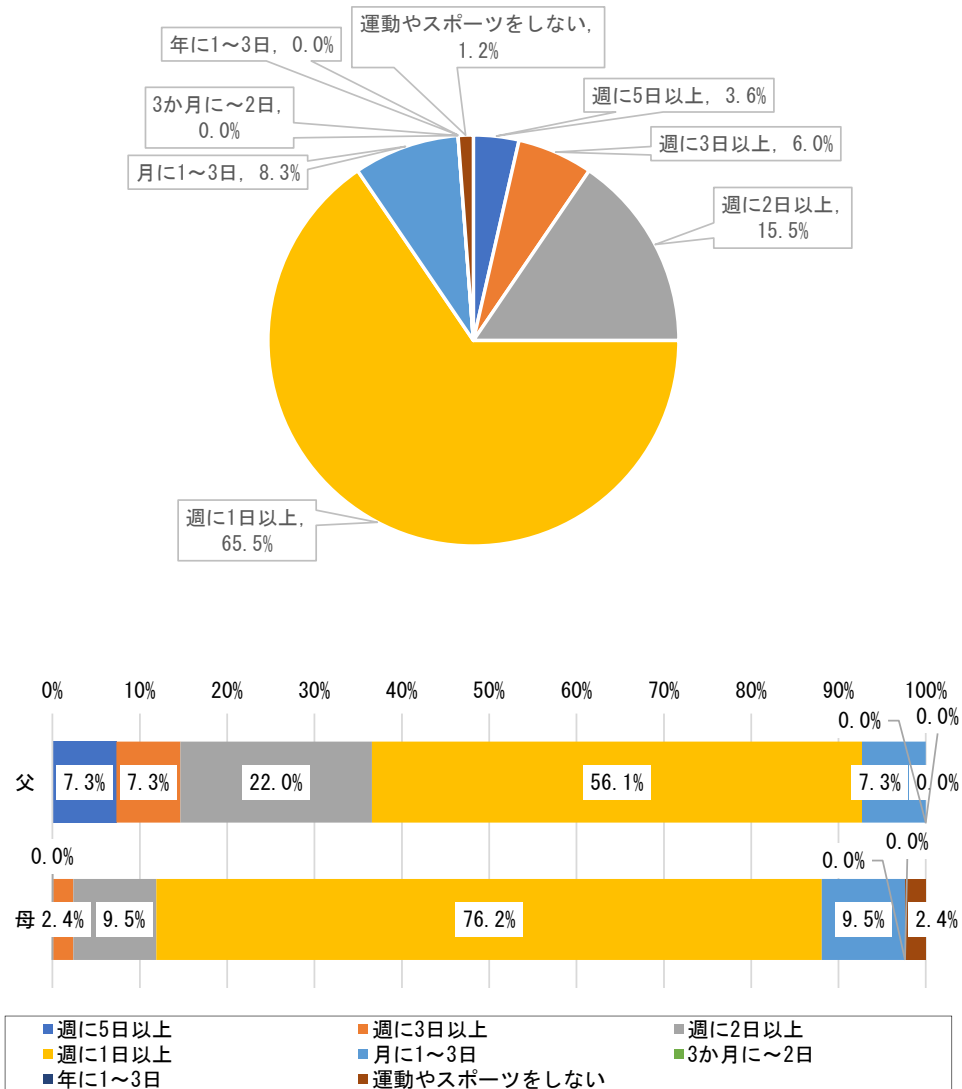
◆ 【A-1】体験イベント：大人／事後

問	質問
1	あなたは今後、運動やスポーツをどのくらい行いたいですか。
2	あなたが1週間のうち、子どもと運動やスポーツをする時間は増えましたか。
3	あなたが1週間のうち、子どもと運動やスポーツの話をする時間は増えましたか。
4	参加後のお子さまの運動やスポーツをする時間は増えましたか。
5	あなたが1日あたり、「家事（育児を含む）」にかかる平均時間を教えてください。育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
6	上記のうち、あなたが1日あたり、「育児」にかかる平均時間を教えてください。育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
7	あなたは今後、アーバンスポーツをしたいと思いますか。
8	お子さまに今後、アーバンスポーツをさせたいと思いますか。
9	あなたは、さいたま市内にBMXやスケートボードなどができる、常設のアーバンスポーツパークがあった場合、利用してみたいと思いますか。
10	今回の体験イベントについてどのように感じましたか。
11	今回の参加費（500円）についてどのように感じましたか。
12	※「PSM分析に基づく適正価格帯を用いた事業性調査結果」参照

◆ アンケート集計結果

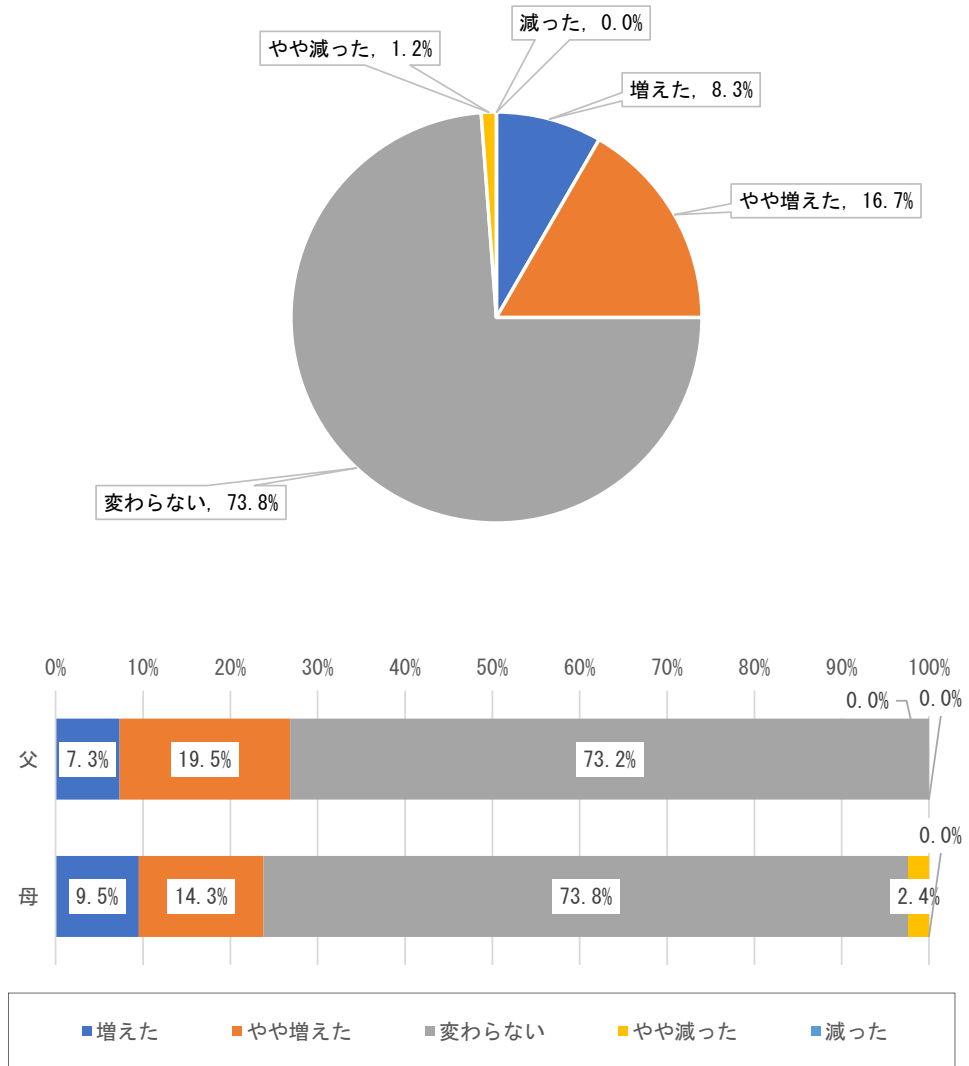
◆ 【事後／大人】問1

あなたは今後、運動やスポーツをどのくらい行いたいですか。



◆ 【事後／大人】問2

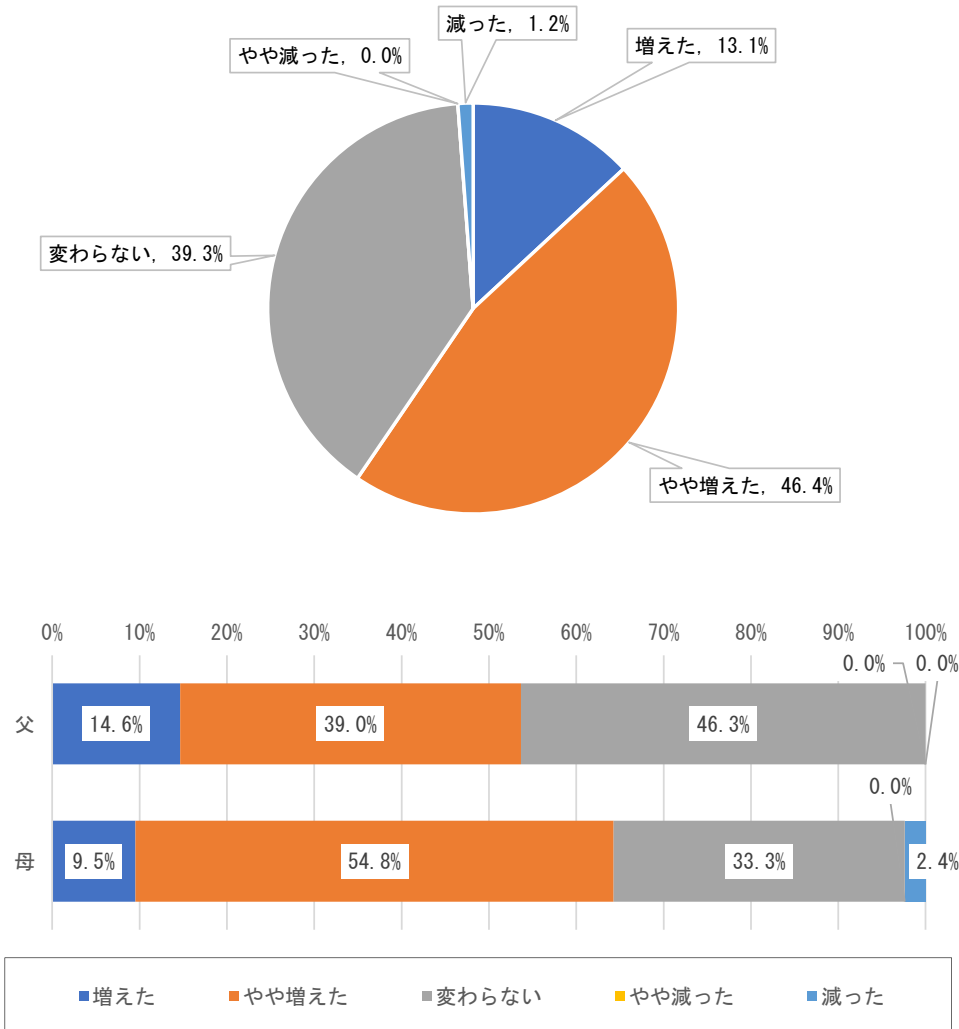
あなたが1週間のうち、子どもと運動やスポーツをする時間は増えましたか。



◆ アンケート集計結果

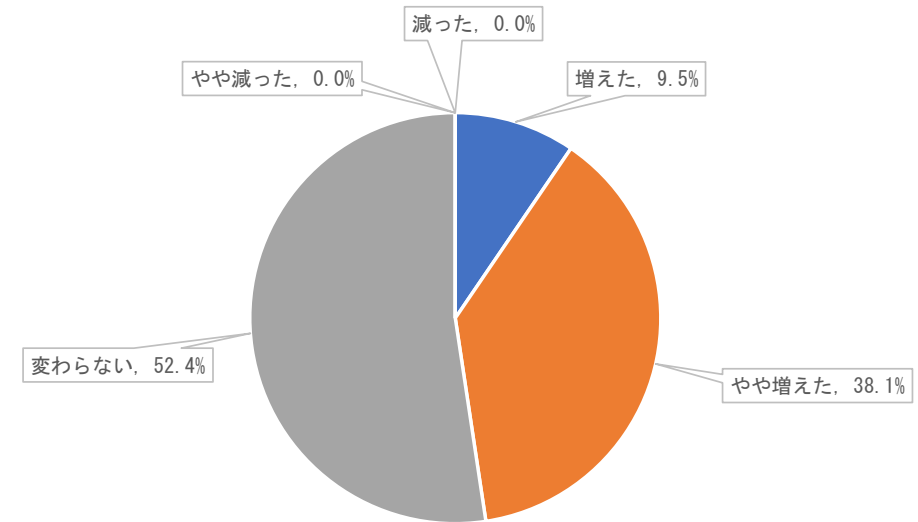
◆ 【事後／大人】問3

あなたが1週間のうち、子どもと運動やスポーツの話をする時間は増えましたか。



◆ 【事後／大人】問4

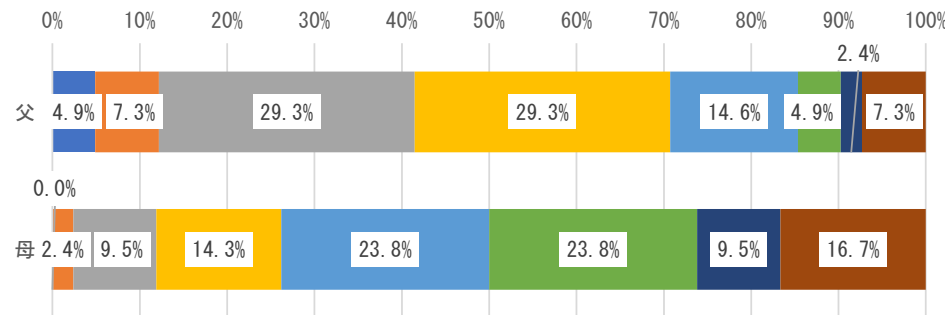
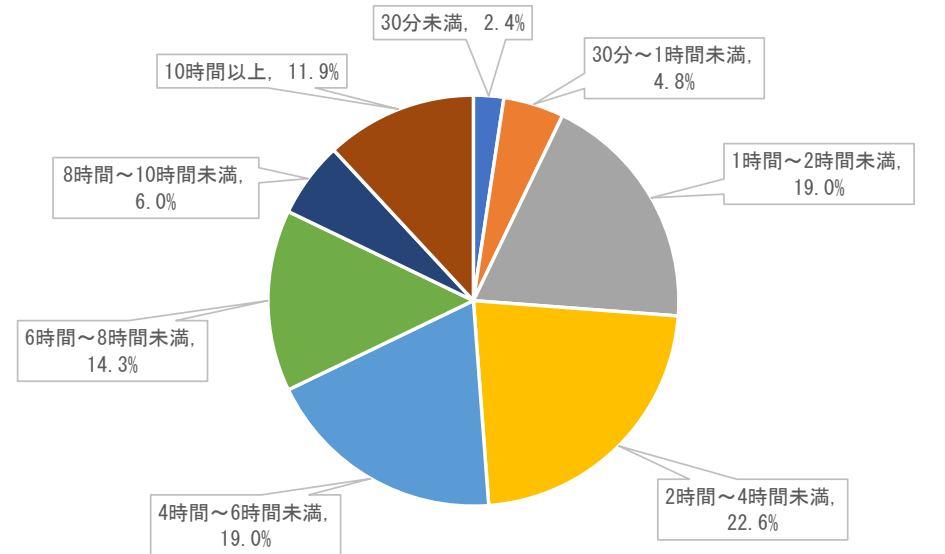
参加後のお子さまの運動やスポーツをする時間は増えましたか。



◆ アンケート集計結果

◆ 【事後／大人】問5

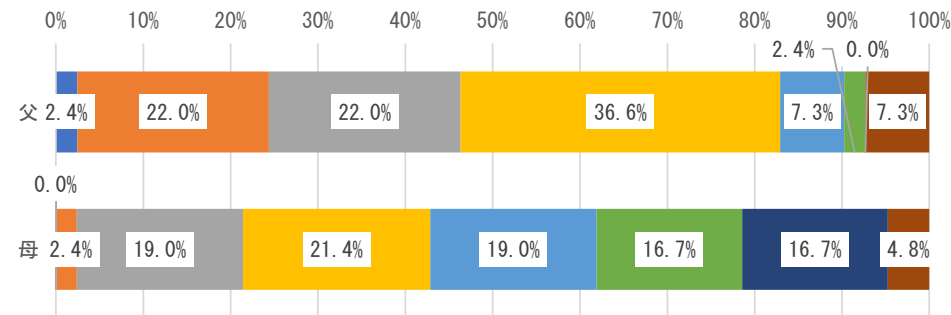
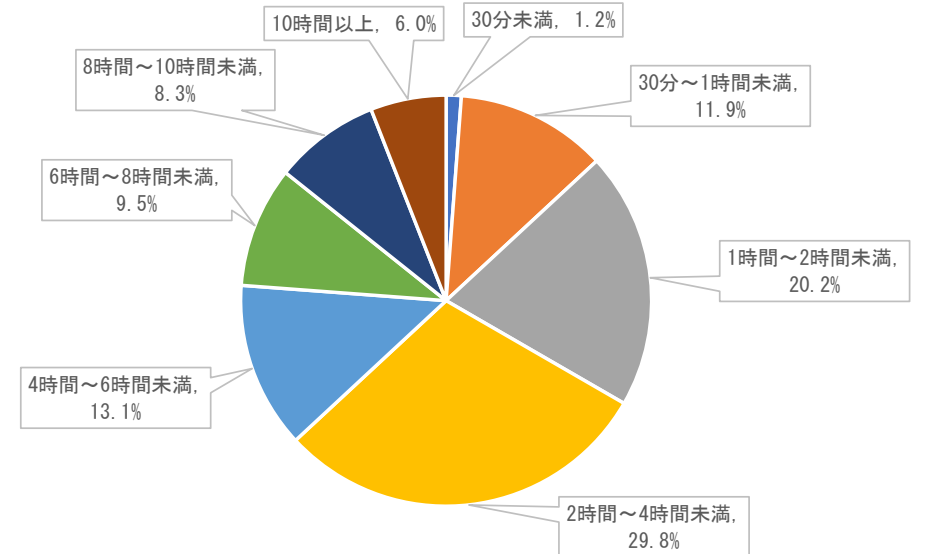
あなたが1日あたり、「家事（育児を含む）」にかかる平均時間を教えてください。
育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。



■ 30分未満 ■ 30分～1時間未満 ■ 1時間～2時間未満 ■ 2時間～4時間未満 ■ 4時間～6時間未満 ■ 6時間～8時間未満 ■ 8時間～10時間未満 ■ 10時間以上

◆ 【事後／大人】問6

上記のうち、あなたが1日あたり、「育児」にかかる平均時間を教えてください。
育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。

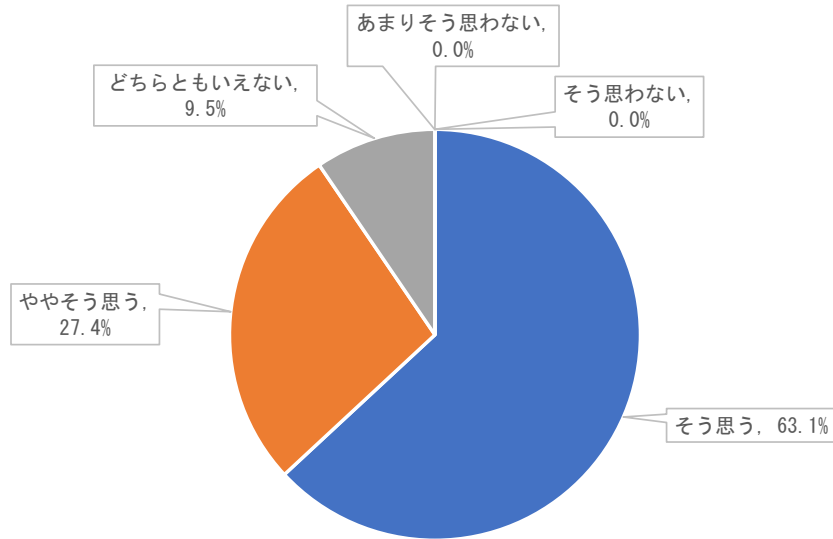


■ 30分未満 ■ 30分～1時間未満 ■ 1時間～2時間未満 ■ 2時間～4時間未満 ■ 4時間～6時間未満 ■ 6時間～8時間未満 ■ 8時間～10時間未満 ■ 10時間以上

◆ アンケート集計結果

◆ 【事後／大人】問7

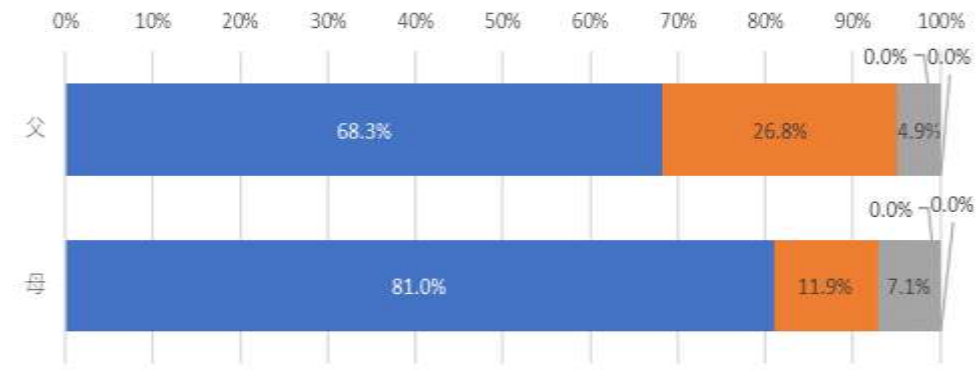
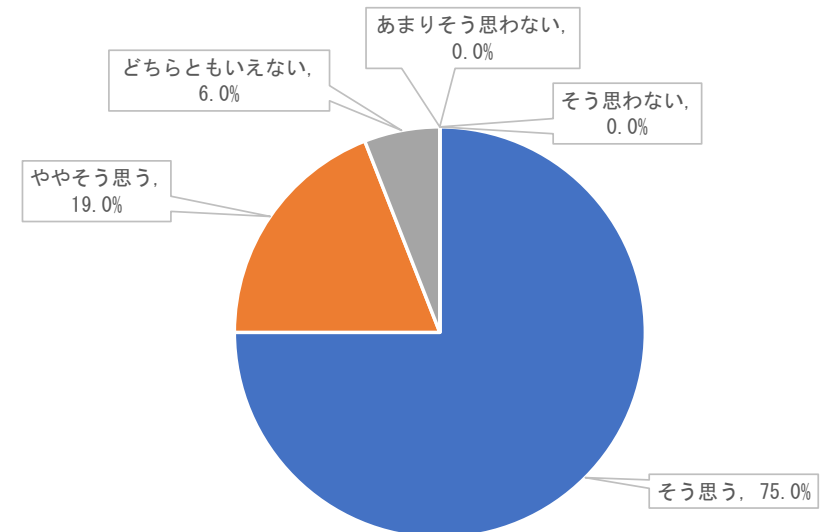
あなたは今後、アーバンスポーツをしたいと思いますか。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

◆ 【事後／大人】問8

お子さまに今後、アーバンスポーツをさせたいと思いますか。

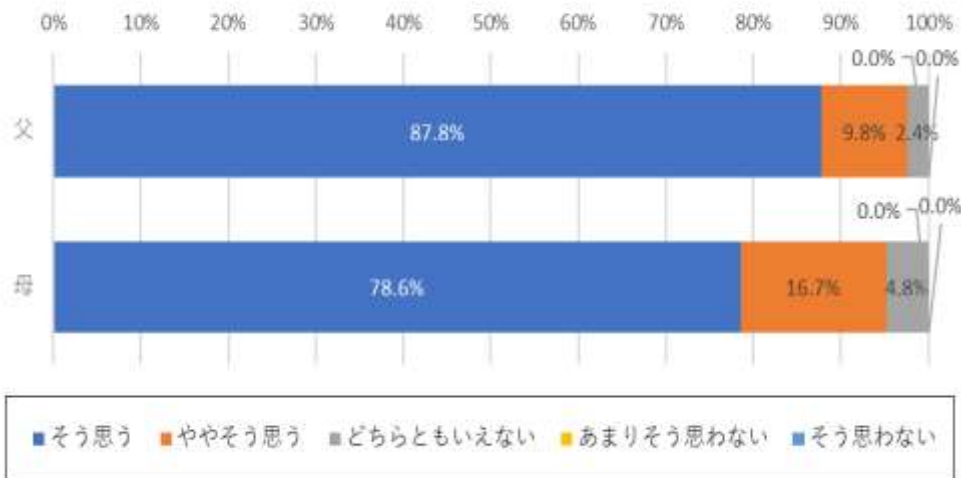
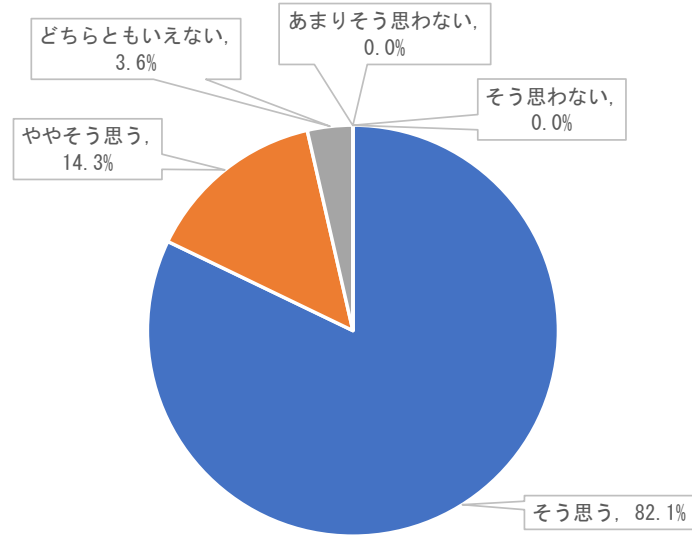


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

◆ アンケート集計結果

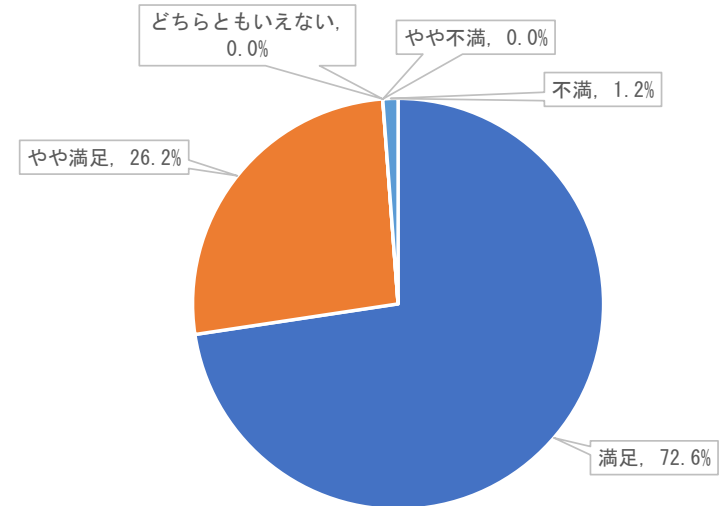
◆ 【事後／大人】 問9

あなたは、さいたま市内にBMXやスケートボードなどができる、
常設のアーバンスポーツパークがあった場合、利用してみたいと思いますか。



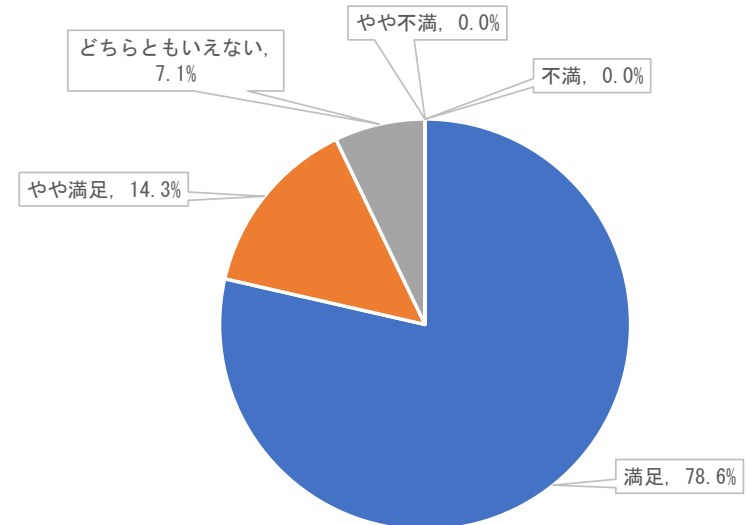
◆ 【事後／大人】 問10

今回の体験イベントについてどのように感じましたか。



◆ 【事後／大人】 問11

今回の参加費（500円）についてどのように感じましたか。



◆ アンケート設問一覧

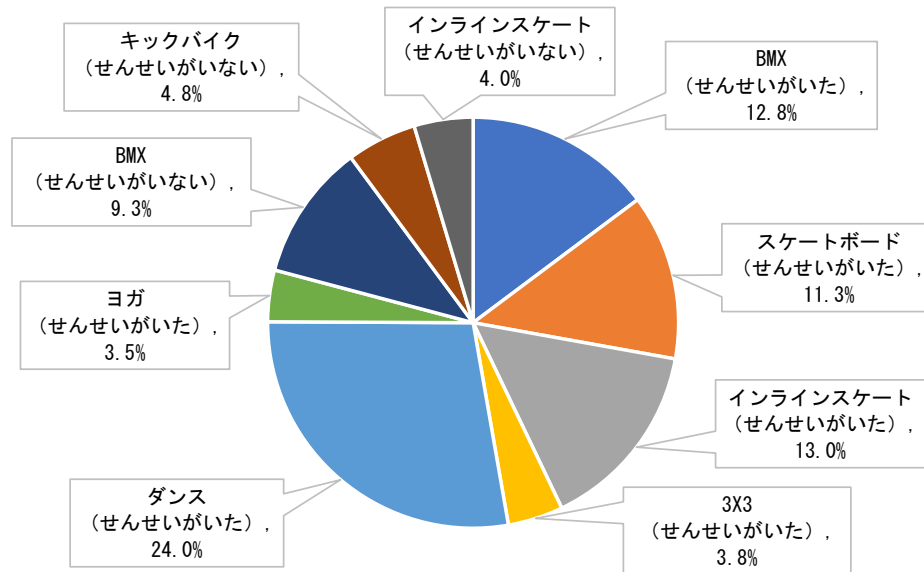
◆ 【A-1】体験イベント：子ども／当日

問	質問
1	今日(きょう)あなたがやってみたスポーツのすべてに○をつけてください。
2	今日(きょう)あなたがやってみたスポーツはたのしかったですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
3	それはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
4	今日(きょう)やったことをきっかけに、うんどうやスポーツがより好きになりましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
5	今日(きょう)やったことをきっかけに、うんどうやスポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
6	今日(きょう)やってみたスポーツを学校(がっこう)でもやりたいとおもいますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
7	今日(きょう)やってみたスポーツをきっかけに、うんどうやスポーツについて家族(かぞく)とおはなししたいですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
8	ア～ウについて、○（ただし） か、×（ただしくない） でこたえてください。
ア	「あそぶとき」だけでなく、おうちからこうえんに「いくとき」も、「かえるとき」も、きんじょのひとにめいわくをかけないようにします。
イ	こうえんでいっしょにアーバンスポーツをしているおともだちに、きもちよく「あいさつ」をします。
ウ	「きんしされているどうろ」じゃなければ、「あるいているひと」がたくさんいても、スケートボードやブレイブボードですべてだいじょうぶです。
9	講師（こうし）の先生(せんせい)のせつめいはわかりやすかったですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
10	あなたはなんさいですか。

◆ アンケート集計結果

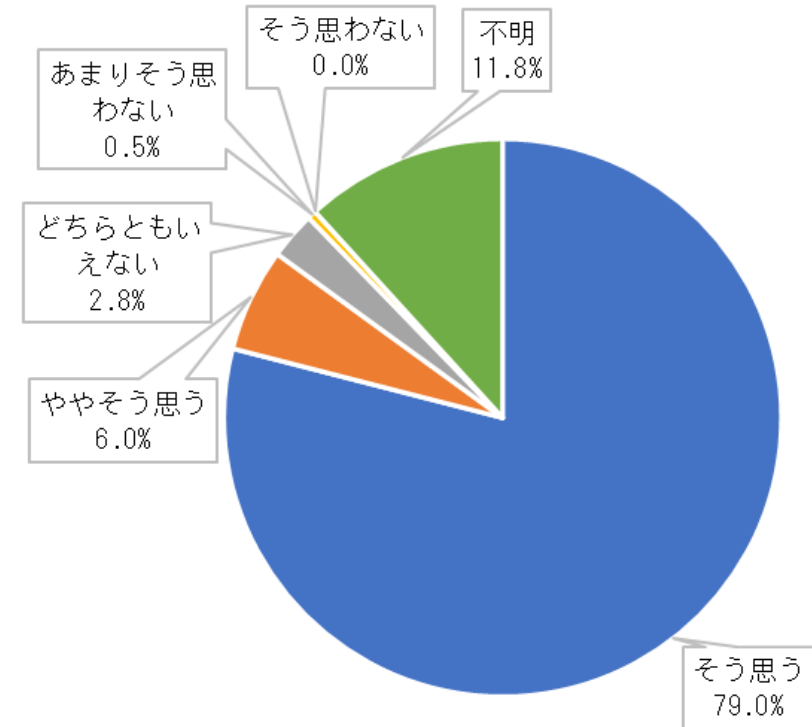
◆ 【当日／子ども】 問1

今日(きょう)あなたがやってみたスポーツのすべてに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問2

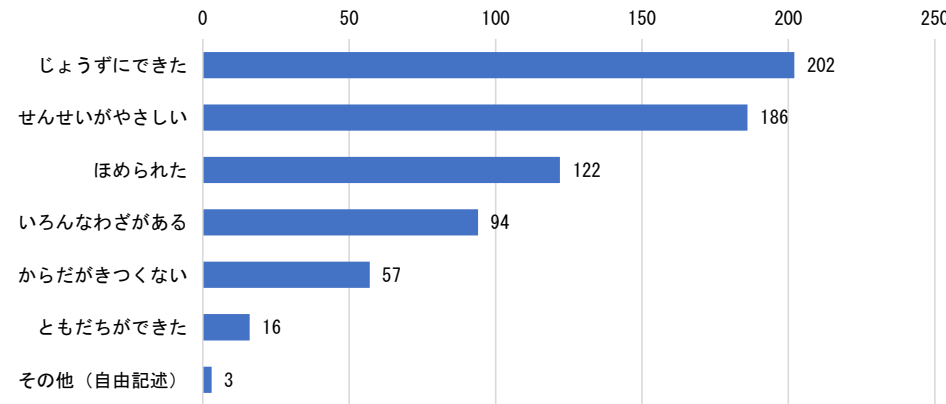
今日(きょう)あなたがやってみたスポーツはたのしかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

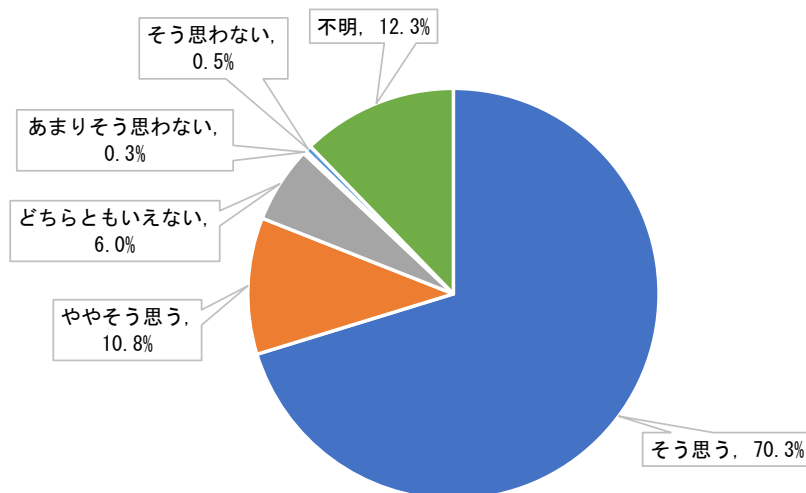
◆ 【当日／子ども】 問3

【問2】はなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



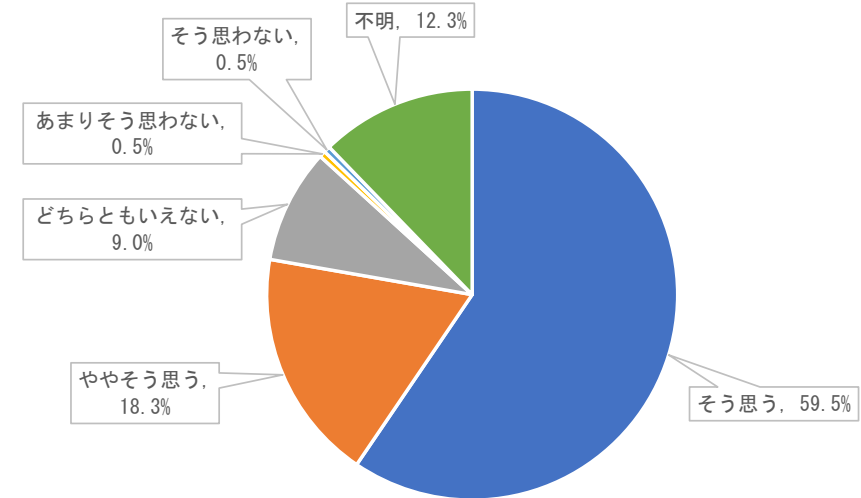
◆ 【当日／子ども】 問4

今日やったことをきっかけに、スポーツがより好きになりましたか。



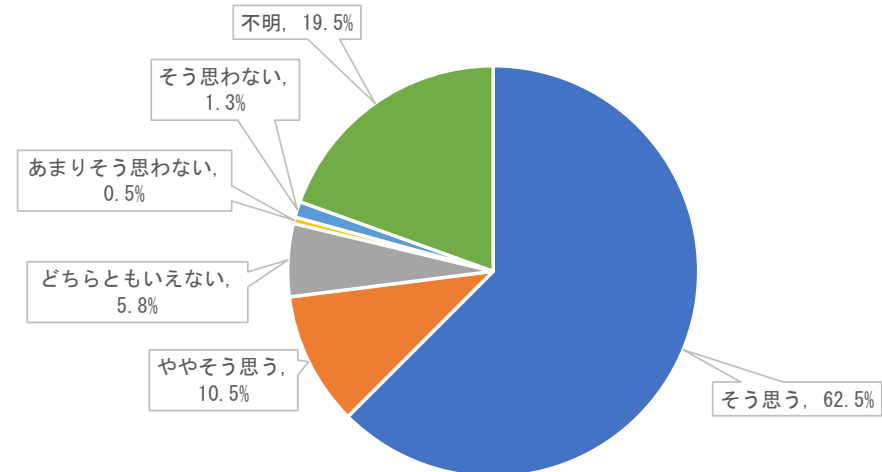
◆ 【当日／子ども】 問5

今日(きょう)やったことをきっかけに、うんどうやスポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問6

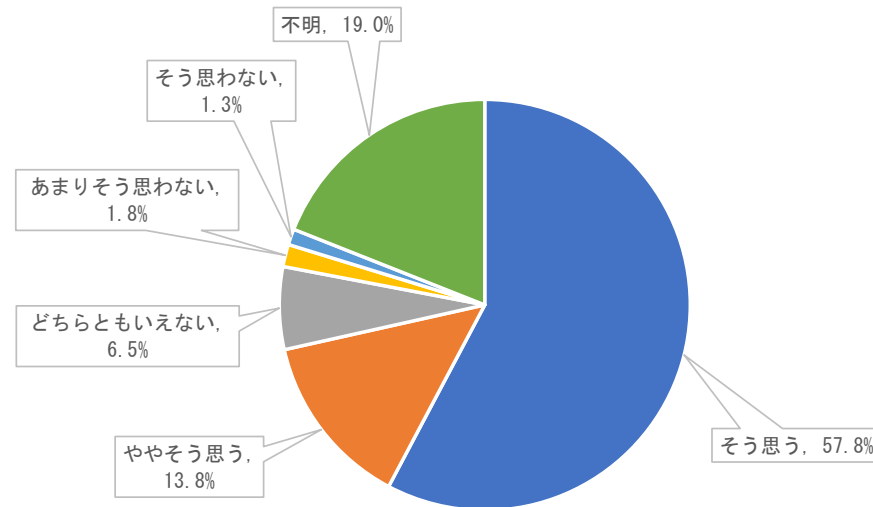
今日(きょう)やってみたスポーツを学校(がっこう)でもやりたいとおもいますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／子ども】 問7

今日(きょう)やってみたスポーツをきっかけに、うんどうやスポーツについて
家族(かぞく)とおはなしたいですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問8ア：○か×を選択してください。

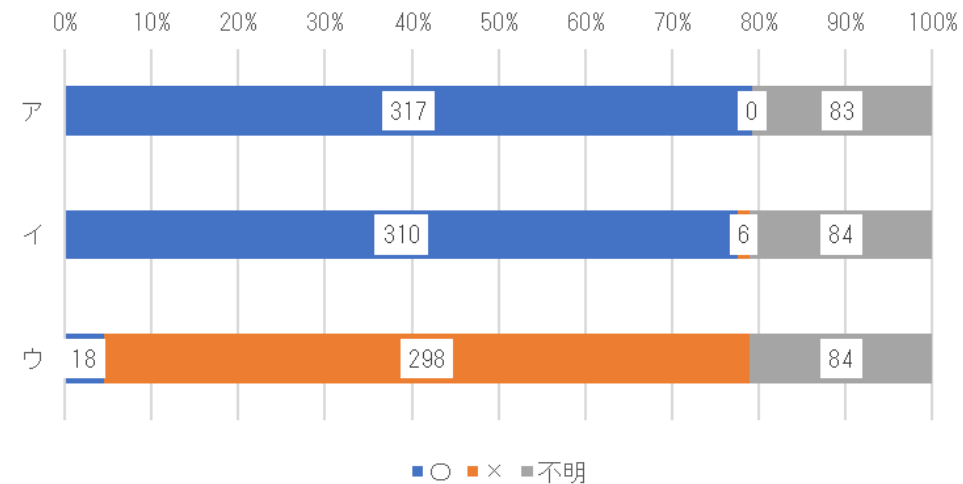
「あそぶとき」だけでなく、おうちからこうえんに「いくとき」も、
「かえるとき」も、きんじょのひとにめいわくをかけないようにします。

◆ 【当日／子ども】 問8イ：○か×を選択してください。

こうえんでいっしょにアーバンスポーツをしているおともだちに、
きもちよく「あいさつ」をします。

◆ 【当日／子ども】 問8ウ：○か×を選択してください。

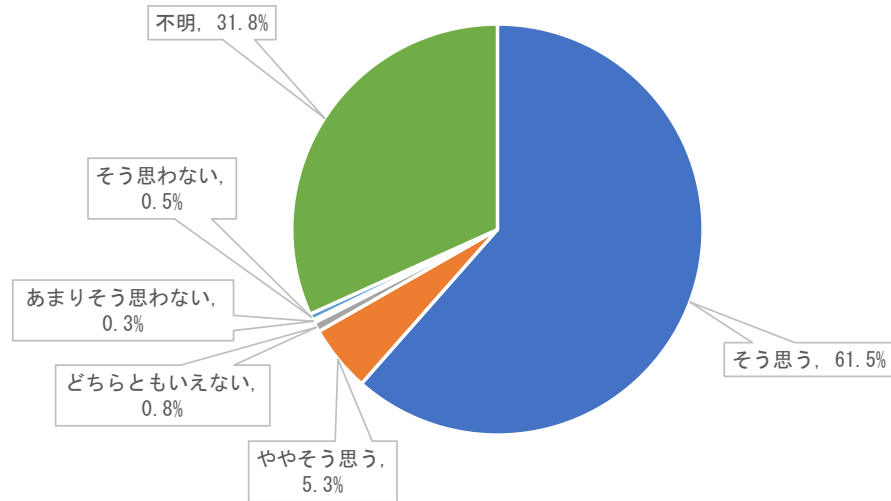
「きんしされているどうろ」じゃなければ、「あるいているひと」がたくさんいても、
スケートボードやブレイブボードですべてだいじょうぶです。



◆ アンケート集計結果

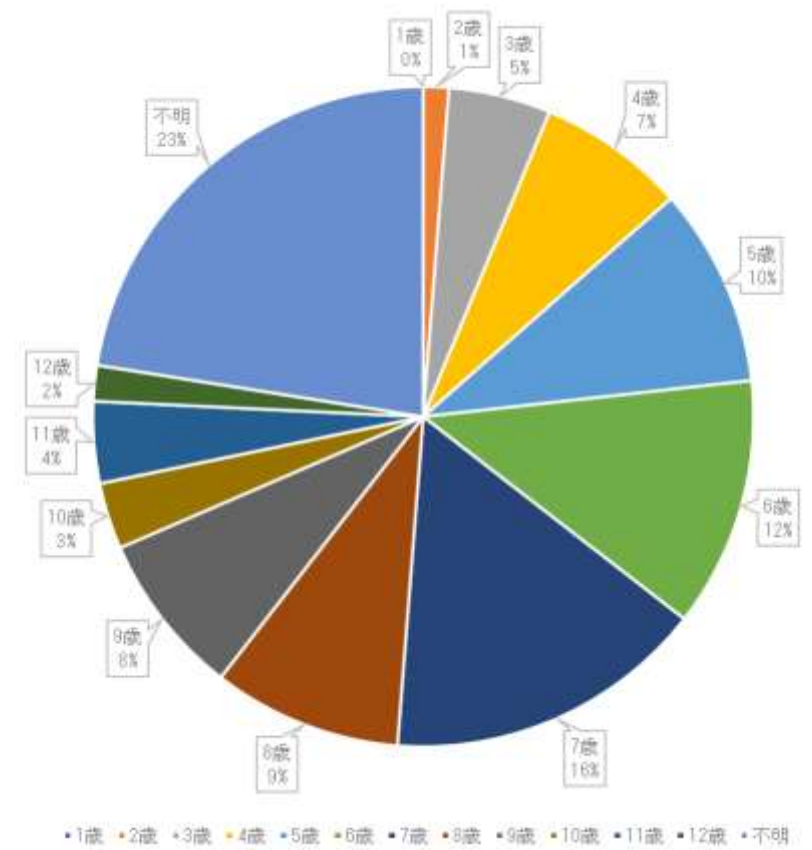
◆ 【当日／子ども】 問9

講師（こうし）の先生(せんせい)のせつめいはわかりやすかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問10

あなたはなんさいですか。



◆ アンケート設問一覧

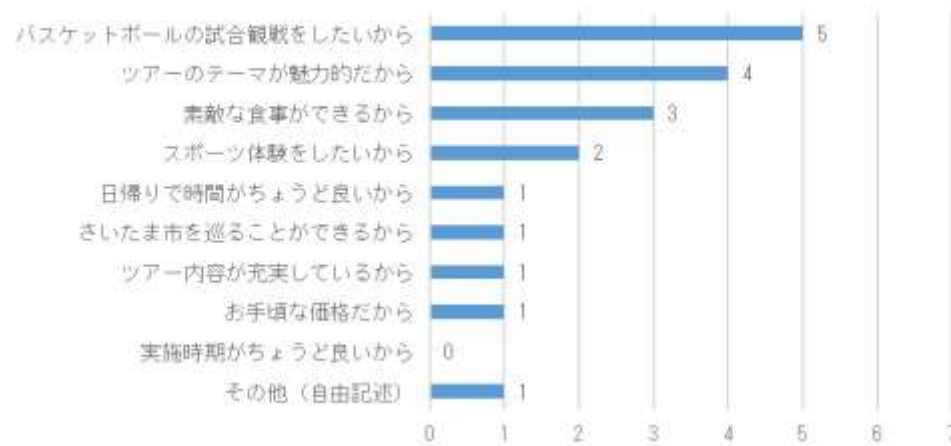
◆ 【B-1】モニターツアー：大人／当日

問	質問
1	今回、ツアーに申し込んだ理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
2	今回のツアーに申し込まれた際に、あなたはツアーに対してどの程度期待されていましたか。項目別にそれぞれ○をつけてください。
3	今回のツアーの参加にあたり、事前の情報は十分なものでしたか。
4	今回のツアーに参加されて、どの程度満足されましたか。項目別にそれぞれ○をつけてください。
5	今回のツアーで満足しなかった点がございましたら、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
6	その他、ツアー内容に関するご意見・改善点等がございましたら、どのようなことでも結構ですのご記入ください。
7	今後、今回のようなツアーにまた参加したいと思いますか。
8	そう思う理由（自由記述）
9	今後、このようなツアーが他にあった場合に、どのようなスポットに行きたいですか。また、どのようなことがしたいですか。自由にお答えください。
10	今回のツアーについて、友人や知人などに薦めたいと思いますか。
11	そう思う理由（自由記述）
12	薦めたい・やや薦めたいと回答された方のみ。今回のツアー内容のどのような点を伝えたいと思いますか。具体的にご記入ください
13	今後、今回訪問した場所にまた訪れたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
14	ツアー代金の価格設定はいかがでしたか。
15	今後、今回のようなツアーに参加した場合のツアー代金についてお伺いします。※ツアー代金は「大人お一人様あたり」とします。
16	ツアー参加後のご予定を教えてください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
17	あなたが普段よく見る又は利用する情報源で、今回のツアー情報の提供に適切だと思われるものにいくつでも○をつけてください。
18	あなたは「さいたま市」に愛着を感じていますか。
19	あなたが思う、さいたま市の魅力やおすすめスポットを教えてください。
20	あなたは今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をしたいと思いますか。
21	お子さまに今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をさせたいと思いますか。
22	あなたは、これまでに「さいたまブロンコス」の公式戦を観戦したことがありますか。
23	さいたまブロンコスの選手の皆さんに応援のコメントをぜひお願いします！
24	「さいたま市内」にある以下の施設、名所、特産品、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。
25	あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】 問1

今回、ツアーに申し込んだ理由は何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



その他

➤ バスケット好きの子どものため

◆ 【当日／大人】 問2

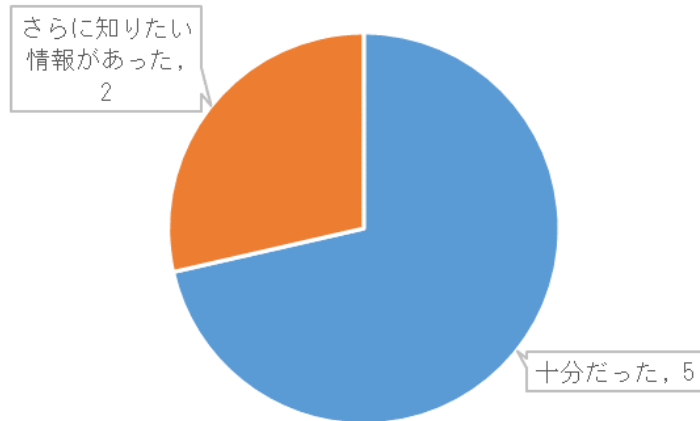
今回のツアーに申し込まれた際に、
あなたはツアーに対してどの程度期待されていましたか。
項目別にそれぞれ○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】 問3

今回のツアーの参加にあたり、事前の情報は十分なものでしたか。

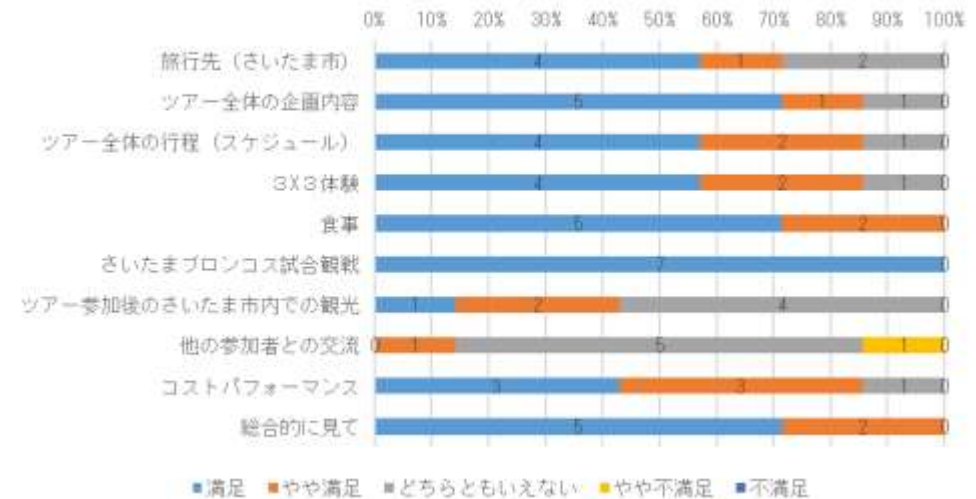


具体的に

- 選手のこと、チームの位置づけ、バスケのルールなど
- ブロンコス情報
- ブロンコスの誰が来るか

◆ 【当日／大人】 問4

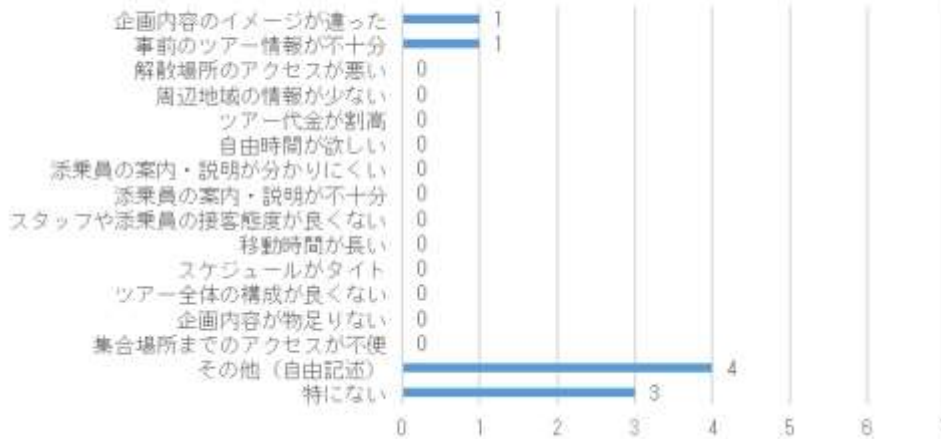
今回のツアーに参加されて、どの程度満足されましたか。
項目別にそれぞれ○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】 問5

今回のツアーで満足しなかった点がございましたら、
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



その他

- 3X3の試合体験ができなかった。
- もっとレッスンっぽいものかと思っていた。
- ツアーの中に応援グッズがあれば良かった。
- バスケットのレベルをもう少し上げた方が子どもも喜ぶと思います。

◆ 【当日／大人】 問6

その他、ツアー内容に関するご意見・改善点等がございましたら、
どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

とても楽しく一日が過ぎて満足です。3X3体験で、子どもと一緒に体を動かして楽しかったです。試合を近くで見られたのは良かったです。お昼もとてもおいしく頂きました。

①決まった集合時間のために間に合せて来ているのだから、定刻で始めるか、遅れるなら一声かけてほしい、10分だけど、今日は風も寒かった。

②昼食後、自由行動するとき、出かける旨をことわりたかったが添乗員がいなかった。

③3X3はこどもへの指導がもっとされるかと思っていた（子どもは楽しんでいたので不満まではいかないが）。

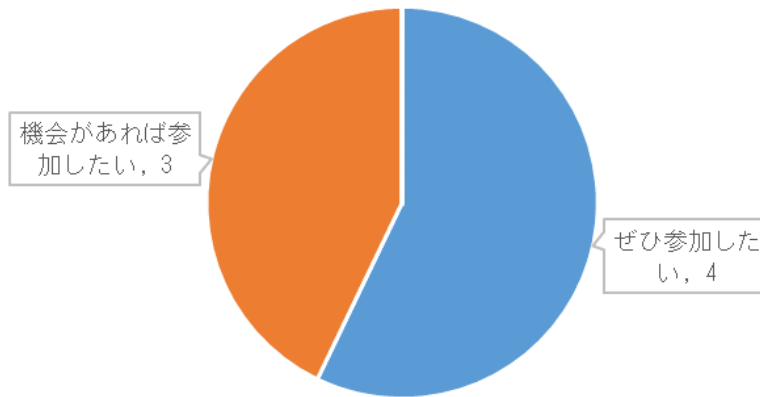
行ってみたいとずっと思っていたが、なかなか機会が無かったので、こういった観戦ツアーは嬉しい。コロナで難しいかもしれないが、選手とのふれあい（グータッチ会）とかがあったら嬉しいです。

ブロンコスの選手と「一緒に」バスケットができるような3X3内容にしたいと思います。子どもにとっては選手からパスをもらうだけでもうれしいと思いますので。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】問7

今後、今回のようなツアーにまた参加したいと思いますか。



◆ 【当日／大人】問8

そう思う理由

- 楽しかったから。また参加したいです。
- ①子どもがスポーツにふれるきっかけになる、②さいたまに愛着がわく、
③地元チームを知ることができた
- 地元のチームの応援は一体感が出て楽しめた。
- バスケ体験や試合をまたしたいと思ったから。
- とても楽しい時間でした。浦和レッズでもこういった企画があると嬉しいです。
- ブロンコスの選手に会えることを子どもが楽しみにしているから。

◆ 【当日／大人】問9

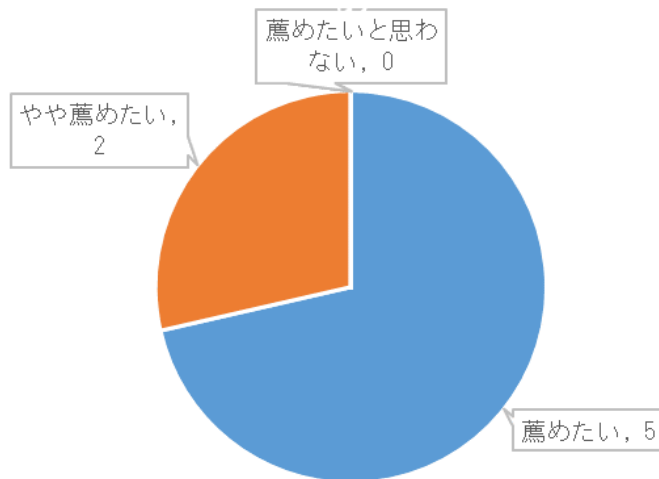
今後、このようなツアーが他にあった場合に、どのようなスポットに行きたいですか。また、どのようなことがしたいですか。自由にお答えください。

他のスポーツ体験ができるスポットや、子どもとコミュニケーションがとれるツアーがあったら良いと思います。
他の種類のスポーツ。
他のスポーツ企画もあればぜひ体験してみたい。
あれこれではなく、バスケット1本でもいいくらいと私達親子は思います。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】問10

今回のツアーについて、友人や知人などに薦めたいと思いますか。



◆ 【当日／大人】問11

(問10) について、そう思う理由

- 充実した1日が過ごせたので
- 楽しかったから
- Q8と同じ
- バスでの移動は楽だし、ゆったりと旅できるので
- バスケットに興味をもってもらいたいから
- 親子で無理なく楽しめるため
- バスケットチームの保護者は興味を持つと思う。

◆ 【当日／大人】問12

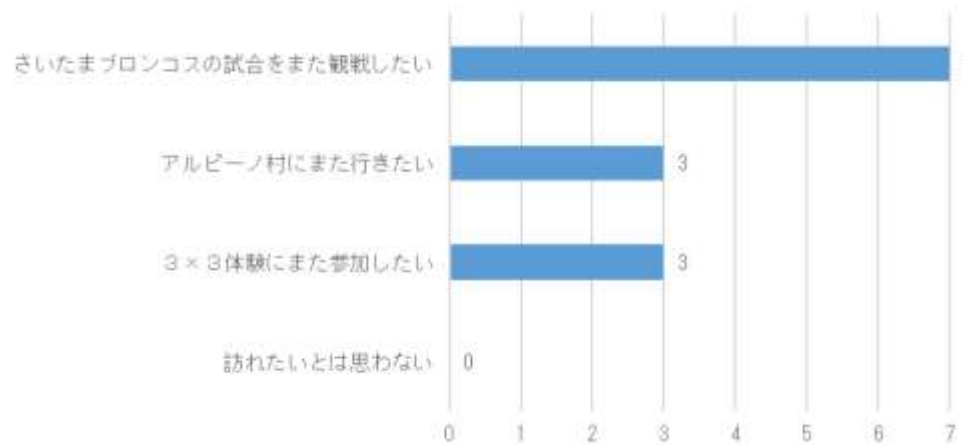
今回のツアー内容のどのような点を伝えたいと思いますか。
(薦めたい・やや薦めたいと回答された方)

- 料金の面でも、子どもと体験できて楽しかったです
- 試合の楽しさやお得に一日過ごせたこと
- Q8と同じ
- 選手とのふれあい、体験が楽しめる
- プロ選手とかかわることができる
- 3X3体験もでき、観戦のセットが良かった
- ブロンコス選手に会えて、一緒にバスケットができる

◆ アンケート集計結果

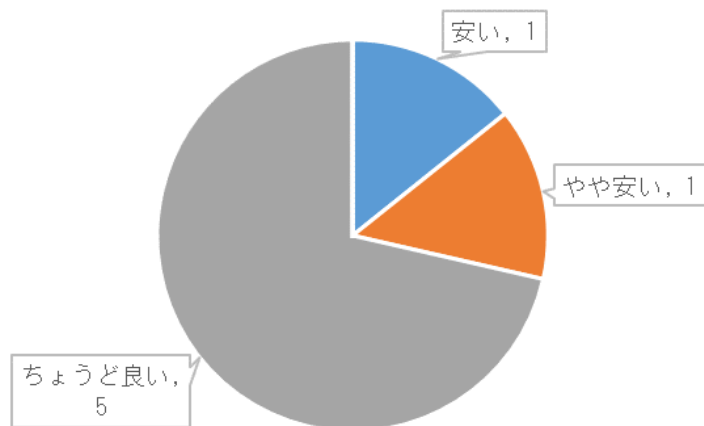
◆ 【当日／大人】 問13

今後、今回訪問した場所にまた訪れたいと思いますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



◆ 【当日／大人】 問14

ツアー代金の価格設定はいかがでしたか。

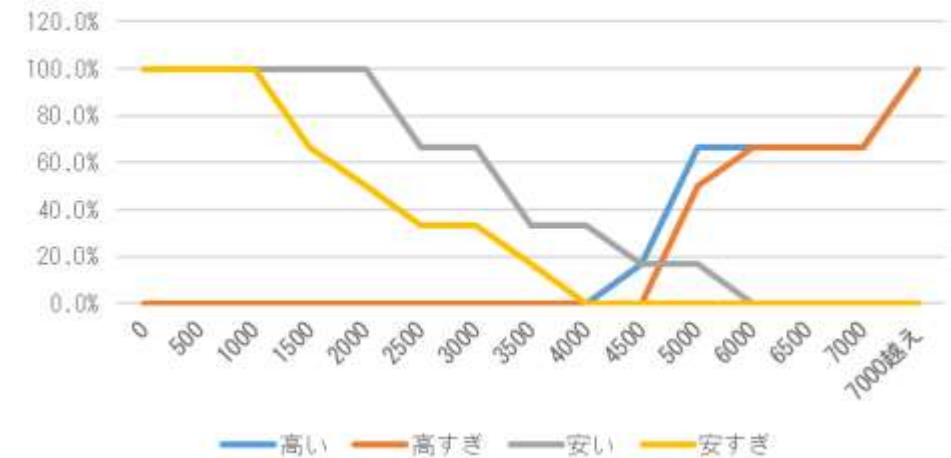


◆ 【当日／大人】 問15

今後、今回のようなツアーに参加した場合のツアー代金についてお伺いします。
※ツアー代金は「大人お一人様あたり」とします。

- ア. このツアーについて、いくらくらいから「高い」と感じますか。
イ. このツアーについて、いくらくらいから「高すぎて参加できない」と感じますか。
ウ. このツアーについて、いくらくらいから「安い」と感じますか。
エ. このツアーについて、いくらくらいから「安すぎて少し不安」と感じますか。

設問	0円	500円	1000円	1500円	2000円	2500円	3000円	3500円	4000円	4500円	5000円	6000円	6500円	7000円	7000円 超え
高いと思いつめる価格	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	16.7%	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%	100%
高すぎて参加できない価格	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50.0%	66.7%	66.7%	66.7%	100%
安いと思いつめる価格	100%	100%	100%	100%	100%	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0%	0%	0%	0%
安すぎて不安を感じる価格	100%	100%	100%	66.7%	50.0%	33.3%	33.3%	16.7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%



〈結果〉(N=6)

最低品質保証価格：4,000円

理想価格：4,500円

妥協価格：4,500円

最高価格：4,667円

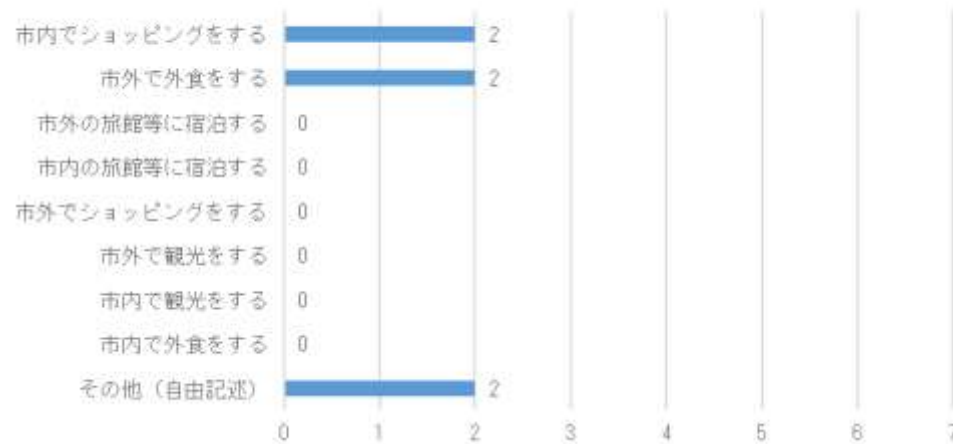
適正価格帯：4,500円

受容価格帯：4,000円～4,667円

◆ アンケート集計結果

◆【当日／大人】問16

ツアー参加後のご予定を教えてください。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



その他

- 家に帰る
- 特になし

◆【当日／大人】問17

あなたが普段よく見る又は利用する情報源で、
今回のツアー情報の提供に適切だと思われるものにいくつでも○をつけてください。



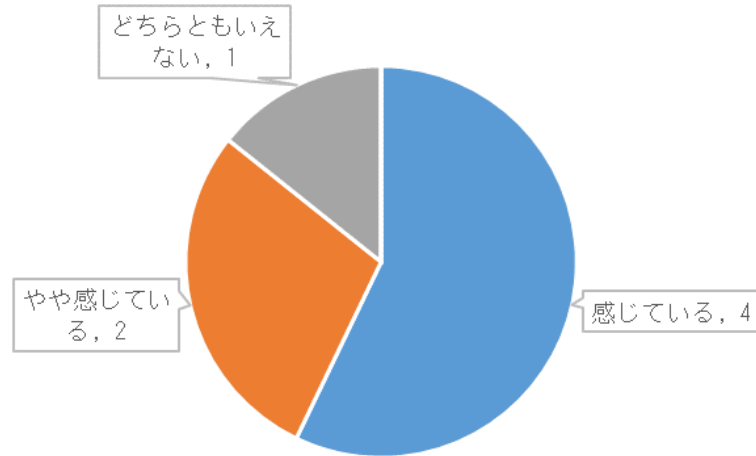
その他

- スマホのニュースアプリ

◆ アンケート集計結果

◆【当日／大人】問18

あなたは「さいたま市」に愛着を感じていますか。



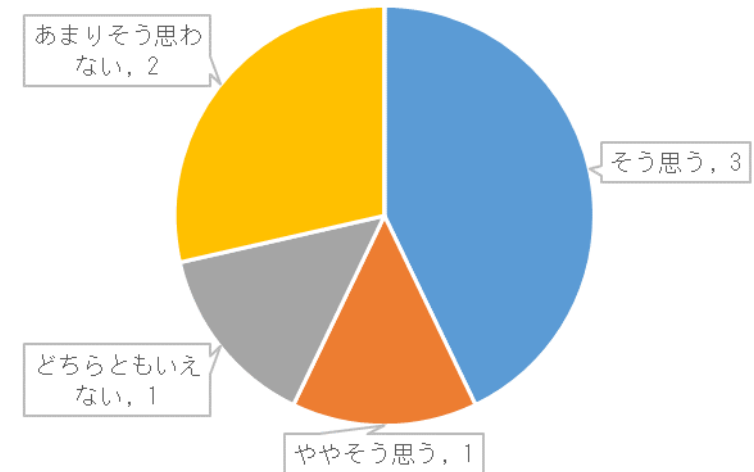
◆【当日／大人】問19

あなたが思う、さいたま市の魅力やおすすめスポットを教えてください。

- 交通、ショッピングが充実していて良いと思います
- 秩父などの自然が多いスポット
- 教育、買い物、医療など住むのに必要なものがバランスよくある、自然も近い
- 元気がある、ホームチームがある
- 住んでいるので（10年以上）

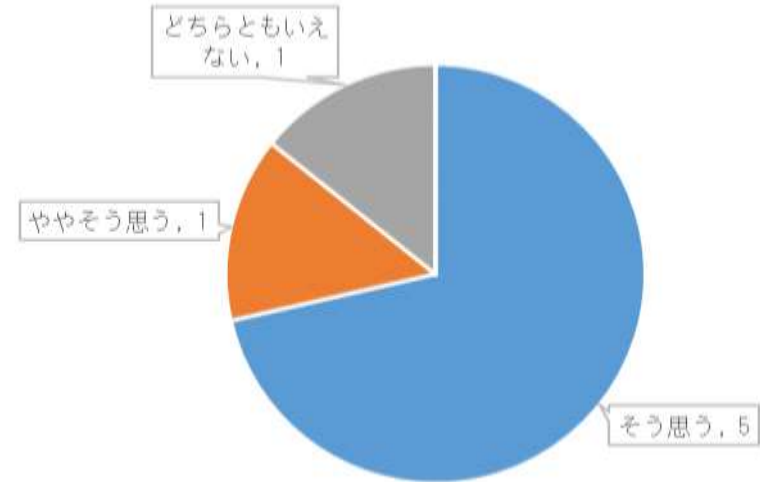
◆【当日／大人】問20

あなたは今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をしたいと思いますか。



◆【当日／大人】問21

お子さまに今後、バスケットボール（「3×3」などの5人制以外の競技も含む）をさせたいと思いますか。

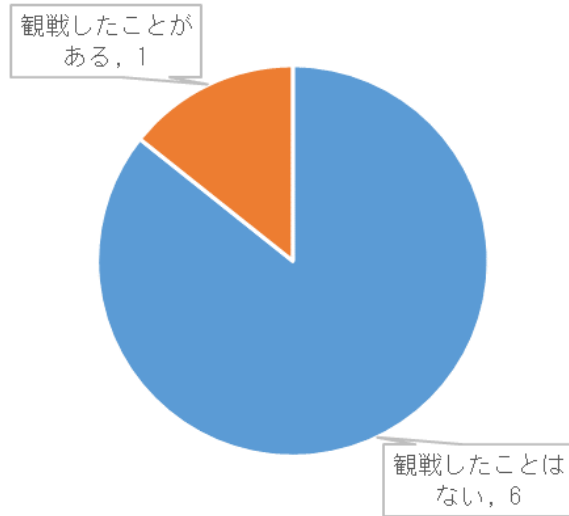


◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】問22

あなたは、これまでに「さいたまブロンコス」の公式戦を観戦したことがありますか。

回数：5回



◆ 【当日／大人】問23

さいたまブロンコスの選手の皆さんに応援のコメントをぜひお願いします！

初めて試合を見ました。会場の一体感素敵でした。
熱い試合をこれからもがんばってください。応援しています。
遊んでもらってから観戦したので身近に感じられました。
これからもがんばってください。
熱い試合をありがとうございました。また観戦したいです。
楽しかったです。
元気がもらえました！がんばってください！！
14番佐藤選手の3Pしびれました！
いつも応援しています

◆ 【当日／大人】問24

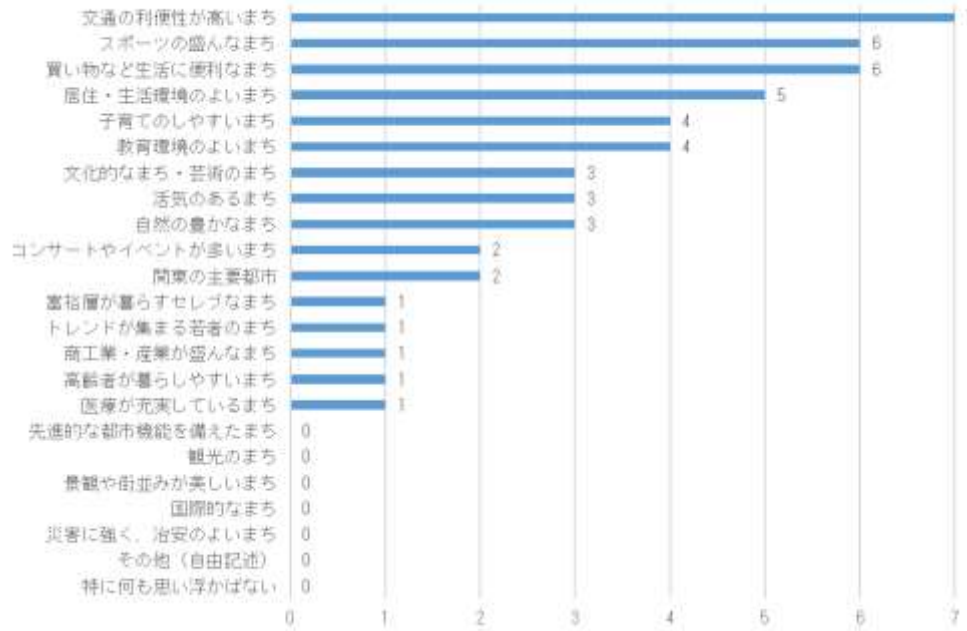
「さいたま市内」にある以下の施設、名所、特産品、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。



◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／大人】問25

あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



◆ アンケート設問一覧

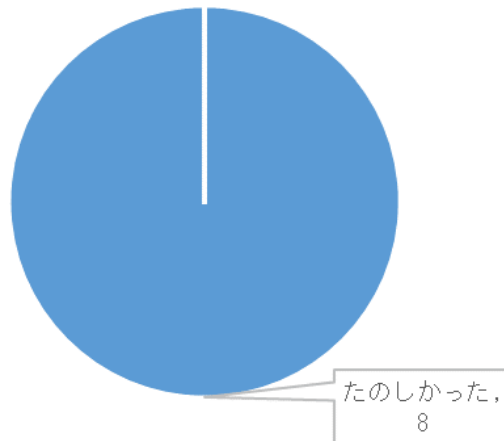
◆ 【B-1】モニターツアー：子ども／当日

問	質問
1	こんかいのツアーはたのしかったですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
2	よろしければ、1でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。
3	ツアーのうち、「3×3たいけん」はたのしかったですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
4	よろしければ、3でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。
5	ツアーのうち、「おひるごはん」のないようはどうでしたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
6	よろしければ、5でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。
7	ツアーのうち、「さいたまブロンコス」のしあいのはたのしかったですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。
8	よろしければ、7でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。
9	こんご、こんかいのようなツアーのなかで、どのようなスポットにいてみたいですか。また、どのようなことがしたいですか。じゆうにおこたえください。
10	さいたまブロンコスのせんしゅにおうえんコメントをおねがいします！

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／子ども】 問1

こんかいのツアーはたのしかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問2

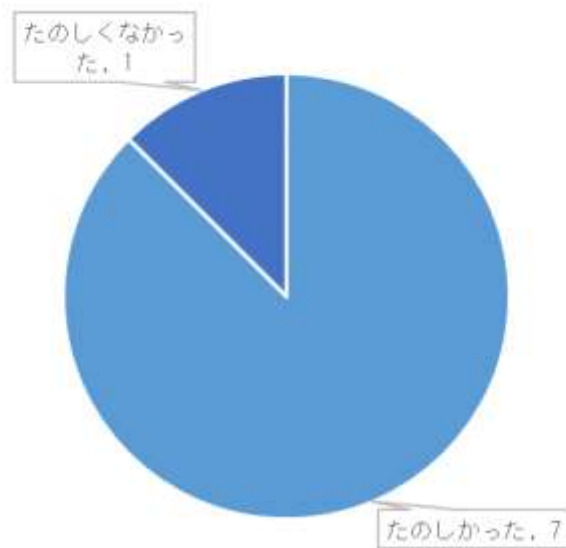
よろしければ、1 でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。

- 初のバスケの試合が見れたから。
- 3X3体験とか、コロナかの中で、こういうツアーがあったのしかった。
- しあいも見れたし、ごはんもおいしかったです。たいけんでブロンコスの選手がきてくれたから。
- お昼はおいしかったしレッスンの時もたのしかったし、し合が見れてよかったです。
- アーバンスポーツの時、たくさんほめられてうれしかったからです。
- 最初の3X3たいけんは、すごく楽しかったし、お昼ごはんもとても美味しかったです。最後はさいたまブロンコスの試合が見れて嬉しかったです。
- ブロンコスがかったから。
- 子どもが楽しんでいる様子でした。「試合が見れてよかった」とのことです。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／子ども】 問3

ツアーのうち、「3×3たいけん」はたのしかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問4

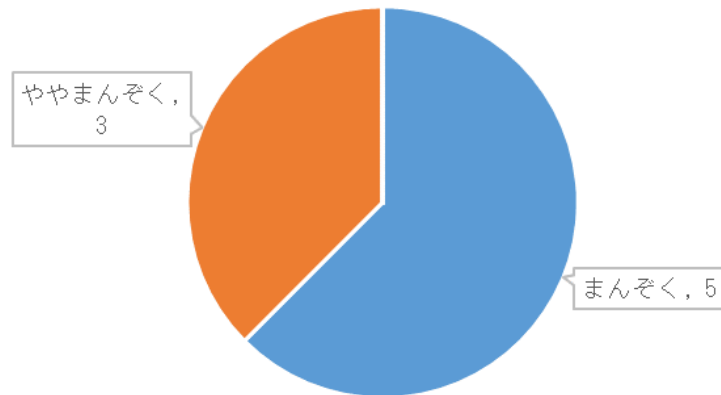
よろしければ、3でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。

- プロ選手（はた選手）に教えていただいたから。
- はたさんがドリブルやパスをおしえてくださったから。
- はた選手がいろいろとおもしろいことをしてくれたから。
- たのしいことがたくさんあったし、うまくできるきがしてきたから。
- たくさんほめられたし、シュートをけっこう入れられたから。
- さいたまブロンコスのはた選手にバスケットを楽しく教えてもらえて、楽しかったです。
- シュートがむずかしかったから。
- もっとレベルを上げてもいいかと思いました。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／子ども】 問5

ツアーのうち、「おひるごはん」のないようはどうでしたか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問6

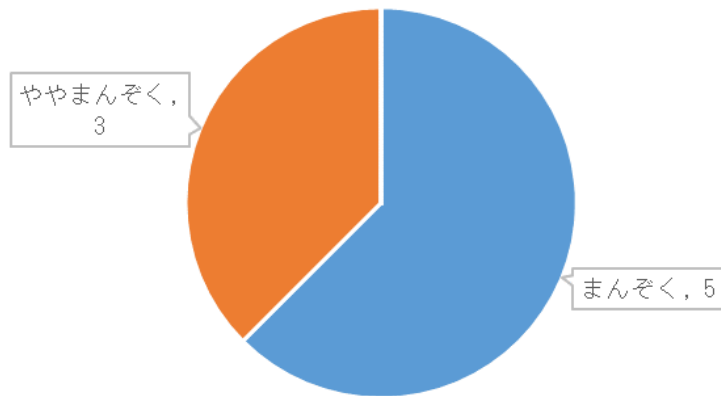
よろしければ、5 でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。

- お肉やサラダなどがおいしかった。
- すてーき屋さんだけでなくほかのお店のごはんも食べられたから。
- ローストビーフどんはおいしくて、ケーキやさんやギャラリーにいったから。
- すてきでおいしかったから。
- ステーキ丼やオレンジジュースがとても美味しかったです。
- おにくがおいしかったから。
- 「つけもの」はまいちのような様子でした。

◆ アンケート集計結果

◆ 【当日／子ども】 問7

ツアーのうち、「さいたまブロンコス」のしあいはたのしかったですか。
あてはまるものひとつに○をつけてください。



◆ 【当日／子ども】 問8

よろしければ、7でおこたえいただいたりゆうをおしえてください。

- テレビで見るより生で見るほうがはくりよくがあったから。
- いろいろなプレーが見れたし、全力でおうえんできたから。
- はじめてみてプロはこんなしをしていたのが見てるとたのしかったから。
- せん手のかたがたがこうふんするようなせっせんをくり広げてくれたから。
- 試合のと中、せっせんでおいつかれそうになったけど、最後は勝って嬉しかったです。
- ブロンコスが好きだから。

◆ アンケート集計結果

◆【当日／子ども】問9

こんご、こんかいのようなツアーのなかで、どのようなスポットにいてみたいですか。
また、どのようなことがしたいですか。じゅうにおこたえください。

埼玉県のかんこうスポットに行ってみたい。みんなと遊んだりしたい。

もっといろいろなことをバスケットでしりたい。大きなバスケット会場に行きたい。

ほかのスポーツ

せん手ともっと話したい。

今日みたいに、また試合を見たり、3X3体験をしたいです。

「選手とバスケットがしたい」とのことです。もっとボールを選手とパスし合えるような感じがいいようです。

◆【当日／子ども】問10

さいたまブロンコスのせんしゅにおうえんコメントをおねがいします！

Bリーグでゆうしょう目ざしてがんばってください。おうえんしています。

Bリーグがんばってください。また、ハラハラ・ドキドキの試合をおねがいします。応えんしています。

はた選手へひざをけがしたときいたので、はやくふっきして活やくしてください。さとう選手へ今日は3ポイントをたくさんきめていてかっこよかったです。これからもおうえんしています。

これからもがんばってかちぬいてください。これからもおうえんしているのでバスケット界でとてもうまいチームになってください。

みなさん日本一になれるようにがんばってください。楽しかったです。

これからも勝ち続けてください！おうえんしてます！

これからもがんばってください。